

令和 5 年度

教職課程

自己点検・評価報告書

玉川大学

令和 6 年 11 月

玉川大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

- ・文学部 国語教育学科（中・高 国語）、英語教育学科（中・高 英語）
- ・農学部 生産農学科（中・高 理科、高 農業）
- ・工学部 情報通信工学科（中・高 数学、高 工業）、ソフトウェアサイエンス学科（中・高 数学、高 工業）、マネジメントサイエンス学科（中・高 数学）、デザインサイエンス学科（中・高 数学、中 技術、高 工業）

※デザインサイエンス学科は令和5年度入学生より設置

- ・教育学部 教育学科（幼、小、中 社会、中・高 保健体育、高 地理歴史・公民）、教育学科通信教育課程（幼、小、中 社会、高 地理歴史・公民）、乳幼児発達学科（幼）

※乳幼児発達学科は保育士資格も取得可能

- ・芸術学部 音楽学科（中・高 音楽）、アート・デザイン学科（中・高 美術、高 工芸）

・大学院

文学研究科 人間学専攻（中 社会、高 公民）、英語教育専攻（中・高 英語）

農学研究科 資源生物学専攻（中・高 理科、高 農業）

工学研究科 機械工学専攻（高 工業）、電子情報工学専攻（中・高 数学、高 工業）

教育学研究科 教育学専攻（幼、小）、教職専攻【教職大学院】（小、中 社会・技術、中・高 国語・英語・理科・数学・音楽・美術・保健体育・保健・家庭、高 農業・工業・情報・地理歴史・公民・工芸）

- ・芸術専攻科 芸術専攻（中・高 音楽・美術）

※学部は一種免許、大学院・芸術専攻科は専修免許

※ダブル免許プログラム：文学部・農学部・工学部・芸術学部では、中・高一種免許状に加え、小二種免許状取得が可能。教育学部教育学科では、小一種免許状に加え、中二種免許状（国語・英語・理科・数学・音楽・美術・技術）、高一種免許状（情報）の取得が可能。

大学としての全体評価

玉川大学は、全人教育の理念のもと、これまで学生たちの教育・研究に取り組んできました。とりわけ教員養成においては、全人格を完成させた教師を世に送り出すべく、文学部・文学研究科、農学部・農学研究科、工学部・工学研究科、教育学部・教育学研究科、芸術学部・芸術専攻科にて、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教員免許状取得のための教職課程を提供しています。

本学における教員養成では、上述した教育理念に加えて、「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」という教師訓と、「進みつつある教師のみ人を教うる権利あり」という教師として生涯学び続けるためのモットーを中核に据えています。教職を志望する学生たちに限らず、教員養成課程を担う我々大学教員も同様に、教師訓と教師としてのモットーを胸に、日々の教育活動に取り組んでいます。

創立者・小原國芳は、自著『師道』において、「教育の結論は、教師であります。」と記しています。そして、「学校の最大最高の宝は実に、優秀なる教師です。」とも述べています。未来を担う若き世代の教育のために、誠心誠意教職に向き合える教師となることを本学の学生たちには期待しています。やがて本学を巣立ち、園児、児童、生徒たちのために全身全霊で打ち込む教師として教壇に立つ日を夢見る学生たちを、これからも大切に教え育み、導きつづける手を休めることがないよう、今後も邁進する所存です。

令和 6 年 11 月
玉川大学 学長 小原 一仁

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	5
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	5
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	11
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	16
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	21
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	22
V	現況基礎データ一覧	23

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

(1) 大学名：玉川大学

(2) 学部名：文学部、農学部、工学部、教育学部、芸術学部

文学研究科、農学研究科、工学研究科、教育学研究科

芸術専攻科

(3) 所在地：東京都町田市玉川学園 6-1-1

(4) 学生数及び教員数

(令和 5 年 5 月 1 日現在)

学生数：(学部)

文学部	教職課程履修	405 名／学部全体	532 名
農学部	教職課程履修	106 名／学部全体	944 名
工学部	教職課程履修	180 名／学部全体	945 名
教育学部	教職課程履修	1,295 名／学部全体	1,330 名
芸術学部	教職課程履修	113 名／学部全体	972 名

(大学院)

文学研究科	教職課程履修	4 名／研究科全体	6 名
農学研究科	教職課程履修	2 名／研究科全体	30 名
工学研究科	教職課程履修	1 名／研究科全体	24 名
教育学研究科	教職課程履修	51 名／研究科全体	66 名
(内 教職大学院	教職課程履修	35 名／研究科全体	35 名)

(専攻科)

芸術専攻科	教職課程履修	0 名／専攻科全体	1 名
-------	--------	-----------	-----

教員数：(学部)

文学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）17名

／学部全体 21名

農学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）15名

／学部全体 47名

工学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）25名

／学部全体 42名

教育学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）37名

／学部全体 52名

芸術学部 教職課程科目担当（教職・教科とも）24名

／学部全体 40名

(大学院)

文学研究科 教職課程科目担当（教職・教科とも）14名

／研究科全体 14名

農学研究科 教職課程科目担当（教職・教科とも）21名

／研究科全体 36名

教育学研究科 教職課程科目担当（教職・教科とも）19名

／研究科全体 33名

（内 教職大学院 教職課程科目担当（教職・教科とも）11名

／研究科全体 11名）

(専攻科)

芸術専攻科 教職課程科目担当（教職・教科とも）11名

／専攻科全体 11名

2 特色

本学は「全人教育」を教育理念として掲げ、「真・善・美・聖・健・富」の6つの価値の調和を追求し、単に知識や技術を修得するのではなく、絶えず新しい知識を主体的に求める姿勢、もてる知識を正しく使う倫理観を育み、健やかな社会人となるべく教育活動を展開し、バランスの良い人間形成を行っている。また、本学で得られる学びは多岐にわたっており、それぞれの専門性を深めることができるだけでなく、専門とは異なる分野についても学部を横断した学際的な学びが実現できる柔軟なシステムが採られ、本学の特徴の一つになっている。この恵まれた学習環境のもと、一人の「人」としてしっかりと自立し、かつ自律できる社会人を育成していくことに努めている。

教員養成は、5学部11学科（通信教育課程を含む）、大学院4研究科、1専攻科において行われており、これまでに6,000名以上（通信教育課程を除く）の教員を輩出してきた。卒業生は全国の教育現場や各自治体の教育行政の現場で、学校長・園長、指導主事等の役職を担い、教育界のリーダーとして幅広く活躍している。本学の「全人教育」による豊かな人間性を備えた教員は、これまでも高い評価を得ているが、2012年にはさらなる「質の高い教員養成」を目指して、「教師教育リサーチセンター」を開設し、学生を対象とした教員養成にとどまらず、教員を対象とした研究支援にも力を注いでいる（資料①～⑤）。

教員養成における特徴として、次の3点があげられる。一つは、教員養成における単位の実質化への取り組みとして、本学で定める半期履修上限16単位（CAP制度）の中で全学の教職課程カリキュラムを実施していること（資料⑥）。次に、4年間を通して、各段階の目標を定め、教職課程受講者への指導・支援を計画し、教員養成が行われていること。更には、教員養成の質向上に向けた全学体制による教職課程の組織運営（教師教育リサーチセンターによる全学学生支援と研究活動の推進）がなされていることである（資料⑦～⑧）。

また、創立100周年（2029年）へ向け、各学部各部署において中長期計画が策定されており、教員養成についても教師教育リサーチセンターを中心に中長期計画を策定し

た。特に、実践的指導力を向上させ、より質の高い教員養成の実現のため、1年生から4年生まで常に教育現場で実践的指導力を学び、理論と実践の往還を繰り返すことで、即戦力となる教員の養成を目指し、学校体験活動を単位化して教育実習の単位とするカリキュラム改定（令和6年度入学生より適用）に着手したことが、令和5年度の特徴的な活動である（資料⑨）。

<根拠となる資料・データ等>

- ・ 資料①：学校法人玉川学園組織機構図（令和5年4月1日版）
- ・ 資料②：玉川大学教師教育リサーチセンター規程
- ・ 資料③：学校法人玉川学園組織規程
- ・ 資料④：令和5年度 在籍者数（5月1日現在）
- ・ 資料⑤：令和5年度 教職課程受講者数（通学課程）
- ・ 資料⑥：2023 履修ガイド 玉川大学 2023 履修ガイド
- ・ 資料⑦：2023 教職課程受講ガイド 玉川大学 2023 教職課程受講ガイド
- ・ 資料⑧：2023 年度教師教育リサーチセンター（リーフレット）
- ・ 資料⑨：学校での多様な体験活動による理論と実践の往還（リーフレット）

Ⅱ 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状〕

本学の教員養成の目標は、創立者・小原國芳の精神を継承した教師像を追求することである。その精神は「玉川教師訓」として現在も継承され、「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」を実践できる教師の育成が、全学の教員養成の目標として掲げられている（資料⑦～⑧）。

この教員養成の目標は、全学の教員養成の支援組織である教師教育リサーチセンターの入口にも掲示されており、学生、教職員が常に目にしている。また、『教育実習日誌』の表紙裏（資料 1-1-1）をはじめ、教職員の参加する教職関連の会議体や、学生の出席するガイダンス、講座等の資料にも多く掲載され、教職員・学生に周知されている。

さらに、各学部学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーにも教員養成に関する目的・目標が明確に示されている（資料⑥）。

〔優れた取組〕

- ・ 本学が目指す教師像による目標の明確化

本学の教員養成の目的・目標である「教師像」を「玉川教師訓」として示し、「玉川教師訓」を実践できる教員を養成している。さらに具体的な力量を次のように示している。

1. 確かな学力と健やかな体を育てる「学習指導力」
2. 豊かな心を育て自己実現を図る「幼児・児童・生徒指導力」
3. とともに高めあうクラスをつくる「学級経営力」
4. 新たな学校づくりを推進する「協働力」

〔改善の方向性・課題〕

目的・目標について、様々な会議や、学生への提供資料の中に掲載しているが周知の状況・理解度の確認ができていない。教職課程関連のガイダンスの時間的制約もあり、目指

す「教師像」について詳細な内容まで踏み込むことができない状況にある。昨年度の本報告において、「この課題についての今後の方向性として、教職員、教職課程履修学生ともに確実な共有・理解を図るため、常に持つことができる本学における教員養成の目的・目標を詳細に示した教職課程ハンドブックのようなものを作成し、関係者全員に配布することも検討したい」としていた件について、以下の2点について対応した。

- ・「2023 教職課程受講ガイド」の冊子版およびWeb版への記載より、令和5年度入学生および在籍する教職員全員に周知（資料⑦）
- ・Instagramによる広報。令和6年10月末現在、フォロワー数は約800名（資料1-1-2）

今後も引き続きさらなる広報・周知に努めたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1：教育実習日誌（表紙裏）
- ・資料1-1-2：教師教育リサーチセンターInstagram
- ・資料1-1-3：教員養成の現状と課題、今後の方策

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

本学では、平成 18 年（2006 年）4 月、教職に関する総合センターとして「教職センター」を設置したが、さらなる“質の高い教員養成”と“教師教育学の研究活動推進”のために改組し、平成 24 年（2012 年）4 月に「教師教育リサーチセンター」（資料⑧）を新設した。

教師教育リサーチセンターは教職課程履修学生のサポートをする教職課程支援室と教師教育にかかわる研究活動を支援する教員研修室から成る。教師教育リサーチセンターでは、これまでの教職課程支援事務（教職課程認定申請、変更届の提出を含む）並びに学修支援、キャリア支援のみならず、教師教育（教員養成・採用・研修）に関する研究・調査を行う研究機関的要素、さらには教育委員会、小・中・高等学校、幼稚園、保育所との連携を推進する機能を持つ全学の教員養成を包括するセンターとして位置づけられ、教職課程に関する情報公開も行っている。

全学組織のため、高等教育附置機関として位置づけられており、教員、事務職員をもって構成することとなっている（資料③：学校法人組織規程第 6 条参照）。したがって、事務的支援に留まらず、本学の教員養成に必要な教員を採用し、学生指導・支援、研究活動を行うことが可能となっている。

〔優れた取組〕

- ・教師教育リサーチセンターが各学部学科と連携を図り、各学部学科の特性を生かしながら、大学の目標・目的、3 ポリシーとの精査も行い、学部間を横断した全学体制での学生支援を実現している（資料 1－2－1）。また、教師教育リサーチセンターに教職に関する窓口を一本化することで、教員養成に関する事項を掌握し、課題の抽出とその改善を迅速に行うことが可能となる。教職課程教育に関しては教師教育リサーチセンター、教職課程以外の学士課程教育に関しては教学部と明確に業務を区分することによって、学生情報、学校現場からの連絡事項、教員からの情報も集約され、教職課程を有する全学部学科に統一的に対応できることは大きな特徴といえる。この特徴は、カリキュ

ラム検討の際にも活かされている。

・教職サポートルームの機能（組織と環境）（資料⑧）

教師教育リサーチセンターでは、教員を目指す学生のキャリア形成支援、教職指導の一翼を担うため、東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県において小学校・中学校・高等学校の校長、幼稚園長・保育所長、教育行政経験者を教職サポートルーム客員教員として採用し、学生の相談・支援にあたっている。教職サポートルーム客員教員は教師教育リサーチセンターや各学科の教職担当教員と連携・調整しながら、学生相談、教育実習に関する指導、教員採用試験候補者選考試験対策の企画・講師等を担当している。また、教科書・指導書、教職に関する最新の参考資料等を取りそろえ、自由に閲覧しながら、自学自修ができる自主学修スペースや、模擬授業や共同討議などができる教室も備え、更には電子黒板、デジタル教科書などの ICT 関連の教材、教具も備え、教職サポートルーム客員教員の指導を受けながら、実践的指導力を身につけられる環境を整えている。

さらに、令和 5 年度より地方自治体の教員採用試験受験を希望する学生、地元で教育実習を実施する学生の指導を担う教職講座・実習指導担当客員教員を新設した。初年度は教員採用試験受験者数の多い茨城県・静岡県の校長、教育行政経験者を採用した。次年度以降、地域を拡大していく予定である。

・教職課程委員会における教員養成に関する審議と情報の共有（資料 1－2－2）

教師教育リサーチセンター長が委員長となり、事務局は教師教育リサーチセンターが担っている。教職課程を置く学科では、必ず教職担当教員が任命され教職課程委員会委員となっている。委員会は月 1 回実施し、教職に関連する諸々の事項について検討・審議し全学での決定事項としている。さらに教職課程に関連する情報の共有が図られている。また、審議内容や報告事項によっては、それぞれの学科の会議、学部の教授会等、また全学の教務委員会にも情報を提供し、教職課程に関する情報の共有を図っている。教師教育リサーチセンターの担う業務の大半は、教職課程委員会にて審議・報告がなされており、研究活動等の状況についても情報共有がなされている。

・教育研究活動等点検調査委員会と教員養成部会（教職課程員会の事項を報告をする会の

名称)の機能(資料1-2-3～1-2-5)

大学全体では各学部・学科において年度ごとの自己点検・評価を行い、教育研究活動等点検調査委員会に提出している。教員養成に関する事項も例外ではなく、教職課程委員会での審議内容を中心とした自己点検・評価を行い、年度の振り返りとともに、課題の抽出も行っている。この内容は、教育研究活動等点検調査委員会において教員養成部会より全学に報告されている。

・教職課程FD・SD研修会の実施(資料1-2-6～1-2-8)

全学で行うFD・SD研修会に加え、教職課程運営に必要な情報、最新の教育事情や情報に関する内容について、有識者による講演を教師教育リサーチセンターが主催し、年に1回実施している。その内容は、全学的なFD委員会の報告書としてまとめられ、教職員に配布している。出席者は、教職担当教員、教職に関する事項を取り扱う部署の職員のみならず、学部長、教務主任を対象としている。また、教師教育リサーチセンターでは、年に1回公開研修会の「教師教育フォーラム」も実施しており、これも教職課程FD・SD研修の一環として位置づけられている。

〔改善の方向性・課題〕

近年、文部科学省からの答申をはじめとする通知が多く、提供すべき情報が多くなっている。その内容も多岐にわたり、情報を集約している教師教育リサーチセンターでも、すべてを理解し把握しきれているのか疑問でもあることは昨年と同様である。教職課程委員会や教職課程FD・SD研修会等を通じて情報の共有を行っているものの、すべての教職員に深く理解してもらうためには、通常の研修とは別に勉強会を開催する等も考えたいが、より効果的に行うことができる対策の検討が引き続き必要である。

また、研修会やフォーラムは主にオンラインで実施している。このことは、遠方の方々に受講の機会を提供することとなり、多くの参加があった。一方でワークショップ形式での研修の実施方法については、今後、対面受講とオンライン受講を効果的・効率的に活用し、より有効な研修の仕組みの構築も引き続き考えていきたい。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 資料 1－2－1：玉川大学における教員養成への取り組み
- ・ 資料 1－2－2：玉川大学教授会等運営規程（教職課程委員会部分抜粋）
- ・ 資料 1－2－3：2023 年度教育研究活動等点検調査委員会 自己点検・評価結果・改善計画 報告書
- ・ 資料 1－2－4：2023 年度教育研究活動等点検調査委員会 分科会部会開催状況
- ・ 資料 1－2－5：2023 年度教育研究活動等点検調査委員会教員養成部会報告
- ・ 資料 1－2－6：令和 5 年度ファカルティ・ディベロップメント活動報告書（抜粋）
- ・ 資料 1－2－7：2023 年度教師教育フォーラムチラシ
- ・ 資料 1－2－8：2023 年度教職課程 F D・S D 研修会

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援**基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成****〔現状〕**

本学では、オープンキャンパスや入試説明会において、教員志望の入学希望者とその保護者等に対して、教師教育リサーチセンターが本学の教員養成の取り組みや実績等について説明する機会を設けている。配布資料の中にも、「先生になろう！スタートブック」（入試広報部作成：資料 2-1-1）があり、教職に興味、関心のある入学希望者に本学の教職課程への取り組みを紹介し、教員志望者の確保につとめている。また、教職を目指す学生に対して、教職課程に特化した入試制度もある。

教職課程受講希望者については、1 年生の春学期にガイダンスを実施し、登録をしたうえで教職課程履修が開始される（資料 2-1-2）。例年 550～600 名が希望し、最終的に教員免許状を取得する学生は、500～550 名程となる。教職課程受講については、最初のガイダンスへの出席以外は特別な条件は設けておらず、人数の制限もしていないが、受講を継続するための条件を学部学科ごとに定め、その内容を『教職課程受講ガイド』に記載している。受講継続条件には、累積 GPA のクリアする基準が示されており、各学部学科の特性により多少の違いはあるが、修得済みである科目や、取得しておく資格や検定が明確に示されている。それらの条件について、各学部学科の会議により一人一人の学生について特定の期末や年度末に確認が行われ、教職課程の受講継続について厳密に可否判定が行われる。

〔優れた取組〕

- ・教職課程受講希望者の入試制度（資料 2-1-3～2-1-4）

東京・千葉・埼玉・神奈川（1 都 3 県）の高等学校または中等教育学校を卒業見込みで、教員を目指す受験生を対象にした『首都圏教員養成総合型入学審査』と先の 1 都 3 県以外の高等学校または中等教育学校を卒業見込みで、教員を目指す受験生を対象にした『地域創生推薦入学試験（公募型教員養成推薦）』の 2 つの教員志望者に特化した選抜制度がある。また、教育学部教育学科はもとより、文学部の国語教育学科、英語教育

学科といった学科名称は、教員志望の受験生にとってもわかりやすい学部学科組織になっている。農学部、工学部には、それぞれ、理科教員養成プログラム、数学教員養成プログラムを設置し、教員志望者はこの区分で受験をすることになっている。ただし、このプログラムで入学しなかった場合でも、申し出により教職課程を受講することも可能である。

また、中学卒業時等、比較的早い時期から教員を志望する意思が強い傾向があるため、2023 年度より高校 1・2 年生を対象とした「はじめてガイダンス」を実施することとなった（資料 2－1－5）。

・ 4 年間を通した教職課程指導・支援体制（資料 1－2－1）

教職課程を受講する大半の学生は、高等学校での進路決定時に「教師になりたい」と強い意志を持って大学を選択している。そのため、教職に就きたいという大学入学時のモチベーションを持続させるためには、1 年生からの教職課程支援が必要不可欠であり、そこから大学 4 年間を通した教職課程受講支援プログラム（資料 1－1－3）が重要であるととらえ、一貫した学生指導・支援を行っている。各学年の目標は、1 年生：教職の意義と基礎理論を学ぶ、2 年生：指導法の基礎を学ぶ、3 年生：教科・教職の専門性と実践力を養う、4 年生：実践と応用、総まとめ、としており、それぞれの学年の目標に応じたプログラムとなっている。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程履修学生の 25%程度の教員免許の取得のみを希望する学生に対する指導については、常に課題としてとらえている。また、現在のところ教職課程における受講人数の制限について、特に検討してはいないが、本学における適正な人数について検討してみたい。

入試制度と教員採用試験名簿登載率の関係についても、今後詳細に分析していきたい。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 資料 2－1－1：先生になろう！スタートブック 2024
- ・ 資料 2－1－2：令和 5 年度教職課程受講ガイダンス資料
- ・ 資料 2－1－3：玉川大学 2024 年度 大学案内（抜粋）
- ・ 資料 2－1－4：玉川大学 2024 年度 入試ガイド（抜粋）
- ・ 資料 2－1－5：高校 1・2 年生対象「はじめてガイダンス」

基準項目 2－2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

本学のキャリア支援は、一般企業・公務員についてはキャリアセンターが担い、教員・保育士就職については教師教育リサーチセンターが担っている（資料 2－2－1）。学生の中には当初は教員就職を目指していたが、途中から進路変更をする場合もあるが、その場合には、教師教育リサーチセンターとキャリアセンターが連携・情報共有を図りながら、学生指導に当たっている。

教員就職支援については、前述の教職課程受講支援プログラムに基づき大学のカリキュラムとの関連も踏まえながら、各種ガイダンス、学外実習（ボランティア、インターンシップ等）、教員採用試験対策（論作文・面接を中心に）等を行っている。

〔優れた取組〕

- ・教職課程受講支援プログラム（資料⑧、資料 1－2－1）

本プログラムは教職課程を受講している学生の、資質と能力の向上のための要素と、教員就職支援のための講座等の要素を持っている。キャリア支援における教員採用試験対策では、ガイダンス、教員採用模擬試験、面接・論作文対策等が行われている。指導に当たっては、教職サポートルーム客員教員が中心となっており、学科の教員とも連携している。また、学生指導に際しては、学生の取得見込みの免許種や就職を希望する自治体により、教職サポートルーム客員教員の専門教科や元勤務していた地域（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、横浜市、川崎市、相模原市）をふまえて、最も適切な指導ができるよう、担当学生の割り振りを行っている。

- ・教師教育リサーチセンター編「論作文&面接対策」（資料 2－2－2）

採用試験対策において重要となる、論作文指導や面接指導（含む模擬授業、実技指導、集団討議等）については、長きにわたり教職サポートルーム客員教員が工夫しながら対応してきた。その集大成として、『論作文&面接対策』（時事通信出版局）を出版した。当テキストは最新の教育事情のデータに差し替え、教員採用試験の出題傾向を調査して毎年内容を精査して改訂を行い、学生指導の際のテキストとして使用して

いる。教職課程受講者 2 年生全員に配布し、3 年時には、最新のものを再配布している（初版は 2018 年度版。現在は 2025 年度版〈ISBN978-4-7887-1948-4〉まで刊行済み）。

・大学院への進学

進路の一つとして、大学院への進学も考えられる。本学には、教育学研究科、教職大学院、文・農・工学研究科があり、各研究科で専修免許の取得も可能となっている。教育学研究科には、「教師教育学コース」もあり、教員養成を行う課程を担当できる大学教員の養成も行っている。

〔改善の方向性・課題〕

学生指導に当たって、意欲や適性を欠く学生への指導は大きな課題といえる。特に、指導の内容が進路変更を伴う場合、その指導の方法や事後支援については最重要課題といえる。令和 6 年度入学生より適用となる、教育実習の見直し（学校での多様な体験活動による理論と実践の往還による実践指導力の育成・向上）（資料⑨）は、この課題解決に向けた一つの可能性が示されるものと期待している。

教職課程受講支援プログラムにおけるキャリア支援については、学部生を中心に組み立てられているため、通信教育課程の学生および大学院生への教員採用試験対策は、時期、回数等が限定されたものとなっており、全学体制での教職へのキャリア支援上の課題としてとらえている。このことについては、教職課程受講支援プログラム見直しの際の課題としており、通学課程、通信教育課程、大学院を含めたプログラムの検討を行うこととしている。

また、大学院への進学者は多くないが、高い専門性を備えた教員の養成を考えると、大学院進学を含めたキャリア支援を検討する必要がある。

さらに、卒業生との連携も「教師・保育者の集い」を 2 回実施したが（資料 2-2-3～2-2-4）、参加者も十数名と参加者も決して多くはなく、引き続きの課題としてとらえている。教員採用試験に不合格であった卒業生の就職支援や、教員として働く卒業生の組織を構築することも必要ととらえている。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・ 資料 2－2－1：令和 5 年度就職状況のまとめ（抜粋）
- ・ 資料 2－2－2：教師教育リサーチセンター編「論作文&面接対策」（表紙）
- ・ 資料 2－2－3：第 5 回教師保育者の集い
- ・ 資料 2－2－4：第 6 回教師保育者の集い

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

本学では全学的に 2013（平成 25）年度入学生より、半期に履修できる単位数を 16 単位に制限している。教職課程の全科目もその例外ではない。こうしたことから教職の科目もすべてその学部・学科の卒業単位に含まれている。半期に履修できる上限単位を設定することで、予習や復習に充てる時間を確保し、教員養成における単位の実質化に取り組んでいる（資料⑥）。

授業内容については、教職課程コアカリキュラムに対応した教職課程カリキュラムを提供し、教員免許取得に必要な科目はすべて、教師教育リサーチセンターがシラバスのチェックを行い、課程認定との整合性を精査し、問題がないか等について確認している。

また、教員免許取得に必要な科目において、やむを得ず担当教員が変更になる場合も、該当教員の研究業績に関して、教師教育リサーチセンターが確認し、相応の業績がないと認められる場合には、担当教員を変更するようにしている。

さらに、学校現場で異なる校種の免許を複数取得していることが求められていることから、本学では、主たる免許状に加えて小学校教諭二種免許状、中学校教諭二種免許状を卒業時に取得できるプログラムを実施している（資料⑧）。

〔優れた取組〕

・カリキュラムの特徴（資料 1-2-1）

本学のカリキュラムは、教養豊かな幅広い知識を持ち、基礎学力の堅固な基盤と高度な専門能力を持った有為な人材を育成するために、ユニバーシティ・スタンダード科目と学科科目群で構成されている。ユニバーシティ・スタンダード科目は、学士課程教育において基礎、基盤をつくるとともに、より高次の専門教育に移行するための重要な役割を果たしている。教員免許状取得に必要な科目は、この中の教職関連科目群として開設されている。学科科目群は、導入科目群、発展科目群、専攻科目群に区分され、学修進度に合わせて順に履修できるように開設されている。学生にとっては所属する学科の

専門の学修を行い、さらには、教師としての資質能力を身に付けていくために、教職に関する専門の学修を両立して進めている。

- ・教員養成の質保証に向けた学科の設置と教員養成プログラムの開設（資料②）

教育学部はもとより、それ以外の学部の中に、教員養成を主とした学科を設置した。このことにより、教職科目と教科科目が相互補完されて学修することができる。

文学部国語教育学科

文学部英語教育学科

教員養成プログラムにより、教員に必要な基礎科目の学修や、専門教科に応じた科目の学修に取り組み、教員になるための基盤を創り上げる。

農学部生産農学科 理科教員養成プログラム

工学部情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科、デザインサイエンス学科

数学教員養成プログラム

- ・ダブル免許プログラム（資料⑦～⑧）

教育学部以外の学部・学科でも、それぞれの専門性を生かした各教科の中学校・高等学校教諭一種免許状が取得できるが、通常学期ではない長期休業期間に設けられた特別学期（サマーセッション、ウィンターセッション）に科目を開講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状を取得することができるプログラムがある。また、教育学科においては、小学校教諭一種免許状に加え、教育学科では別の学科で課程認定を受けている教科の中学校教諭二種免許状を取得できるプログラムを有している。

このプログラムにより、複数免許状を取得することが可能となり、高度な専門性を有する小学校教員や、隣接し接続する小学校教育を理解する中学校教員の養成も行っている。

- ・大学院での教職課程の充実

教育学研究科以外の研究科においても、専修免許状が取得できるが、教科における専門性の修得だけではなく、教職の専門性を高める科目として「教育内容・方法学研

究」、「教育制度学研究」、「教育実践学研究」の3科目を導入し、専修免許状の質の保証を図っている。これらの科目は、各研究科での修士の学位の授与条件として、必修科目と位置づけている。

また、教育学研究科においては、「教師教育学研究コース」を設置し、大学・大学院教職課程専任教員、教職大学院専任教員、教師教育学研究者の養成にも取り組んでいる。

〔改善の方向性・課題〕

昨年度課題とした、理論と実践の往還を重視した取り組みについて検討をすすめ、「教育実習」等の在り方を見直し、学校体験活動の積極的な活用を令和6年度入学生から実施することとした（資料⑨）。

ICTを活用した授業方法について、授業以外にもICT関係の講座を準備したが、その効果の検証を引き続き検討していきたい。

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

実践的指導力を養成するための取り組みの第一歩として、教職課程受講の1年生全員に参観実習を実施している。今までは児童・生徒の視点で学校活動を経験し、教師の仕事を見て、教師になろうと考えてきたが、この参観実習では、教える立場、教師の視点で学校の1日を体験し、学生の教育現場への理解を深め、教職に対する自覚を促し、進路選択の機会を与えることを目的として実施している。さらに、教育ボランティア、教育インターンシップ、3年次の教育実習事前指導、4年次の教育実習に生かしていくことも期待している。

また、本学においては教育実践の質的充実を図り、地域との連携も踏まえて、各地域の教育委員会・校長会と密接な連携のもと、教育実習協議会を実施し、意見交換や情報交換を行っている。本学の学生の状況や、教育現場が求める教師像を軸とした教育実習生への大学と実習校双方の指導の在り方等について協議を行い、情報を共有し、教員養成における学生指導の充実に努めている。

〔優れた取組〕

・参観実習の実施（資料3-2-1）

近隣の教育委員会や校長会にお願いし、その管轄下の公立小学校・中学校で受け入れ校を決めていたうえで、1校あたり5名程度の学生が登校時から下校までの終日参観を行う。なお、それに際し、複数回の事前指導とガイダンスを行い、また受け入れ校との連絡、確認なども全て学生が行う。時期は10月中旬（教育学部は6月中旬）で、当日は教員1名が引率する。令和5年度の参観実習受け入れ校は、幼稚園・保育園16園、小学校29校、中学校67校（春：25校、秋：42校）小中一貫教校1校にのぼる。参観実習の実際の流れの概略は、

事前指導 ⇒ プロフィール文書作成 ⇒ 参観実習受け入れ校との事前打ち合わせ ⇒ 参観実習当日 ⇒ 報告書の作成 となっている。

・教育実習協議会の実施（資料 3－2－2）

横浜市、川崎市、相模原市、町田市において、教育実習を受け入れていただいた学校に、教育実習に関するアンケートを実施している。内容としては、教育実習生に対する大学の指導について、教育実習に臨む学生の態度・姿勢について、大学への要望について確認している。アンケート内容を市ごとにまとめ、その資料を基に、校長会の代表者との協議会を実施している。アンケートの内容のみならず、教育実習生の最近の特徴や、養成大学に臨むこと等について意見交換を行い、必要に応じて翌年の事前指導に反映させるなどの対応を行っている。また、幼稚園や保育所との実習協議会については、実習園、実習保育所を中心に、免許・資格の認定を持つ教育学部を中心に開催している。なお、介護等体験の協議会も受け入れ施設や学校と同様に開催しているが、令和 5 年度まではコロナ禍により、現場での介護等体験を代替措置で対応したため、協議会も行わなかった。

〔改善の方向性・課題〕

教育実習において、遠方の実習校への訪問指導を割愛する場合がある。そうした地域での教育実習指導を充実させるために、教員経験者の卒業生等に協力を依頼するなど、組織的な対応を検討することが必要となっている。令和 5 年度は、遠方地域においても校長を経験した教育実習の指導に適した方を客員教員として 6 名を採用し、さらに採用数を増やして、全国を網羅できるよう進めている。

学校体験活動については、授業の空き時間が課題となっていたが、令和 6 年度からは各学科の授業時間割を調整し、空き時間を確保して、1 年次から学校体験活動を新たに単位化することによって、教育実習の在り方を見直し、各学年において必ず学校体験活動を実施することができるよう体制を整えた（資料⑨）。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 3－2－1：私立大学の特色ある教職課程事例集Ⅴ（抜粋）
- ・資料 3－2－2：私立大学の特色ある教職課程事例集Ⅲ（抜粋）

Ⅲ 総合評価（全体を通じた自己評価）

令和5年度は年度当初に計画した事業については、おおむね予定通りに実行することができた。学生への指導・支援については、教師教育リサーチセンターを中心に各学部・学科の教員と連携を取りながら、また、教育委員会、学校現場との連携の強化も図りながら、より質の高い教員養成と、より多くの教員就職ができるよう対応した。教員採用試験結果において、過去最高の名簿登載率となったことを見ても、学生への指導・支援が適切に行われたと判断できる。

しかしながら、基準領域それぞれに課題はあり、今後も一つ一つの課題に対して、具体的な検討をしながら、より質の高い教員養成に向けて取り組んでいきたいと考えている。一部は令和6年度から実施できるよう体制を整えることができたが、社会の変化、教職課程運営の状況や、今後の対応計画などを踏まえ、保留としたものも多く、課題が継続となっている。また、文部科学省答申、通知等について、本学の教員養成の現状を踏まえながらその内容を精査し、引き続き改革・改善ができるものから対応していきたいと考えている。

教師教育リサーチセンターの実施する事業については、令和5年度事業報告書（教師教育リサーチセンター）として学長の承認を得ている。教職課程運営については、教職課程委員会での審議事項を中心としてまとめ、2023年度自己点検・評価結果・改善計画 報告書および2023年度分科会部会開催状況として教育研究活動等点検調査委員会に提出し、学長の承認を得ている。

本報告書については、上記の内容をもとに教師教育リサーチセンターが点検を行い、報告書として取りまとめたものである。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

教師教育リサーチセンターの実施する事業については、「令和5年度事業報告書」（教師教育リサーチセンター）として理事長・学長の承認を得ている。教職課程運営については、教職課程委員会での審議事項を中心としてまとめ、2023年度自己点検・評価結果・改善計画 報告書および2023年度分科会部会開催状況として教育研究活動等点検調査委員会に提出し、理事長・学長の承認を得ている。

本報告書については、上記の内容をもとに、全国私立大学教職課程協会『「教職課程自己点検・評価報告書」作成の手引き 令和5年度版』（改訂版）に基づき、教師教育リサーチセンターが点検を行い、報告書として取りまとめたものである。

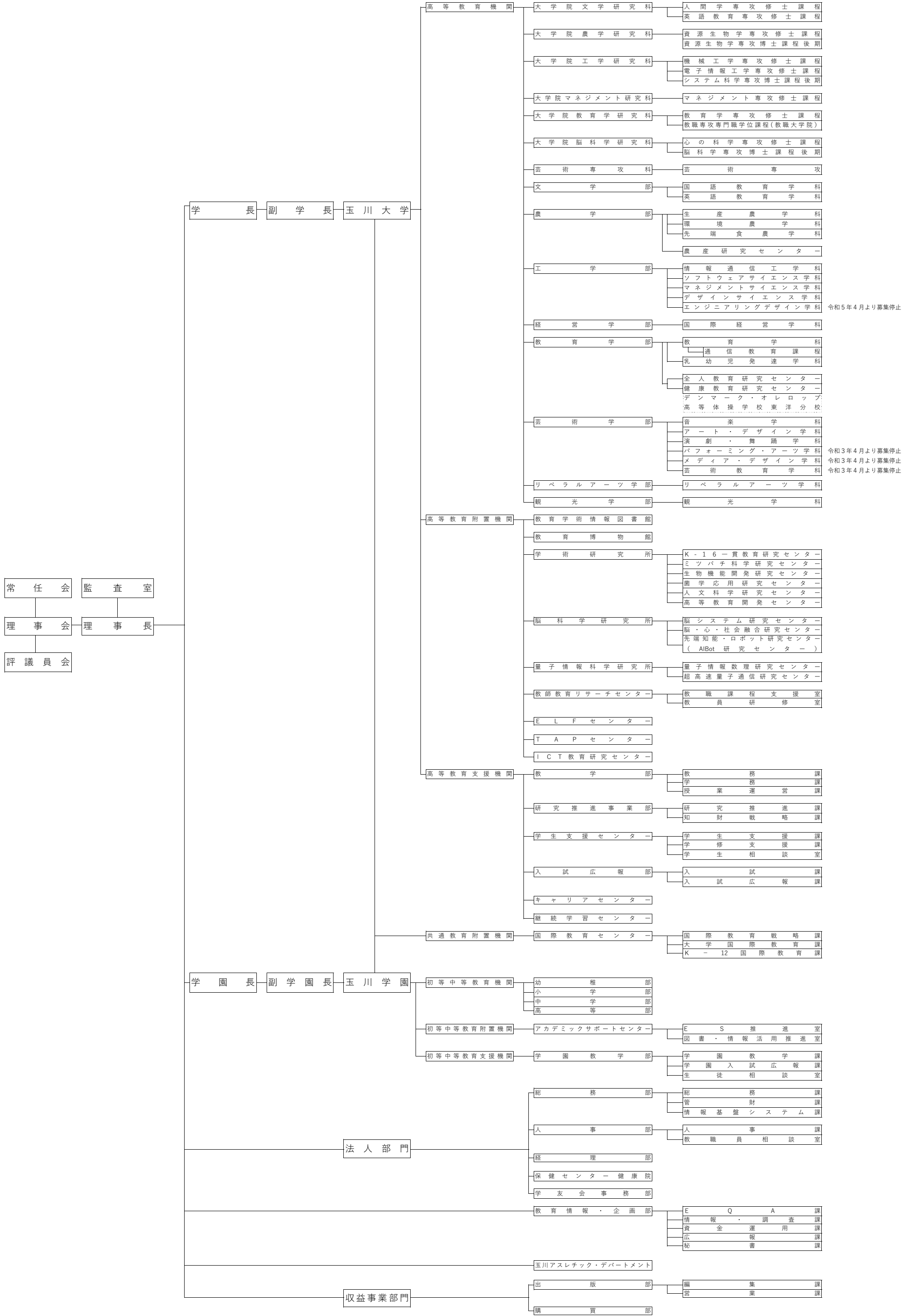
Ⅴ 現況基礎データ一覧

令和6年5月1日現在

法人名 学校法人 玉川学園					
大学・学部名 玉川大学					
学科・コース名（必要な場合） 通学課程（大学・大学院）					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 前年度卒業・修了者数				1,638	
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)				1,389	
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)				534	
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用＋臨時的任用の合計数)				339	
④のうち、正規採用者数				259	
④のうち、臨時的任用者数				80	
2 教員組織（令和6年3月31日現在）				（令和6年3月31日現在）	
	教授	准教授	講師	助教	その他（非常勤講師）
教員数	196	60	44	3	842
相談員・支援員など専門職員数（教師教育リサーチセンター所属教職員） 26					

資料①

学校法人玉川学園組織機構図（令和5年4月1日施行）



令和5年4月より募集停止

令和3年4月より募集停止

令和3年4月より募集停止

令和3年4月より募集停止

資料②

○玉川大学教師教育リサーチセンター規程

平成18年4月1日制定

改正

平成21年4月1日

平成24年4月1日

平成27年4月1日

令和5年4月1日

玉川大学教師教育リサーチセンター規程

(趣旨)

第1条 玉川大学学則第61条に基づき、玉川大学教師教育リサーチセンター（以下「本センター」という。）の運営について、本規程を定める。

(目的)

第2条 本センターは、教職に関する専門的研究（以下「本研究」という。）を行い、国内外の諸研究・教育機関等と連携を密にし、玉川大学における教員養成等の充実を図ることを目的とする。さらに研究活動の成果を生かして、玉川大学に共通する教育職員免許状・資格の取得支援、教職に係る就職支援を推進することを目的とする。

(事業)

第3条 本センターは、本研究・支援の目的を達成するために、教員研修室及び教職課程支援室を置き、次の事業を行う。

- (1) 教職の専門的・総合的研究に関する事項
- (2) 教職のFD・SD研修に関する事項
- (3) 教職課程（教育実習、保育実習、介護等体験、学校体験活動等）に関する事項
- (4) 教育職員免許状取得に関する事項
- (5) 保育士、学校図書館司書教諭、図書館司書、社会教育主事・社会教育士、学芸員の資格取得に伴う学生対応に関する事項
- (6) 教員免許の許認可（大学院を含む。）に関する事項
- (7) 教員・保育士希望者の就職支援及びキャリアデザイン支援に関する事項
- (8) 教職課程委員会に関する事項
- (9) 現職教員及び教育委員会等との連携研修等に関する事項
- (10) その他本センターに関する事項

(重要事項)

第4条 本センターの基本方針、事業計画の改正等に係る重要事項は、大学部長会の議を経て、学長の承認をうけなければならない。

(組織)

第5条 本センターは、次の教職員をもって構成する。

センター長、教授、准教授、講師、助教、研究員、事務職員

2 教職員は専任、兼担及び兼任（非常勤）とする。

3 本センターは、必要に応じて、国内外の諸研究・教育機関等からの推薦のあった者、本センターが招聘する者等を客員教員として受け入れることができる。

(センター長)

第6条 センター長は、本センターの教育研究活動及び諸事業を統括する。

2 本センターは、必要に応じて副センター長を置くことができる。副センター長は、センター長を補佐し、センター長の命を受けた業務を代行する。

3 センター長の任期は2か年とし、再任を妨げない。

(研究費)

第7条 本センターの研究費は、本センター予算及び受託研究費等によるものとする。

(教職課程受講料)

第8条 本センターでは、教育職員免許状・資格の取得支援、教職に係る就職支援を推進するための経費として、学生より教職課程受講料を徴収する。

2 教職課程受講料の詳細については、別に定める教職課程履修規則による。

(委員会)

第9条 本センターに、玉川大学教授会等運営規程第5条に基づき教職課程委員会を置く。

2 教職課程委員会に関する事項は、別に定める玉川大学教授会等運営規程による。

資料③

○学校法人玉川学園組織規程

平成10年4月1日制定

改正

平成11年4月1日
平成12年4月1日
平成13年4月1日
平成14年4月1日
平成15年4月1日
平成16年4月1日
平成17年4月1日
平成18年4月1日
平成19年4月1日
平成20年4月1日
平成21年4月1日
平成21年11月1日
平成22年4月1日
平成23年4月1日
平成24年4月1日
平成25年4月1日
平成26年4月1日
平成27年4月1日
平成28年4月1日
平成29年4月1日
平成30年4月1日
平成31年4月1日
令和2年4月1日
令和3年4月1日
令和4年4月1日
令和5年4月1日

学校法人玉川学園組織規程

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、学校法人玉川学園（以下「本法人」という。）寄附行為第4条に定める設置する学校の教育、研究の充実及び組織の円滑かつ能率的な運営を図ることを目的とする。

2 本規程は、諸規程の特別の定めがある場合を除き全ての本法人の教員及び職員に適用する。

(構成)

第2条 本法人の組織は、次の各号に定める。

(1) 教育・研究に関する組織を、高等教育機関及び高等教育附置機関、初等中等教育機関及び初等中等教育附置機関、共通教育附置機関で構成する。

(2) 事務に関する組織は、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門で構成する。

(3) 収益事業に関する組織として収益事業部門を置く。

2 前項の組織の他に理事長の直轄機関として、監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントを置く。

(教員及び職員)

第3条 本法人に専任の教員及び職員を置く。

2 前項のほか、必要に応じて顧問、客員教員、嘱託教員及び職員、臨時職員及び非常勤教員及び職員を置くことができる。

(教員及び職員の任免)

第4条 教員及び職員の任免は、諸規程に別段の定めのある場合のほかは、常任会の議を経て理事長

がこれを行う。

(定義)

第5条 この規程において次の各号に掲げる者は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 高等教育機関及び高等教育附置機関の教員は、教授、准教授、講師、助教、助手及び研究員をいう。
- (2) 初等中等教育機関及び初等中等教育附置機関の教員は、教諭、養護教諭、講師及び研究員をいう。
- (3) 共通教育附置機関の教員は、前第1号及び2号による
- (4) 職員は、事務職員（司書、学芸員を含む。）、技術指導員、技術職員、指導員、実習助手をいう。
- (5) シニアスタッフは、教員及び職員のうち、特定分野について見識を有する専門職者をいう。

2 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 分掌 組織単位に与えられた個別業務の範囲をいう。
- (2) 職制 系統的に編成された業務の単位として各人が配置された地位をいう。
- (3) 職務 特定職制の行う業務の具体的な内容を個別的に明らかにしたものをいう。
- (4) 任免 任命及び免職することをいう。
- (5) 任命 職を命じることをいう。
- (6) 補職 特定の職に就けることをいう。
- (7) 免職 職を解くことをいう。
- (8) 任用 期間を定め特定の職に就けることをいう。
- (9) 統督 組織をまとめ指揮監督することをいう。
- (10) 統括 自己の所管する事項を総合的にまとめることをいう。
- (11) 管掌 自己の管轄する事項を責任・権限で管理することをいう。

第2章 高等教育機関・高等教育附置機関

(組織)

第6条 高等教育機関及び高等教育附置機関は、次の各号に定めるものとし、教員、技術指導員、技術職員、指導員及び事務職員をもって構成する。

- (1) 高等教育機関
玉川大学（大学院・専攻科を含む。）
- (2) 高等教育附置機関
玉川大学教育学術情報図書館
玉川大学小原國芳記念教育博物館
玉川大学学術研究所
玉川大学脳科学研究所
玉川大学量子情報科学研究所
玉川大学教師教育リサーチセンター
玉川大学国際教育センター
玉川大学E L Fセンター
玉川大学T A Pセンター
I C T教育研究センター

(副学長)

第7条 大学に副学長を置くことができる。

(学部長及び副学部長)

第8条 大学の各部に学部長を置く。

2 学部長は、学長の命を受けて各学部の教育及び研究に関する事項を統括し、所属する教員を管掌する。

3 副学部長は、理事長が必要と認めたとき、置くことができる。

4 副学部長は、学長の命を受けて学部長を補佐する。

5 副学部長は、学部長の命を受けた事項を担当する。

(研究科長)

第9条 大学院の各研究科に研究科長を置く。

2 研究科長は、学長の命を受けて研究科の教育及び研究に関する事項を統括し、所属する教員を管掌する。

(主任、副主任、センター長、副センター長)

第10条 大学の学部及び大学院研究科の専攻に主任を、学部のセンターにセンター長を置く。

2 学部の主任は、学部長及び副学部長を補佐し、学部及び学科の運営を担当する。研究科の専攻の主任は、研究科長を補佐し、専攻の運営を担当する。学部のセンター長は、学部長及び副学部長を補佐し、センターの運営を担当する。

3 主任及びセンター長の空席がある場合には、主任代理及びセンター長代理を置く。

4 主任代理は、主任職を代行し、センター長代理はセンター長職を代行する。

5 副主任、副センター長を必要に応じて置くことができる。

6 副主任は学部長の命を受けて主任を、副センター長は学部長の命を受けてセンター長を補佐する。

7 副主任は主任の、副センター長はセンター長の命を受けた事項を担当する。

(高等教育附置機関の長)

第11条 高等教育附置機関に館長、所長、センター長を置く。

2 各部署の長は、学長の命を受けて所管する事項を統括し、所属する教員及び職員を管掌する。

3 館長、所長、センター長の空席がある場合には、館長代理、所長代理、センター長代理を置く。

4 館長代理、所長代理、センター長代理は、館長職、所長職、センター長職を代行する。

5 副館長、副所長、副センター長を必要に応じて置くことができる。

6 副館長、副所長、副センター長は学長の命を受けて各部署の長を補佐する。

7 副館長、副所長、副センター長は、所属する部署の長の命を受けた事項を担当する。

(高等教育附置機関の主任、副主任)

第12条 高等教育附置機関に主任を置くことができる。

2 主任は、部署の長を補佐し、部署の運営を担当する。

3 主任の空席がある場合には、主任代理を置く。

4 主任代理は、主任職を代行する。

5 副主任を必要に応じて置くことができる。

6 副主任は、部署の長の命を受けて主任を補佐する。

7 副主任は、主任の命を受けた事項を担当する。

(教員の補職)

第13条 高等教育機関及び高等教育附置機関の教員の補職は、学長が行う。

第3章 初等中等教育機関・初等中等教育附置機関

(組織)

第14条 初等中等教育機関及び初等中等教育附置機関は、次の各号に定めるものとし、教員、実習助手及び事務職員をもって構成する。

(1) 初等中等教育機関

玉川学園高等部

玉川学園中部

玉川学園小学部

玉川学園幼稚部

(2) 初等中等教育附置機関

アカデミックサポートセンター

(副学園長)

第15条 高等部、中学部、小学部の副校長及び幼稚部の副園長として副学園長を置く。

(学園教学部長)

第16条 高等部、中学部、小学部の副校長職及び幼稚部の副園長職として、学園教学部長を置く。

2 学園教学部長は、学園長の命を受けて、初等中等教育機関に関する事項について統括する。

3 学園教学部長は、常任会において理事長が任命する。

(部長・担当部長)

第17条 初等中等教育機関（以下「各学校」という。）に教頭職として部長・担当部長を置く。

- 2 部長・担当部長は、学園長及び副校長及び副学園長の命を受けて所属する各学校の教学に関する事項を統括し、所属する教員を管掌する。
- 3 初等中等教育機関に教育部長を置き、各学校間の調整並びに園児、児童及び生徒の教育に関する事項を統括する。

(主任、副主任)

第18条 各学校に主任を置く。

- 2 主任は、部長・担当部長を補佐し、教学等に関する事項を担当する。
- 3 主任の空席がある場合には、主任代理を置く。
- 4 主任代理は、主任職を代行する。
- 5 副主任を必要に応じて置くことができる。
- 6 副主任は、部長・担当部長の命を受けて主任を補佐する。
- 7 副主任は、主任の命を受けた事項を担当する。

(初等中等教育附置機関の長)

第19条 初等中等教育附置機関にセンター長を置く。

- 2 センター長は、学園長の命を受けて所管する事項を統括し、所属する教員を管掌する。
- 3 センター長の空席がある場合には、センター長代理を置く。
- 4 センター長代理は、センター長職を代行する。
- 5 副センター長を必要に応じて置くことができる。
- 6 副センター長は、学園長の命を受けてセンター長を補佐する。
- 7 副センター長は、センター長の命を受けた事項を担当する。

(教員の補職)

第20条 初等中等教育機関及び初等中等教育附置機関の教員の補職は、学園長が行う。

第4章 共通教育附置機関

(組織)

第21条 共通教育附置機関に国際教育センターを置き、教員及び事務職員を持って構成する。

第5章 高等教育支援機関

(高等教育支援機関)

第22条 高等教育支援機関は、次の各号に定めるものとし、職員をもって構成する。

- (1) 教学部
 - (2) 研究推進事業部
 - (3) 学生支援センター
 - (4) 入試広報部
 - (5) キャリアセンター
 - (6) 継続学習センター
- 2 必要に応じて教員を置くことができる。

第6章 初等中等教育支援機関

(初等中等教育支援機関)

第23条 初等中等教育支援機関に、学園教学部を置き、教員及び職員をもって構成する。

第7章 法人部門

(法人部門)

第24条 法人部門は、次の各号に定めるものとし、職員をもって構成する。

- (1) 総務部
- (2) 人事部
- (3) 経理部
- (4) 保健センター 健康院
- (5) 学友会事務部

第8章 収益事業部門

(収益事業部門)

第25条 収益事業部門は、次の各号に定めるものとし、職員をもって構成する。

- (1) 出版部

(2) 購買部

第9章 監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメント

(監査室)

第26条 監査室は、本法人の監査に関して統括すると共に、コンプライアンスの意識向上に関する事項を担当し、職員をもって構成する。

(教育情報・企画部)

第27条 教育情報・企画部は、本法人のより健全な経営基盤の整備、本法人のIR (Institutional Research) 統合、及び教育の質保証に関する事項を担当し、職員をもって構成する。

2 教育情報・企画部に、必要に応じ教員を置くことができる。

3 前項の教員は、本法人全体の視野に立ち、教育・支援・法人・収益の各機関及び部門の業務に関する調査・研究等を行うと共に、理事長、担当理事の諮問事項及び特命事項を担当する。

(玉川アスレチック・デパートメント)

第28条 玉川アスレチック・デパートメントは、本法人のスポーツブランドの確立、学生・生徒・児童・園児及び教職員のスポーツ振興に関する事項を担当し、教員及び職員をもって構成する。

第10章 職制及び任命、職務

(部署の長)

第29条 共通教育附置機関、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門、収益事業部門及び監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントに、部長、センター長、院長、室長を置く。

2 各部署の長は、理事長の命を受けて所管する業務を統括し、所属する職員を管掌する。

(シニアスタッフ)

第30条 共通教育附置機関、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門、収益事業部門及び監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントに必要に応じてシニアスタッフを置くことができる。

2 シニアスタッフの職務は、次の各号による。

(1) 指定された担当業務の調査・研究を行い、その経過及び結果について理事長、常勤の理事に報告及び意見具申をする。

(2) 理事長、常勤の理事の諮問事項について報告及び意見具申をする。

(3) 各部署の長からの相談及び要請に基づいて助言及び支援を行うと共に、必要に応じて会議等へ出席し、協議に参画する。

(4) 理事長、常勤の理事からの特命事項を担当する。

(5) その他各部署における業務を担当する。

(次長)

第31条 共通教育附置機関、高等教育附置機関、初等中等教育附置機関、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門、収益事業部門及び監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントに、必要に応じて次長を置くことができる。

2 次長は、所属する部署の長を補佐し、その命を受けた業務を担当する。

(課長、相談室長、担当課長〈業務担当〉)

第32条 共通教育附置機関、高等教育附置機関、初等中等教育附置機関、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門、収益事業部門及び監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントに、課、相談室等を置くことができる。

2 課に課長、相談室に相談室長を置く。

3 課長は、所属する部署の長を補佐し、その命を受けた所管業務を担当する。

4 相談室長は、部署の長が兼務する。

5 必要に応じて、業務担当課長を置くことができる。

6 業務担当課長は、課長の命を受けて課の所管業務の一部を担当する。

(課長補佐)

第33条 課に、必要に応じて課長補佐を置くことができる。

2 課長補佐は、課長を補佐し、その命を受けた業務を担当する。

(係長、主任)

第34条 課に係を置くことができる。

- 2 係に、必要に応じて係長を置くことができる。
- 3 係長は、課長の命を受けた業務を担当する。
- 4 係に、必要に応じ主任を置くことができる。
- 5 主任は、係長の命を受けた業務を担当する。

(職員の補職)

第35条 共通教育附置機関、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門、収益事業部門、監査室及び教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントの職員の補職は、各部署の長が行う。

第11章 組織の変更

(組織の変更)

第36条 高等教育機関、初等中等教育機関及び収益事業部門の組織の新設、改廃は、学校法人玉川学園寄附行為第44条の手続によらなければならない。

- 2 共通教育附置機関、高等教育附置機関、初等中等教育附置機関の組織の新設・改廃は、学校法人玉川学園稟議規程第8条の手続によらなければならない。
- 3 前項以外の組織の新設、改廃は、常任会の議を経て、理事長が決定する。

第12章 その他

(プロジェクトの設置)

第37条 本法人は、新規事業や重要な検討課題が生じ、既存の組織では対応できない場合に、一定の期間専従的に人員を集中してこれを検討する組織として、プロジェクトを置くことができる。

- 2 プロジェクトの設置については、学校法人玉川学園プロジェクト設置・運営規程の定めるところによる。

(細則)

第38条 この規程の実施・施行については、学校法人玉川学園組織事務分掌細則の定めるところによる。

- 2 部署の体系は、学校法人玉川学園組織機構図の定めるところによる。

(事務主管)

第39条 この規程に係る事務主管は、総務部とする。

(規程の改廃)

第40条 この規程の改廃は、常任会の議を経なければならない。

資料④

玉川学園 在籍者数 総括表

令和5年5月1日現在

性別 部署等別	男	女	計
大学院	100	48	148
芸術専攻科 芸術専攻	1	0	1
大 学	3, 194	3, 304	6, 498
大 学 (教育学部教育学科通信教育課程)	633	974	1, 607
幼稚部	49	59	108
小学部	381	411	792
中学部	248	318	566
高等部	284	324	608
合 計	4, 890	5, 438	10, 328

科目等履修生	11	21	32
科目等履修生（通信教育課程）	203	265	468
聴講生	1	0	1
研究生	2	0	2
単位互換履修生	0	0	0

総合計	10, 831		
-----	---------	--	--

大学院・芸術専攻科 在籍者数

令和5年5月1日現在

令和5年5月1日現在

学年			1 年	2 年	3 年	4 年	合計	令和4年度 修了者数
修士課程・専門職学位課程								
文学 研究科	人間学専攻	男	0	0	－	－	0	1
		女	0	0	－	－	0	0
		計	0	0	－	－	0	1
	英語教育専攻	男	3	3	－	－	6	0
		女	0	0	－	－	0	3
		計	3	3	－	－	6	3
研農 研究科学	資源生物学専攻	男	9	14	－	－	23	4
		女	2	5	－	－	7	5
		計	11	19	－	－	30	9
工学 研究科	機械工学専攻	男	2	1	－	－	3	0
		女	0	1	－	－	1	0
		計	2	2	－	－	4	0
	電子情報工学専攻	男	6	10	－	－	16	8
		女	3	1	－	－	4	1
		計	9	11	－	－	20	9
マ ネ ジ メ ン ト 研 究 科	マネジメント専攻	男	2	3	－	－	5	2
		女	1	2	－	－	3	3
		計	3	5	－	－	8	5
研教 育科学	教育学専攻	男	3	12	－	－	15	3
		女	9	12	－	－	21	7
		計	12	24	－	－	36	10
	教職専攻	男	10	10	－	－	20	9
		女	5	5	－	－	10	2
		計	15	15	－	－	30	11
研脳 研究科学	心の科学専攻	男	2	1	－	－	3	0
		女	1	0	－	－	1	0
		計	3	1	－	－	4	0
修士課程・専門職学位課程 合計		男	37	54	－	－	91	27
		女	21	26	－	－	47	21
		計	58	80	－	－	138	48

学年			1 年	2 年	3 年	4 年	合計	令和4年度 修了者数
博士課程後期								
研農 研究科学	資源生物学専攻	男	1	4	1	－	6	2
		女	1	0	0	－	1	0
		計	2	4	1	－	7	2
研工 究科学	システム科学専攻	男	0	0	0	－	0	1
		女	0	0	0	－	0	0
		計	0	0	0	－	0	1
研脳 研究科学	脳科学専攻	男	2	1	0	－	3	0
		女	0	0	0	－	0	1
		計	2	1	0	－	3	1
博士課程後期 合計		男	3	5	1	－	9	3
		女	1	0	0	－	1	1
		計	4	5	1	－	10	4

芸術専攻科 芸術専攻	男	1	－	－	－	1	0
	女	0	－	－	－	0	1
	計	1	－	－	－	1	1

注：修士課程長期履修学生3年・4年コースの学生は2年次に含む。

大学 在籍者数 1－1

令和5年5月1日現在

部別		学年	1 年	2 年	3 年	4 年	合計	令和4年度 卒業者数
文学部	国語教育学科	男	32 (1)	40	23	35	130	37
		女	34 (0)	42	31	30	137	25
		計	66 (1)	82	54	65	267	62
	英語教育学科	男	31 (1)	43	26	54	154	31
		女	28 (0)	42	46	37	153	42
		計	59 (1)	85	72	91	307	73
	文学部計	男	63 (2)	83	49	89	284	68
		女	62 (0)	84	77	67	290	67
		計	125 (2)	167	126	156	574	135
農学部	生産農学科	男	112 (0)	74	76	92	354	107
		女	36 (0)	30	43	50	159	50
		計	148 (0)	104	119	142	513	157
	環境農学科	男	31 (1)	25	16	28	100	45
		女	20 (1)	14	10	12	56	22
		計	51 (2)	39	26	40	156	67
	先端食農学科	男	56 (0)	54	36	35	181	34
		女	32 (1)	30	30	42	134	31
		計	88 (1)	84	66	77	315	65
	農学部計	男	199 (1)	153	128	155	635	186
		女	88 (2)	74	83	104	349	103
		計	287 (3)	227	211	259	984	289
工学部	情報通信工学科	男	65 (0)	71	51	64	251	49
		女	5 (0)	12	2	4	23	7
		計	70 (0)	83	53	68	274	56
	ソフトウェアサイエンス学科	男	67 (3)	70	57	57	251	49
		女	9 (0)	12	11	11	43	14
		計	76 (3)	82	68	68	294	63
	マネジメントサイエンス学科	男	47 (2)	52	39	53	191	48
		女	15 (1)	23	10	26	74	16
		計	62 (3)	75	49	79	265	64
	デザインサイエンス学科	男	27 (4)	0	0	0	27	0
		女	10 (0)	0	0	0	10	0
		計	37 (4)	0	0	0	37	0
	エンジニアリングデザイン学科	男	0 (0)	38	26	37	101	36
		女	0 (0)	12	5	4	21	4
		計	0 (0)	50	31	41	122	40
	工学部計	男	206 (9)	231	173	211	821	182
		女	39 (1)	59	28	45	171	41
		計	245 (10)	290	201	256	992	223

注 : () 内数値は本学園高等部からの入学者数を示す。

大学 在籍者数 1－2

令和5年5月1日現在

部別			学年	1 年	2 年	3 年	4 年	合計	令和4年度 卒業生数
経営学部	国際経営学科	男	85 (0)	108	77	88	358	71	
		女	48 (1)	50	38	39	175	47	
		計	133 (1)	158	115	127	533	118	
教育学部	教育学科	男	101 (9)	91	104	119	415	129	
		女	136 (7)	149	135	143	563	141	
		計	237 (16)	240	239	262	978	270	
	教育学科 通信教育課程 (1-3に記載)								
	乳幼児発達学科	男	2 (0)	1	1	2	6	2	
		女	79 (6)	83	81	78	321	83	
		計	81 (6)	84	82	80	327	85	
教育学部計 (通信教育課程を除く)	男	103 (9)	92	105	121	421	131		
女	215 (13)	232	216	221	884	224			
計	318 (22)	324	321	342	1,305	355			
芸術学部	パフォーミング・アーツ学科	男	- (-)	-	-	14	14	17	
		女	- (-)	-	-	90	90	114	
		計	- (-)	-	-	104	104	131	
	メディア・デザイン学科	男	- (-)	-	-	38	38	33	
		女	- (-)	-	-	76	76	53	
		計	- (-)	-	-	114	114	86	
	芸術教育学科	男	- (-)	-	-	15	15	11	
		女	- (-)	-	-	41	41	24	
		計	- (-)	-	-	56	56	35	
	音楽学科	男	4 (0)	16	9	-	29	-	
		女	31 (0)	26	29	-	86	-	
		計	35 (0)	42	38	-	115	-	
	アート・デザイン学科	男	38 (1)	37	42	-	117	-	
		女	70 (7)	83	71	-	224	-	
計		108 (8)	120	113	-	341	-		
演劇・舞踊学科	男	17 (0)	20	11	-	48	-		
	女	80 (1)	91	87	-	258	-		
	計	97 (1)	111	98	-	306	-		
芸術学部計	男	59 (1)	73	62	67	261	61		
女	181 (8)	200	187	207	775	191			
計	240 (9)	273	249	274	1,036	252			
アリ 部 ッ ラ 学 部	リベラルアーツ学部計	男	83 (3)	89	65	85	322	82	
		女	90 (1)	102	104	85	381	104	
		計	173 (4)	191	169	170	703	186	
観 光 学 部	観光学部計	男	28 (3)	22	16	26	92	22	
		女	58 (3)	46	66	109	279	77	
		計	86 (6)	68	82	135	371	99	
合 計		男	826 (28)	851	675	842	3,194	803	
		女	781 (29)	847	799	877	3,304	854	
		計	1,607 (57)	1,698	1,474	1,719	6,498	1,657	

注 : () 内数値は本学園高等部からの入学者数を示す。

大学 在籍者数 1－3

令和5年5月1日現在

在籍種別			正科生	科目等履修生	合計	令和4年度 卒業者数
部別						
教育学部	教育学科通信教育課程計	男	633	203	836	14
		女	974	265	1,239	39
		計	1,607	468	2,075	53

幼稚部 在籍者数

令和5年5月1日現在

性別 \ 年齢	3 歳児	4 歳児	5 歳児				合計	令和4年度 卒園者数
男子	12	19	18				49	17
女子	14	17	28				59	21
計	26	36	46				108	38

小学部 在籍者数

令和5年5月1日現在

性別 \ 学年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計	令和4年度 卒業生数
男子	65 (16)	65	63	67	60	61	381	39
女子	68 (18)	69	70	71	68	65	411	72
計	133 (34)	134	133	138	128	126	792	111

中学部 在籍者数

令和5年5月1日現在

性別 \ 学年	7 年	8 年	9 年				合計	令和4年度 卒業生数
男子	72 (36)	86	90				248	79
女子	114 (63)	107	97				318	75
計	186 (99)	193	187				566	154

高等部 在籍者数

令和5年5月1日現在

性別 \ 学年	10年	11年	12年	専攻科			合計	令和4年度 卒業生数
男子	95 (69)	97	92	0			284	106
女子	96 (71)	116	112	0			324	117
計	191 (140)	213	204	0			608	223

注：（ ）内数値は本学園の各学校からの進学者数を示す。

注：初等中等教育機関は、寄附行為第4条に規定する学校表記とする。

注：初等中等教育機関の学年は、中学部は7～9年、高等部は10～12年と表記する。

科目等履修生 在籍者数

令和5年5月1日現在

部別			科目等履修生
文学部	国語教育学科	男	1
		女	0
	英語教育学科	男	1
		女	3
工学部	マネジメントサイエンス学科	男	0
		女	1
教育学部	教育学科	男	4
		女	1
芸術学部	芸術教育学科	男	0
		女	1
	演劇・舞踊学科	男	0
		女	1
教育学研究科	教育学専攻	男	5
		女	13
脳科学研究科	心の科学専攻	男	0
		女	1
合 計		男	11
		女	21
		計	32

教育学部	教育学科（通信教育課程）	男	203
		女	265
合 計		計	468

聴講生 在籍者数

令和5年5月1日現在

		聴講生
合 計	男	1
	女	0
	計	1

研究生 在籍者数

令和5年5月1日現在

		研究生
合 計	男	2
	女	0
	計	2

単位互換履修生 在籍者数

令和5年5月1日現在

		単位互換履修生
合 計	男	0
	女	0
	計	0

教職員在籍者数

(所属別)
令和5年5月1日現在

	教職員						教員					職員				
		合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
玉川大学																
文学研究科	男	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
農学研究科	男	2	0	0	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	女	2	0	0	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	計	4	0	0	4	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0
工学研究科	男	4	0	0	4	0	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
	計	5	0	0	5	0	4	0	0	4	0	1	0	0	1	0
マネジメント研究科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育学研究科	男	5	3	0	2	0	5	3	0	2	0	0	0	0	0	0
	女	4	1	0	3	0	4	1	0	3	0	0	0	0	0	0
	計	9	4	0	5	0	9	4	0	5	0	0	0	0	0	0
教職専攻専門職学位課程 (教職大学院)	男	6	6	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	6	4	0	2	0	6	4	0	2	0	0	0	0	0	0
	計	12	10	0	2	0	12	10	0	2	0	0	0	0	0	0
脳科学研究科	男	7	0	0	7	0	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	7	0	0	7	0	7	0	0	7	0	0	0	0	0	0
大学院	男	25	9	0	16	0	25	9	0	16	0	0	0	0	0	0
	女	13	5	0	8	0	12	5	0	7	0	1	0	0	1	0
	計	38	14	0	24	0	37	14	0	23	0	1	0	0	1	0
国語教育学科	男	9	6	0	3	0	9	6	0	3	0	0	0	0	0	0
	女	6	4	0	2	0	6	4	0	2	0	0	0	0	0	0
	計	15	10	0	5	0	15	10	0	5	0	0	0	0	0	0
英語教育学科	男	9	7	0	2	0	9	7	0	2	0	0	0	0	0	0
	女	10	4	0	6	0	10	4	0	6	0	0	0	0	0	0
	計	19	11	0	8	0	19	11	0	8	0	0	0	0	0	0
文学部	男	18	13	0	5	0	18	13	0	5	0	0	0	0	0	0
	女	16	8	0	8	0	16	8	0	8	0	0	0	0	0	0
	計	34	21	0	13	0	34	21	0	13	0	0	0	0	0	0
生産農学科	男	40	19	0	21	0	36	16	0	20	0	4	3	0	1	0
	女	14	10	1	3	0	13	10	0	3	0	1	0	1	0	0
	計	54	29	1	24	0	49	26	0	23	0	5	3	1	1	0
環境農学科	男	17	11	0	6	0	14	8	0	6	0	3	3	0	0	0
	女	3	3	0	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	20	14	0	6	0	17	11	0	6	0	3	3	0	0	0
先端食農学科	男	12	8	0	4	0	12	8	0	4	0	0	0	0	0	0
	女	5	4	1	0	0	4	3	1	0	0	1	1	0	0	0
	計	17	12	1	4	0	16	11	1	4	0	1	1	0	0	0
農学部	男	69	38	0	31	0	62	32	0	30	0	7	6	0	1	0
	女	22	17	2	3	0	20	16	1	3	0	2	1	1	0	0
	計	91	55	2	34	0	82	48	1	33	0	9	7	1	1	0
情報通信工学科	男	23	10	0	13	0	21	10	0	11	0	2	0	0	2	0
	女	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	計	24	10	0	14	0	22	10	0	12	0	2	0	0	2	0
ソフトウェアサイエンス学科	男	16	11	0	5	0	16	11	0	5	0	0	0	0	0	0
	女	12	0	0	12	0	4	0	0	4	0	8	0	0	8	0
	計	28	11	0	17	0	20	11	0	9	0	8	0	0	8	0
マネジメントサイエンス学科	男	17	8	0	9	0	17	8	0	9	0	0	0	0	0	0
	女	3	1	0	2	0	3	1	0	2	0	0	0	0	0	0
	計	20	9	0	11	0	20	9	0	11	0	0	0	0	0	0
デザインサイエンス学科	男	9	8	0	1	0	9	8	0	1	0	0	0	0	0	0
	女	2	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	11	10	0	1	0	11	10	0	1	0	0	0	0	0	0
エンジニアリングデザイン学科	男	20	2	2	16	0	16	2	0	14	0	4	0	2	2	0
	女	3	0	0	3	0	1	0	0	1	0	2	0	0	2	0
	計	23	2	2	19	0	17	2	0	15	0	6	0	2	4	0
工学部	男	85	39	2	44	0	79	39	0	40	0	6	0	2	4	0
	女	21	3	0	18	0	11	3	0	8	0	10	0	0	10	0
	計	106	42	2	62	0	90	42	0	48	0	16	0	2	14	0
国際経営学科	男	29	13	0	16	0	29	13	0	16	0	0	0	0	0	0
	女	10	3	0	7	0	10	3	0	7	0	0	0	0	0	0
	計	39	16	0	23	0	39	16	0	23	0	0	0	0	0	0
経営学部	男	29	13	0	16	0	29	13	0	16	0	0	0	0	0	0
	女	10	3	0	7	0	10	3	0	7	0	0	0	0	0	0
	計	39	16	0	23	0	39	16	0	23	0	0	0	0	0	0

教職員在籍者数

(所属別)
令和5年5月1日現在

	教職員						教員					職員				
		合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
教育学科	男	121	28	0	93	0	121	28	0	93	0	0	0	0	0	0
	女	88	14	0	74	0	87	14	0	73	0	1	0	0	1	0
	計	209	42	0	167	0	208	42	0	166	0	1	0	0	1	0
乳幼児発達学科	男	14	5	0	9	0	13	5	0	8	0	1	0	0	1	0
	女	21	5	0	16	0	21	5	0	16	0	0	0	0	0	0
	計	35	10	0	25	0	34	10	0	24	0	1	0	0	1	0
教育学部	男	135	33	0	102	0	134	33	0	101	0	1	0	0	1	0
	女	109	19	0	90	0	108	19	0	89	0	1	0	0	1	0
	計	244	52	0	192	0	242	52	0	190	0	2	0	0	2	0
アート・デザイン学科	男	14	6	1	7	0	13	6	0	7	0	1	0	1	0	0
	女	22	12	0	10	0	20	10	0	10	0	2	2	0	0	0
	計	36	18	1	17	0	33	16	0	17	0	3	2	1	0	0
演劇・舞踊学科	男	17	9	0	8	0	14	8	0	6	0	3	1	0	2	0
	女	11	3	0	8	0	10	3	0	7	0	1	0	0	1	0
	計	28	12	0	16	0	24	11	0	13	0	4	1	0	3	0
パフォーマンス・アーツ学科	男	30	0	0	30	0	29	0	0	29	0	1	0	0	1	0
	女	31	0	0	31	0	25	0	0	25	0	6	0	0	6	0
	計	61	0	0	61	0	54	0	0	54	0	7	0	0	7	0
メディア・デザイン学科	男	14	1	0	13	0	14	1	0	13	0	0	0	0	0	0
	女	13	0	0	13	0	13	0	0	13	0	0	0	0	0	0
	計	27	1	0	26	0	27	1	0	26	0	0	0	0	0	0
音楽学科	男	14	10	0	4	0	14	10	0	4	0	0	0	0	0	0
	女	8	2	0	6	0	7	2	0	5	0	1	0	0	1	0
	計	22	12	0	10	0	21	12	0	9	0	1	0	0	1	0
芸術教育学科	男	2	0	0	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0
	女	11	0	0	11	0	11	0	0	11	0	0	0	0	0	0
	計	13	0	0	13	0	13	0	0	13	0	0	0	0	0	0
芸術学部	男	91	26	1	64	0	86	25	0	61	0	5	1	1	3	0
	女	96	17	0	79	0	86	15	0	71	0	10	2	0	8	0
	計	187	43	1	143	0	172	40	0	132	0	15	3	1	11	0
リベラルアーツ学科	男	29	14	0	15	0	29	14	0	15	0	0	0	0	0	0
	女	24	10	0	14	0	22	10	0	12	0	2	0	0	2	0
	計	53	24	0	29	0	51	24	0	27	0	2	0	0	2	0
リベラルアーツ学部	男	29	14	0	15	0	29	14	0	15	0	0	0	0	0	0
	女	24	10	0	14	0	22	10	0	12	0	2	0	0	2	0
	計	53	24	0	29	0	51	24	0	27	0	2	0	0	2	0
観光学科	男	15	12	0	3	0	15	12	0	3	0	0	0	0	0	0
	女	4	2	0	2	0	4	2	0	2	0	0	0	0	0	0
	計	19	14	0	5	0	19	14	0	5	0	0	0	0	0	0
観光学部	男	15	12	0	3	0	15	12	0	3	0	0	0	0	0	0
	女	4	2	0	2	0	4	2	0	2	0	0	0	0	0	0
	計	19	14	0	5	0	19	14	0	5	0	0	0	0	0	0
教育学術情報図書館	男	5	3	2	0	0	0	0	0	0	0	5	3	2	0	0
	女	9	5	1	0	3	0	0	0	0	0	9	5	1	0	3
	計	14	8	3	0	3	0	0	0	0	0	14	8	3	0	3
教育博物館	男	9	7	0	1	1	6	5	0	1	0	3	2	0	0	1
	女	5	3	0	2	0	3	1	0	2	0	2	2	0	0	0
	計	14	10	0	3	1	9	6	0	3	0	5	4	0	0	1
学術研究所	男	28	10	0	18	0	28	10	0	18	0	0	0	0	0	0
	女	8	3	0	5	0	7	3	0	4	0	1	0	0	1	0
	計	36	13	0	23	0	35	13	0	22	0	1	0	0	1	0
脳科学研究所	男	82	12	13	57	0	77	12	9	56	0	5	0	4	1	0
	女	19	1	3	14	1	17	1	3	13	0	2	0	0	1	1
	計	101	13	16	71	1	94	13	12	69	0	7	0	4	2	1
量子情報科学研究所	男	10	5	0	5	0	10	5	0	5	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	10	5	0	5	0	10	5	0	5	0	0	0	0	0	0

教職員在籍者数

(所属別)
令和5年5月1日現在

		教 職 員					教 員					職 員				
		合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
教職課程支援室	男	48	8	0	40	0	41	1	0	40	0	7	7	0	0	0
	女	22	6	0	11	5	11	0	0	11	0	11	6	0	0	5
	計	70	14	0	51	5	52	1	0	51	0	18	13	0	0	5
教員研修室	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	4	2	0	1	1	1	0	0	1	0	3	2	0	0	1
	計	4	2	0	1	1	1	0	0	1	0	3	2	0	0	1
教師教育リサーチセンター	男	48	8	0	40	0	41	1	0	40	0	7	7	0	0	0
	女	26	8	0	12	6	12	0	0	12	0	14	8	0	0	6
	計	74	16	0	52	6	53	1	0	52	0	21	15	0	0	6
E L Fセンター	男	23	6	0	17	0	23	6	0	17	0	0	0	0	0	0
	女	27	10	0	17	0	23	6	0	17	0	4	4	0	0	0
	計	50	16	0	34	0	46	12	0	34	0	4	4	0	0	0
T A Pセンター	男	5	3	1	1	0	2	2	0	0	0	3	1	1	1	0
	女	4	3	0	0	1	0	0	0	0	0	4	3	0	0	1
	計	9	6	1	1	1	2	2	0	0	0	7	4	1	1	1
I C T教育研究センター	男	4	2	1	1	0	2	1	0	1	0	2	1	1	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	4	2	1	1	0	2	1	0	1	0	2	1	1	0	0
教務課	男	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0
	女	8	7	0	0	1	0	0	0	0	0	8	7	0	0	1
	計	12	11	0	0	1	0	0	0	0	0	12	11	0	0	1
学務課	男	8	4	0	0	4	0	0	0	0	0	8	4	0	0	4
	女	40	6	1	0	33	0	0	0	0	0	40	6	1	0	33
	計	48	10	1	0	37	0	0	0	0	0	48	10	1	0	37
授業運営課	男	12	10	2	0	0	0	0	0	0	0	12	10	2	0	0
	女	25	16	0	0	9	0	0	0	0	0	25	16	0	0	9
	計	37	26	2	0	9	0	0	0	0	0	37	26	2	0	9
教学部	男	24	18	2	0	4	0	0	0	0	0	24	18	2	0	4
	女	73	29	1	0	43	0	0	0	0	0	73	29	1	0	43
	計	97	47	3	0	47	0	0	0	0	0	97	47	3	0	47
研究推進課	男	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0	0
	女	20	4	7	0	9	0	0	0	0	0	20	4	7	0	9
	計	23	7	7	0	9	0	0	0	0	0	23	7	7	0	9
知財戦略課	男	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2	0	1	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2	0	1	0
研究推進事業部	男	6	5	0	1	0	0	0	0	0	0	6	5	0	1	0
	女	20	4	7	0	9	0	0	0	0	0	20	4	7	0	9
	計	26	9	7	1	9	0	0	0	0	0	26	9	7	1	9
学生支援課	男	6	5	0	1	0	0	0	0	0	0	6	5	0	1	0
	女	5	3	0	0	2	0	0	0	0	0	5	3	0	0	2
	計	11	8	0	1	2	0	0	0	0	0	11	8	0	1	2
学修支援課	男	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0
	女	10	3	0	2	5	0	0	0	0	0	10	3	0	2	5
	計	12	4	0	3	5	0	0	0	0	0	12	4	0	3	5
学生支援センター	男	8	6	0	2	0	0	0	0	0	0	8	6	0	2	0
	女	15	6	0	2	7	0	0	0	0	0	15	6	0	2	7
	計	23	12	0	4	7	0	0	0	0	0	23	12	0	4	7
入試課	男	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0
	女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	計	9	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9	9	0	0	0
入試広報課	男	6	4	2	0	0	0	0	0	0	0	6	4	2	0	0
	女	6	3	1	0	2	0	0	0	0	0	6	3	1	0	2
	計	12	7	3	0	2	0	0	0	0	0	12	7	3	0	2
入試広報部	男	13	11	2	0	0	0	0	0	0	0	13	11	2	0	0
	女	8	5	1	0	2	0	0	0	0	0	8	5	1	0	2
	計	21	16	3	0	2	0	0	0	0	0	21	16	3	0	2
キャリアセンター	男	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0
	女	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	0
	計	9	8	1	0	0	0	0	0	0	0	9	8	1	0	0
継続学習センター	男	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	女	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0
	計	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	4	1	0	0
国際教育戦略課	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	計	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
大学国際教育課	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	5	2	1	0	2	0	0	0	0	0	5	2	1	0	2
	計	5	2	1	0	2	0	0	0	0	0	5	2	1	0	2
K-12国際教育課	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	女	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	計	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
国際教育センター	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	女	8	5	1	0	2	0	0	0	0	0	8	5	1	0	2

教職員在籍者数

(所属別)
令和5年5月1日現在

		教 職 員					教 員					職 員				
		合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
	計	9	6	1	0	2	0	0	0	0	0	9	6	1	0	2
玉川大学	男	769	301	24	439	5	666	232	9	425	0	103	69	15	14	5
	女	544	171	18	281	74	351	92	4	255	0	193	79	14	26	74
	計	1313	472	42	720	79	1017	324	13	680	0	296	148	29	40	79

教職員在籍者数

(所属別)
令和5年5月1日現在

	教 職 員						教 員					職 員				
		合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
玉川学園																
幼稚園	男	2	1	1	0	0	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	女	19	4	5	10	0	17	4	3	10	0	2	0	2	0	0
	計	21	5	6	10	0	19	5	4	10	0	2	0	2	0	0
小学部	男	36	21	15	0	0	26	21	5	0	0	10	0	10	0	0
	女	35	15	17	3	0	27	15	9	3	0	8	0	8	0	0
	計	71	36	32	3	0	53	36	14	3	0	18	0	18	0	0
中学部	男	37	25	11	1	0	34	25	8	1	0	3	0	3	0	0
	女	28	11	10	7	0	24	11	6	7	0	4	0	4	0	0
	計	65	36	21	8	0	58	36	14	8	0	7	0	7	0	0
高等部	男	50	33	11	6	0	47	33	9	5	0	3	0	2	1	0
	女	28	14	6	8	0	25	14	5	6	0	3	0	1	2	0
	計	78	47	17	14	0	72	47	14	11	0	6	0	3	3	0
E S 推進室	男	3	1	1	1	0	1	0	0	1	0	2	1	1	0	0
	女	6	2	2	1	1	1	0	0	1	0	5	2	2	0	1
	計	9	3	3	2	1	2	0	0	2	0	7	3	3	0	1
図書・情報活用推進室	男	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0
	女	7	2	0	1	4	1	0	0	1	0	6	2	0	0	4
	計	9	3	1	1	4	1	0	0	1	0	8	3	1	0	4
アカデミックサポートセンター	男	5	2	2	1	0	1	0	0	1	0	4	2	2	0	0
	女	13	4	2	2	5	2	0	0	2	0	11	4	2	0	5
	計	18	6	4	3	5	3	0	0	3	0	15	6	4	0	5
学園教学課	男	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0
	女	29	12	5	4	8	0	0	0	0	0	29	12	5	4	8
	計	33	16	5	4	8	0	0	0	0	0	33	16	5	4	8
学園入試広報課	男	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	女	4	3	0	0	1	0	0	0	0	0	4	3	0	0	1
	計	6	5	0	0	1	0	0	0	0	0	6	5	0	0	1
学園教学部	男	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0
	女	33	15	5	4	9	0	0	0	0	0	33	15	5	4	9
	計	39	21	5	4	9	0	0	0	0	0	39	21	5	4	9
玉川学園	男	136	88	40	8	0	110	80	23	7	0	26	8	17	1	0
	女	156	63	45	34	14	95	44	23	28	0	61	19	22	6	14
	計	292	151	85	42	14	205	124	46	35	0	87	27	39	7	14

教職員在籍者数

(所属別)
令和5年5月1日現在

		教 職 員					教 員					職 員				
		合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
法人部門																
総務課	男	13	10	1	2	0	0	0	0	0	0	13	10	1	2	0
	女	6	2	2	1	1	0	0	0	0	0	6	2	2	1	1
	計	19	12	3	3	1	0	0	0	0	0	19	12	3	3	1
管財課	男	6	5	1	0	0	0	0	0	0	0	6	5	1	0	0
	女	4	2	0	1	1	0	0	0	0	0	4	2	0	1	1
	計	10	7	1	1	1	0	0	0	0	0	10	7	1	1	1
情報基盤システム課	男	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0
	女	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	2	0	0	1
	計	9	8	0	0	1	0	0	0	0	0	9	8	0	0	1
総務部	男	25	21	2	2	0	0	0	0	0	0	25	21	2	2	0
	女	13	6	2	2	3	0	0	0	0	0	13	6	2	2	3
	計	38	27	4	4	3	0	0	0	0	0	38	27	4	4	3
人事課	男	7	4	2	1	0	0	0	0	0	0	7	4	2	1	0
	女	12	9	3	0	0	0	0	0	0	0	12	9	3	0	0
	計	19	13	5	1	0	0	0	0	0	0	19	13	5	1	0
人事部	男	7	4	2	1	0	0	0	0	0	0	7	4	2	1	0
	女	12	9	3	0	0	0	0	0	0	0	12	9	3	0	0
	計	19	13	5	1	0	0	0	0	0	0	19	13	5	1	0
経理部	男	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0
	女	6	4	0	0	2	0	0	0	0	0	6	4	0	0	2
	計	11	9	0	0	2	0	0	0	0	0	11	9	0	0	2
保健センター 健康院	男	7	1	0	6	0	0	0	0	0	0	7	1	0	6	0
	女	11	3	2	6	0	0	0	0	0	0	11	3	2	6	0
	計	18	4	2	12	0	0	0	0	0	0	18	4	2	12	0
学友会事務部	男	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0
	女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	計	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	0
法人部門	男	46	32	5	9	0	0	0	0	0	0	46	32	5	9	0
	女	44	24	7	8	5	0	0	0	0	0	44	24	7	8	5
	計	90	56	12	17	5	0	0	0	0	0	90	56	12	17	5
監査室																
監査室	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
教育情報・企画部																
EQA課	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	女	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0
	計	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0
情報・調査課	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	計	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
資金運用課	男	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0
	女	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
	計	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	1	1	1	0
広報課	男	6	4	0	2	0	0	0	0	0	0	6	4	0	2	0
	女	5	3	1	0	1	0	0	0	0	0	5	3	1	0	1
	計	11	7	1	2	1	0	0	0	0	0	11	7	1	2	1
秘書課	男	6	3	0	3	0	0	0	0	0	0	6	3	0	3	0
	女	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2	0	1	0
	計	9	5	0	4	0	0	0	0	0	0	9	5	0	4	0
教育情報・企画部	男	15	9	0	6	0	0	0	0	0	0	15	9	0	6	0
	女	15	11	2	1	1	0	0	0	0	0	15	11	2	1	1
	計	30	20	2	7	1	0	0	0	0	0	30	20	2	7	1
玉川アスレチック・デパートメント																
玉川アスレチック・デパートメント	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	女	4	1	1	0	2	0	0	0	0	0	4	1	1	0	2
	計	5	2	1	0	2	0	0	0	0	0	5	2	1	0	2

教職員在籍者数

(所属別)
令和5年5月1日現在

		教職員					教員					職員				
		合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
収益事業部門																
	編集課	男	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0
	営業課	男	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	出版部	男	4	3	1	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	0
	購買部	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	収益事業部門	男	4	3	1	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	0
		教職員					教員					職員				
		合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
総合計	男	972	434	71	462	5	776	312	32	432	0	196	122	39	30	5
	女	763	270	73	324	96	446	136	27	283	0	317	134	46	41	96
	計	1,735	704	144	786	101	1,222	448	59	715	0	513	256	85	71	101

注1:教員は、教授、准教授、助教、講師、助手、研究員、教諭、養護教諭、常勤講師をいう。
注2:職員は、事務職員、技術職員、技術指導員、指導員、実習助手、英語ティーチングスタッフ、特別免許状を保有しないIB Programs Divisionの嘱託職員6名及びPrimary Division BLES・BLES-K担当の嘱託職員2名をいう。
注3:教職員数に非常勤の理事及び監事は含まない。
注4:出向者は出向元のみでカウントし、出向先の数には含まない。

令和5年度 教職課程受講者数（通学課程）

令和5年5月1日現在

学部名	学科名	人数				計
		1年生	2年生	3年生	4年生	
文学部	英語教育学科	50	63	58	49	220
	国語教育学科	63	69	42	40	214
	計	113	132	100	89	434
農学部	生産農学科	32	19	31	27	109
	計	32	19	31	27	109
工学部	ソフトウェアサイエンス学科	23	17	4	12	56
	マネジメントサイエンス学科	34	51	18	29	132
	情報通信工学科	7	4	3	3	17
	デザインサイエンス学科	4	-	-	-	4
	計	68	72	25	44	209
教育学部	教育学科（幼稚園）	3	5	9	12	29
	教育学科（小学校）	143	145	147	141	576
	教育学科（社会・公民・地歴）	46	49	23	29	147
	教育学科（保健体育）	45	41	48	55	189
	乳幼児発達学科	81	84	77	80	322
	計	318	324	304	317	1263
芸術学部	芸術教育学科（音楽）	-	-	-	31	31
	芸術教育学科（美術）	-	-	-	6	6
	音楽学科	23	23	27	-	73
	アート・デザイン学科	9	12	7	-	28
	計	32	35	34	37	138
合計		563	582	494	514	2153



for entry in 2023 履修ガイド

令和5年度 入学生用

2 履修の制限

●科目を履修するにあたっては、以下のような制限があります。

- ① 各セメスターで履修できる科目は、その合計が16単位以内です。
(詳しくは、下記「履修登録単位数の制限 (CAP制)」を参照)
- ② 履修できる科目は、各人が在籍するセメスターおよび下位セメスターにて開講の科目とします。
*在籍するセメスターより上位セメスターで開講している科目は履修できません。
- ③ 「B評価」以上で合格した科目は、再履修することはできません。
- ④ 同一時間帯に1科目を超えて履修することはできません。
- ⑤ 定期試験終了後、休暇期間中に開講される授業 (サマーセッション・ウィンターセッションは除く) の履修登録および単位の認定は翌セメスターに行います。
*したがって、卒業時の最終セメスター (学期) の学生は「履修単位の制限 (16単位CAP制)」の項にある履修上限外の科目を受講できない場合があります。

1 履修登録単位数の制限 (CAP制)

●各人が1週間に授業を受講して学修するには、おのずと限界があります。そこで本学では、履修できる科目の合計単位を各セメスター 16単位以内としています。上限16単位を超えて登録することは認められていません。

●ただし、上限16単位に含めない単位として、以下のものがあります。

- ① 「玉川の教育」
- ② 「音楽Ⅰ」
- ③ 「音楽Ⅱ」
- ④ 「体育」
- ⑤ 「玉川の行事・式典A～C」
- ⑥ サマーセッション、ウィンターセッションで修得した単位
- ⑦ 本学通信教育部が行う学内スクーリングの教職科目の単位 (教育学部のみ)
- ⑧ 海外留学・研修 (SAEプログラム等) で修得した単位 (「国際研究A～F」「SAE (海外留学・研修) プログラムA～J」等)
- ⑨ 行政の取り組み等に参加して認定された科目 (「地域創生プロジェクトA～F」)
- ⑩ 国内で実施した各種プログラムで修得した単位 (「フィールドワークA～C」)
- ⑪ 首都圏西部大学／ネットワーク多摩単位互換制度および共同授業の単位
- ⑫ 入学前に修得した単位 (玉川大学学則第18条～第20条により認定)
- ⑬ インターンシップを実施して認定された単位
- ⑭ 外国語科目の履修免除制度で認定された科目

2 成績優秀者の18単位履修制度

●前セメスターの当該学期GPA3.20以上という条件を満たした場合に、成績優秀者に対するスカラーシップとして上限16単位を超えて最大2単位まで履修登録することができます。

*留学前の学期GPAが3.20以上の場合、帰国直後の学期に適用します。

*休学前の学期GPAが3.20以上の場合、復学直後の学期に適用します。

▶セメスター制
参照『履修ガイド』
p.16

▶首都圏西部大学／ネットワーク多摩単位互換制度
および共同授業
参照『履修ガイド』
p.33

▶玉川大学学則
参照『学生生活ガイド』
p.148～157



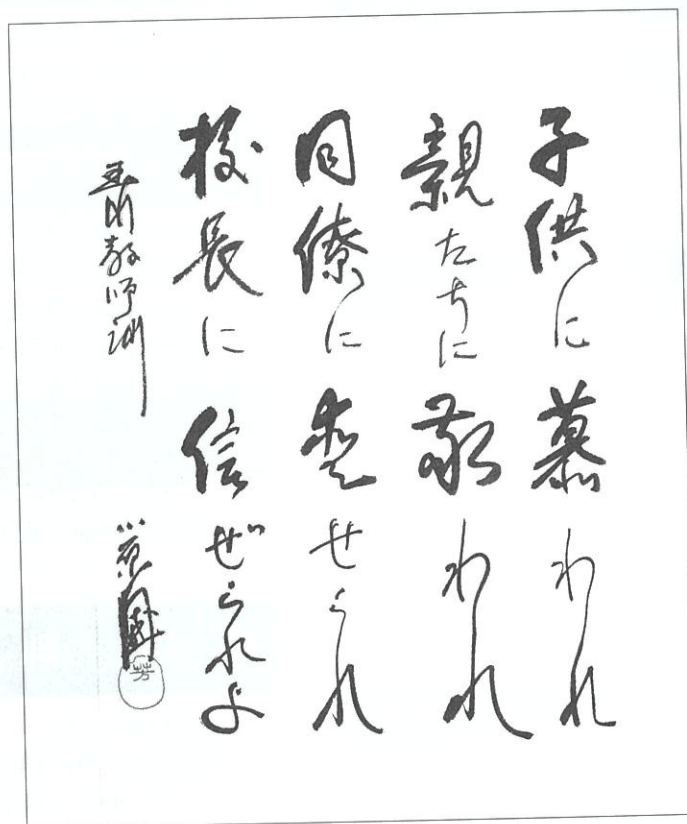
for entry in 2023 教職課程受講ガイド

令和5年度 入学生用

本学が目指す『教師像』

本学は、

玉川教師訓「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」を実践できる教師の育成を目指します。



本学が目指す『教師像』を実現するために、次の力量を備えた教師を養成します。

- ① 確かな学力と健やかな体を育てる「学習指導力」
- ② 豊かな心を育て自己実現を図る「幼児・児童・生徒指導力」
- ③ とともに高めあうクラスをつくる「学級経営力」
- ④ 新たな学校づくりを推進する「協働力」



2023年度

教師教育 リサーチセンター

玉川大学
玉川大学 大学院

文学部	国語教育学科 英語教育学科
農学部	生産農学科 環境農学科 先端食農学科
工学部	情報通信工学科 ソフトウェアサイエンス学科 マネジメントサイエンス学科 デザインサイエンス学科
教育学部	教育学科 教育学科 通信教育課程 乳幼児発達学科
芸術学部	音楽学科 アート・デザイン学科 演劇・舞踊学科
経営学部	国際経営学科
リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科
観光学部	観光学科
大学院教育学研究科	教職大学院



「教員養成の玉川」

「教員養成の玉川」の特徴

特徴

1

教育学部は長い伝統の中で数多くの教員を輩出

優れた教育学者で、教育実践家だった小原國芳の精神を色濃く受け継いでいるのが教育学部です。「自ら考え、自ら体験し、自ら試み、創り、行うことによってこそ、真の知育、徳育が成就する」と考え、「知行合一の強固なる意志と実践力を持った人間形成」を目指す「労作」教育や、「一級品にふれる」本物体験を重視した小原の理念は、教員としての実践力を養成する教育学部の体験教育に発展的に生かされています。1949年に前身である文学部教育学科として開設されて以来、長い伝統を誇る教育学部ではこれまで、確かな実践力を持つ、数多くの教員を全国に送り出しています。

卒業生教員数(現職)
(2023年2月現在)



特徴

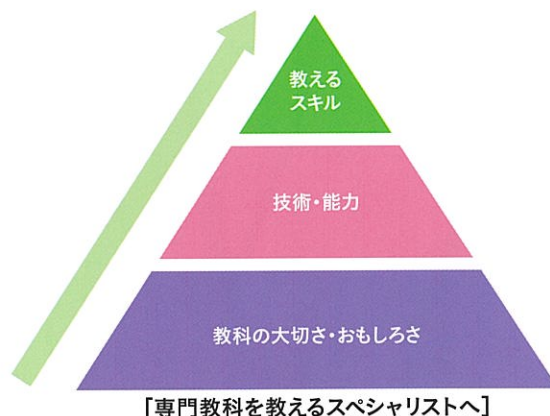
2

複数の免許を持った人材を輩出するダブル免許プログラム

教育学部では小学校教諭1種免許に加え、中学校「英語」「国語」「数学」「技術」「理科」「音楽」「美術」2種、高等学校「情報」1種の免許取得が可能となっています。

また、教育学部以外の学部でも教員免許を取得することができ、免許取得希望者は、専門科目に教職課程を加えることなく、すでに教職課程が組み込まれたカリキュラムを履修できることが大きな特徴です。

文学部、農学部、工学部、芸術学部では、中学校・高等学校の教員免許に加えて小学校教諭免許(2種)を取得できる制度を用意。各学部の専門分野の深い学びを通して得た知識と経験を生かし、教育現場で活躍できる教員を輩出しています。



※上記プログラムの利用には条件があります。

「教員養成の玉川」の歴史

創立者・小原國芳の精神を継承した教師像を追究

玉川大学の創設者・小原國芳は青年時代、理想に燃える学校教員でした。小原は自分が理想とする「ゆめの学校」を実現するため、玉川学園を創設。豊かな人間性と人格を涵養する「全人教育」を理念とした独自の教育を始めました。その創立者の精神は「玉川教師訓」として現在も継承され、「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」を実践できる教師の育成が、全学の教員養成の目標として掲げられています。



ゆめの学校

本学が目指す「教師像」

本学は、玉川教師訓「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」を実践できる教師の育成を目指します。そのために、次の力量を備えた教師を養成します。

1. 確かな学力と健やかな体を育てる
「学習指導力」
2. 豊かな心を育て自己実現を図る
「幼児・児童・生徒指導力」
3. ともに高めあうクラスをつくる
「学級経営力」
4. 新たな学校づくりを推進する「協働力」

子供に慕われ
親たちに敬われ
同僚に愛せられ
校長に信ぜられよ

玉川教師訓

人格優れた教員を育て、教員になってからもサポート

玉川大学では、伝統ある教育学部を中心に他学部からも優れた教員を数多く輩出し、全国の教育現場をはじめ、教育委員会や学校長・園長など教育界のリーダーとして幅広く活躍しています。玉川の「全人教育」による豊かな人間性を備えた教員は、これまでも高い評価を受けていますが、2012年には、さらなる“質の高い教員養成”を目指して「教師教育リサーチセンター」を開設。学生を対象とした教員養成にとどまらず、教員を対象とした教師教育にも力を注いでいます。

「教員養成」の学修環境

教育に関する最先端の実践や研究を展開する

キャンパスの中に幼稚部、小学部、中学部、高等部を併設し、日常的に子どもたちに接することができます。そこでは「K-12」一貫教育という先進的な取り組みのもと、学生の教育インターンシップも行われています。また、大学の脳科学研究所では心の発達やコミュニ

ケーション知能の研究、「赤ちゃんラボ」での乳児から幼児までの調査・研究など、「教育」に関わる独自の研究が行われています。このような最先端の教育実践や研究活動も、教員を目指す学生の教育に還元され、活用されています。

CLOSE UP 大学教育棟 2014

対話を軸に学びを深めるアクティブな学修環境

2015年4月に開館した「大学教育棟 2014」は、地上7階建ての建物に図書館、ラーニング・コモンズ、講義室などの最新設備を収容した、これまでにない新しい知の空間です。ICTを活用した最新鋭の「教育学術情報図書館」に隣接して、カンファレンス・ルーム、ワークショップ・ルーム、ラウンド・テーブル、フリースペースなど、多彩な部屋やスペースを用意。講義後や図書館での情報収集後、このスペースを活用した議論や対話などのアクティブ・ラーニングで、豊かな発想や表現を生み出し、主体的な学びを深めることができます。またラーニング・コモンズには、学修をサポートする大学院生がTA（ティーチング・アシスタント）として常駐するほか、教員に学修上の相談ができる学修支援サポート・デスクもあります。



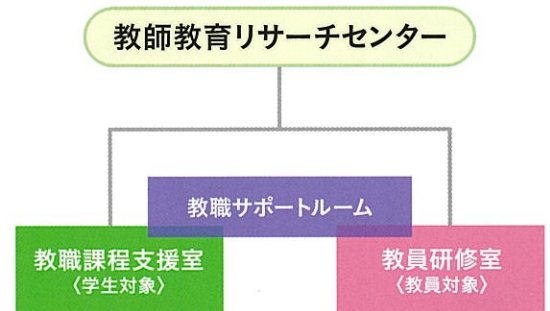
サポート 教師教育リサーチセンター

MESSAGE

玉川大学では、2006年4月、教職に関する総合センターとして「教職センター」を設置していましたが、さらなる“質の高い教員養成”と“教師教育学の研究活動推進”のために改組し、2012年4月に「教師教育リサーチセンター」を新設しました。

教師教育リサーチセンターは、教職課程履修学生のサポートをする『教職課程支援室』、そして教師教育に関わる研究活動を推進する『教員研修室』の2つの部門から成り立っています。当センターは、これまでの教職課程支援事務のみならず、教師教育(教員養成・採用・研修)に関する研究・調査を行う研究機関的要素、さらには教育委員会、小・中・高等学校、幼稚園、保育所との連携を推進する機能をもつ全学教員養成の全体を包括する組織として位置付けられています。

構成図



大学TOPICS 2014年4月に、日本初となる2コースを大学院 教育学研究科 (修士課程) に設置!

IB 研究コース

IB教員ならびにIB研究者の資格が取得できる

IBとは、国際的に通用する大学入学資格を付与するための国際基準によるプログラムで、知識の修得だけでなく、社会から求められている問題解決力や論理力などを身につけることを目的としたもの。玉川大学大学院 教育学研究科「IB研究」コースでは、国際バカロレア機構より認定を得てIB教員養成とその教育・研究を行っています。これまでの教師主導の学校教育と異なり、「教師は生徒の学習を支援する立場」と考えるIBの基本理念だからこそ、創立以来「全人教育」を掲げる玉川学園・玉川大学と自然に深い関わりを持つことができます。併設する高等部・中学部にもIBクラス(MYP、DP)を設置。教員養成と現場教育の往還が可能になっています。

教師教育学コース

教員養成を行う課程を担当できる大学教員を育成する

教員養成制度の改革が急がれる中、大学の教員養成機関では、指導力ならびに指導者としてふさわしい教育研究実績を有する実務経験者の登用など、実践的指導力を育成できる教員が求められています。しかし、そのためには採用に値する教員の養成が必要です。こうした社会からの要請に応え、玉川大学大学院 教育学研究科「教師教育学」コースでは、教師教育学の研究と教育を目的として2014年4月に本コースを開設。この分野を深く専門的に教授・研究することで必要な人材の育成を図ります。校長・教育長・幹部教員などの職にあつて、その豊富な経験を生かし、将来、大学で教員養成を担う大学教員を目指す人たちが入学の対象としています。

玉川独自の教員養成プログラムで、 教員を目指す学生をサポート

学生対象

教職課程支援室 Teacher Education Support

「教職課程支援室」では、教育実習、教職専門実習、保育実習、介護等の体験などの手続きを始め、教員免許状の一括申請等の申請業務のほか、教員(保育士)就職支援や採用試験対策講座等の学生支援を行っています。

また小・中・高等学校長、幼稚園長、保育所長経験者など、現場経験豊富なスタッフを擁する教職サポートルームを併設し、学生の指導や相談に応じています。



教員養成の取り組み

本学では、5学部11学科(2023年度入学生)・通信教育課程において、それぞれの学部学科の専門領域を活かした教員免許の取得が可能です。教職に就くという大学入学時のモチベーションを持続させ質の高い教員を養成するために、1年次から教職課程受講支援を実施し、大学4年間を通した教職課程受講支援プログラムを構築することで、一貫した学生支援を行っています。

現在、本学では、全学年合わせて約3,700名(大学院、通信教育課

程を含む)を超える学生が教員免許の取得を目指して学修しています。

通学課程においては、下記のような教職キャリアプランに沿って4年間を通して一貫した教職課程受講支援プログラムを展開しています。さらに大学院では、学部で学んだ専門領域を深め、より高い能力を備えた教員職等を目指す学生のために大学院6つの研究科のうち、文学研究科、農学研究科、工学研究科、教育学研究科・教職大学院で専修免許取得が可能となっています。

玉川大学の教職課程受講支援プログラム

	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
ステップ	教職の意義と基礎理論を学ぶ		指導法の基礎を学ぶ		教科・教職の専門性と 実践力を養う		実践と応用	総まとめ
大学の カリキュラム (授業)	教科の基礎を学ぶ				教科の専門的な学修		教育実習	教職実践 演習
	各教科の指導法に関する学修				教育実習事前指導			教育実習 事後指導
	領域・教科に関する専門的事項・教育の基礎的理解に関する科目の学修				教職の専門的な学修			
学外実習など	学校体験活動(教育ボランティア・教育インターンシップなど学校現場(他)における活動)							
採用試験対策	参観実習		介護等体験(事前指導含む)*		教育実習先開拓、事前指導、現場実習、事後指導			
	ガイダンス 模擬試験	筆記・面接・論文等試験対策 模擬試験・対策講座・自主学修会等			筆記・面接・論文等試験対策、総まとめ 模擬試験・対策講座・自主学修会等			教員採用試験 直前対策等

※芸術学部の場合。その他の学部は第5～6セメスターに実施

PICK UP

◆参観実習

特徴的な取組みの1つとして参観実習があります。参観実習は、教職課程を履修中の1年生(約600名)を対象に、教育ボランティア、3年次の教育実習事前指導、4年次の教育実習に先立ち、教える立場、教師の目線から、学校の1日を体験することで、学生の教育現場への理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに、進路選択の機会を与えることを目的として実施しています。

【実施先】 町田市立小・中学校、稲城市立小・中学校、川崎市立小・中学校、横浜市立小・中学校、相模原市立小・中学校、藤沢市立小・中学校等
私立幼稚園(町田市、多摩市、川崎市、横浜市等)



ココもポイント

教員(保育士)就職対策として、各種ガイダンス、対策講座、模擬試験の実施や日本語検定の導入も行っています。

通学課程・通信教育課程

教育実習・保育実習

教育実習は、学校現場での教育実践を通じて、また保育実習は保育現場での実践を通じて、学生自らが教員・保育士への実践的指導力を身につけるとともに、適性や進路を考える貴重な機会です。

本学では、教員・保育士を志す者としてふさわしい学生を、責任を持って実習校に送り出すべく、教育実習・保育実習事前指導の充実をはかっています。



「教育実習・保育実習」事前指導の概要

- ・現場実習に向けての心構え
- ・全人教育の実践的理解
- ・学校教育(公立学校の現状と課題、教育実践への理解、教員服務、実習生への期待など)
- ・学級経営と特別活動(特別支援、教育行事等を含め現場的視点からの実践的・具体的理解)
- ・授業演習(領域別の授業計画、指導案作成、学習指導の実際、教師としての基礎能力の充実) など

介護等の体験

介護等の体験は、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、高齢者等に対する介護、介護等の交流体験を行うことで、個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることを目的として、特別支援学校(盲・聾・養護学校)または社会福祉施設において行われています。

本学では、現職の特別支援学校長、社会福祉施設長より、体験を行う上での心構えや、体験の意義等を事前指導でお話頂くことで、学生に対し目的意識を持って体験に臨むことなど、体験を有意義なものにするための指導を丁寧に行っています。

教員・保育士採用試験対策講座

本学では、教員・保育士を目指す学生のためにさまざまな支援プログラムを実施しています。年間を通して、各対象学年向けの対策講座、採用試験の時期に応じた対策講座の実施をはじめ、筆記試験対策、模擬試験の実施、また各教育委員会の学内説明会も積極的に実施

しています。

さらに、教員採用に伴う学生の指導体制を整えるため、教職サポートルームを設置し、専門教員、担当職員が常駐し、学生に対する個別指導、キャリアカウンセリングにも対応しています。

ガイダンス・採用試験対策等の一例

- ・卒業生を招いての採用試験の概要解説
- ・全国教育委員会採用担当者による学内説明会
- ・面接や論文・作文の個別指導
- ・一次試験(一般教養・教職教養、専門教養)対策
- ・二次試験(実技を含む)対策
- ・模擬試験 など



学習相談会



教育委員会採用担当者による学内説明会

2022年度 教員採用者数一覧〈通学課程〉

公立学校教員	
校種	採用者数
幼稚園教員	3
小学校教員	171
中学校教員	66
高等学校教員	20
計	260

私立学校教員等	
校種	採用者数
幼稚園教員	34
小学校教員	6
中学校教員	7
高等学校教員等	8
大学講師等	—
計	55

公立・私立保育士等		
区分		
公立	私立	計
7	36	43

教員・保育士就職者数	
計	358

正規・非常勤等含む

2022年度 教員採用者数一覧〈通信教育課程〉

学校教員	校種	幼稚園教員	小学校教員〈全科〉	中学校教員〈社会〉	高等学校教員〈公民〉
	採用者数	3(3)	126	1	—

在学生にアンケート調査を行い、回答のあったデータ数。正規・非常勤等含む。カッコ内は私立学校教員数で内数

教職サポートルームについて

教員、保育士を目指す学生に対するキャリア形成支援、教職指導の一翼を担うため、小学校・中学校・高等学校の校長、幼稚園長・保育所長、教育行政経験者を教職サポートルーム客員教員として迎え、教職・保育職を目指す学生たちの夢を叶えるための相談、支援にあたっています。

教職サポートルーム教員は、教師教育リサーチセンターや各学部・学科の教職担当教員と連絡、調整しながら、教育実習に関する指導、教員・保育士採用候補者選考試験対策の企画・講師等を担当しています。

また、取り揃えた教科書・指導書や教職に関する参考書なども自由に閲覧できたり、模擬授業や共同討議などができるスペースを利用して、教職サポートルーム教員の指導を受けながら実践の指導力を身につけることができます。



教職サポートルーム客員教員

氏名	校種	専門分野
有馬 武裕	小	理科教育
飯島 将仁	小	生活科教育/特別活動
今城 徹	小	体育科教育
上野 和彦	小	算数科教育
宇田 陽一	小	体育科教育/生徒指導
小川 俊哉	小	理科教育
神田 しげみ	小	国語科教育
小林 巧	小	社会科教育
芹澤 成司	小・中	生徒指導・教育相談
瀧澤 優子	小	図画工作科教育
西川 克行	小	社会科教育/特別活動

氏名	校種	専門分野
波田 寿一	小	体育科教育/特別活動
藤澤 由紀夫	小	道徳科教育
宮谷 映美子	小	国語科教育
八嶋 真理子	小	理科教育/生活科教育
山口 祐一	小	特別活動
山重 ふみ子	小	算数科教育/生徒指導
余郷 和敏	小	国語科教育
風見 章	中・高	音楽科教育
大嶋 一夫	中・高	理科教育
門倉 松雄	中・高	理科教育/化学科教育
篠生 恵美子	中・高	国語科教育

氏名	校種	専門分野
永松 由次	中・高	保健体育科教育
林 孝之	中・高	美術科教育
福井 正仁	中・高	英語科教育
堀井 仁	中・高	国語科教育
山川 伸二	中・高	数学科教育
佐藤 博子	幼	幼児教育
鳥塚 恵子	幼	幼児教育
明田 貴和子	保	幼児教育
小野塚 正枝	保	幼児教育

校種別50音順

教職講座・実習指導担当客員教員

氏名	校種	専門分野
石上 和宏	中	社会科教育
酒井 浩明	小	理科教育

氏名	校種	専門分野
志村 明彦	小	社会科教育
鈴木 隆之	小・中	国語科教育

氏名	校種	専門分野
福島 博子	小・中	道徳科教育・国語科教育
渡辺 昭登	小・中	社会科教育

50音順

客員教授・フェロー・教授・研究員

客員教授	千葉大学 名誉教授	天笠 茂
	広島文化学園大学 学長・教授/広島大学 名誉教授	坂越 正樹
	東京薬科大学 教授	田子 健
	九州大学 名誉教授	八尾坂 修
	玉川大学 教師教育リサーチセンター	平井 広

フェロー	玉川大学 大学院教育学研究科 教授	森山 賢一
教授	玉川大学 教師教育リサーチセンター	柳瀬 泰
研究員	立命館大学 教授	森田 真樹
客員教授	独立行政法人教職員支援機構 玉川大学センター	笠原 陽子

ホームページ

玉川大学 教職課程の取り組みについてさまざまな情報を掲載しています。



公式SNS(Instagram)

教師教育リサーチセンターにて随時、情報を発信しています。



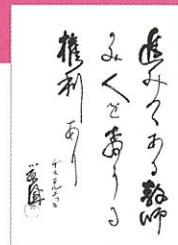
TMGW_KYOSHOKU

講習会や研究活動などを通して、 現職の教員を多様に支援

教員対象

教員研修室 Teacher Development

「教員研修室」では、教師教育、教員養成に関する研究活動の支援として、文部科学省委託調査研究事業や科学研究費助成事業に関する支援業務を行っています。また、研究活動支援だけでなく「教師教育フォーラム」、教職課程FD・SD研修の実施、日米教員養成協議会（JUSTEC）に係る業務（日本における事務局校）も担当しています。紀要・年報の発行など教員養成大学の主要部署として「教師教育研究」を主体的に行いつつ、近隣の教育委員会や学校などと連携し、現職の教員を対象にした研修会の開催や会場提供なども行っています。



「進みつつある人のみを教ふる 権利あり」※
小原園芳

※ドイツの教育学者
ディーステルヴェークの言葉

教育委員会との連携

令和4年12月の中教審答申『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」の中で、子供の学びを支える専門的かつ創造的な高度職業人としての教師像の確立に向け、教育委員会との積極的な連携・協働が求められています。

本学でも近隣教育委員会と連携協定を結び、教育ボランティア・インターンシップをはじめ、参観実習、教育実習等で学生がお世話になることも多くある一方で、大学教員が学校現場へ出向き授業や講演を行う、教育委員会等での研修に大学として協力・支援させていただく場面も多々あります。

また、本学では、独立行政法人教職員支援機構（NITS）の協力を得て、現職教員研修[校長] [中堅教員(指導主事含)]を主催しています。学校経営や組織マネジメントを推進する指導者の養成など、学校が直面する課題に組織的に対応し、特色ある教育活動を推進するマネジメント力と教職員の専門性向上も牽引する人材育成・研修推進力を育成する研修を行っています。

今後は学び続ける教師の支援のため、大学の知を活用した現職研修の充実を図る必要があり、継続的に教員の資質能力向上を実現する仕組みを構築することが重要となっています。本学では、教育委員会とのさらなる連携・協働を深めていきたいと考えています。

令和4年度 研修

- 校長研修：これからの時代の学校開発を目指して
- 中堅教員(指導主事含)研修：特色ある教育活動を推進するマネジメント力の育成



教師教育フォーラムの開催

教員養成の現状と今後の課題について理解を深めるためのフォーラムを毎年10月に主催しています。各界でご活躍されている方々をお招きし、教員養成に関する講演やシンポジウムを行い、教育界だけでなく、広く一般に向けても提言を行っています。



令和4年度テーマ

- 「令和の日本型学校教育」構築のための「新たな教師の学びの姿」

紀要・年報・教員養成研究の刊行

最新の教師教育や、教員養成に関する研究を推進し、その研究成果を広く公表するために『紀要』、『年報』と『教員養成研究』を発行しています。

『紀要』は、より高度な教師教育研究について原著論文のみ掲載し、世界を視野に入れた研究を行う目的で、『年報』は、特別寄稿をはじめ論説、原著論文、実践報告、教育実習報告、各種データ等を掲載し、本学の教師教育研究におけるさまざまな取り組みやデータを公表する目的で発刊しています。『教員養成研究』は、教職サポートルーム教員による教職課程科目に関わる事例研究や報告を掲載しています。



教職課程FD・SD研修の実施

本学の教員・職員に向けて教員養成に伴う最新の動向等を共有すべく、教職課程FD・SD研修を行っています。



令和4年度テーマ

- 「令和の日本型学校教育」の構築に関する答申と養成大学の今後の取り組み

研究助成金事業

文部科学省委託調査研究事業	
平成26年度	(1)「総合的な教師力向上のための調査研究事業」 (2)「免許更新制高度化のための調査研究事業」
平成27年度	「現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業」
平成28年度	(1)「免許更新制高度化のための調査研究事業」 (2)「現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業」 (3)「総合的な教師力向上のための調査研究事業」
科学研究費助成事業	
平成25年度 ～27年度	「教員養成制度の移行に関する総合的研究」
平成28年度 ～30年度	「教員育成」に関わる大学・教育委員会間関係の構築に関する研究

学部で取得できる教員免許・資格一覧 (2023 年度入学生)

- = 自学科開設科目受講により免許・資格取得
○=「ダブル免許プログラム」の受講により免許取得
◎= 他教科の中学校、高等学校専修免許状・1種または2種免許状を所有していることが必要。(単位修得後、授与権者の検定により中学2種も取得可)

免許・資格の種類	幼稚園教諭		小学校教諭		中学校教諭																		高等学校教諭										保育士				
					1種									2種									1種														
	1種	2種	1種	2種	国語	英語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	英語	国語	英語	地理歴史	公民	数学	理科	音楽	美術	工芸	保健体育		農業	情報	工業	
ラム				○	●																		●														
				○		●																		●													
				○				●																				●						●			
				○			●																					●							●		
				○			●																					●								●	
学科				○			●																					●							●		
学科				○			●																					●							●		
学科				○			●						●															●							●		
ラム				○			●																					●									
	●	●	●	●		●					●			○	●	○	○	○	○	●	○	○			●	●						●		○			
	●	●	●	●		●	◎								●	◎									●	●	◎										
	●																																			●	
科				○					●																				●								
				○						●																					●	●					

※上記一覧以外に取得可能な資格として、学校図書館司書教諭、図書館司書、社会教育主事(任用資格)・社会教育士、学芸員などがあります。その他の資格については下記方法でご確認ください。

本学で取得可能な免許・資格一覧参考 [玉川大学 教員免許・資格一覧](#)

大学院・専攻科で取得できる専修免許一覧

研究科	専攻	取得可能免許
文学研究科	人間学専攻	中学校教諭専修免許状(社会)
		高等学校教諭専修免許状(公民)
	英語教育専攻	中学校教諭専修免許状(英語)
		高等学校教諭専修免許状(英語)
農学研究科	資源生物学専攻	中学校教諭専修免許状(理科)
		高等学校教諭専修免許状(理科、農業)
専攻科	専攻	取得可能免許
芸術専攻科	芸術専攻	中学校教諭専修免許状(音楽、美術)
		高等学校教諭専修免許状(音楽、美術)

研究科	専攻	取得可能免許
工学研究科	機械工学専攻	高等学校教諭専修免許状(工業)
	電子情報工学専攻	中学校教諭専修免許状(数学)
		高等学校教諭専修免許状(数学、工業)
教育学研究科	教育学専攻	幼稚園教諭専修免許状
		小学校教諭専修免許状
	教職専攻 【教職大学院】	小学校教諭専修免許状
		中学校教諭専修免許状 ^{※1} 高等学校教諭専修免許状 ^{※2}

※1 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語 ※2 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、保健体育、保健、家庭、情報、農業、工業、英語



玉川大学 経塚オフィス棟内に設置

独立行政法人教職員支援機構 「玉川大学センター」の開設

平成27年5月の教育再生実行会議第7次提言を発端として「養成・採用・研修の一体的改革」は教育の重要課題とされています。こうした中、玉川大学は、令和元年3月、独立行政法人教職員支援機構(NITS)と「連携・協力に関する協定書」を締結し、令和元年10月には「独立行政法人教職員支援機構玉川大学センター」を開設し、令和2年度より「養成・採用・研修の一体的改革」を踏まえた研修拠点として、全国で6番目のNITS地域センターの活動をスタートしました。

玉川大学 教師教育リサーチセンター

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

教職課程
支援室

- ◆通学課程 042-739-8806 ◆通信教育課程 042-739-8848
◆教員・保育士就職 042-739-8161 ◆教職大学院 042-739-8340
mail t-box@tamagawa.ac.jp(求人関係)

教員
研修室

042-739-7097
mail t-kenshu@tamagawa.ac.jp



学校での 多様な体験活動による 理論と実践の往還

実践的指導力の質的向上を目指して
1年生から4年生まで毎年学校現場へ

2024
Start!

- 1年次からの実践での学びの確保で、大学での学習意欲の向上を図ります！
- 学校現場での学びと大学授業での学びが往還的になり、双方の学びの充実を図ります！
- 校長経験のある客員教員が、現場活動の事前・中間・事後指導に携わります！



学校での活動を増やし、学校や教職への理解を促進する **量的にも拡大**
1～3年次に必修120時間の現場活動を経て、4年次の教育実習を実施！

令和6年度入学生以降と令和5年度入学生以前の必修の実習時間数の比較

(単位：時間)

学年	1年次		2年次	3年次	4年次		計	
学校での実習活動	参観実習	学校体験活動A	介護等体験	学校体験活動B	教育実習			
令和6年度入学生	6	24	60	30	【2週間】 80		【2週間】 200	
令和5年度入学生以前	6	(選択)	(選択)	(選択)	【4週間】 160	【3週間】 120	【4週間】 166	【3週間】 126

体験日数、1日の体験時間は、学校の状況、大学の授業等を考慮して、柔軟に対応することが可能です。

参観実習

教師の立場で1日学校体験

憧れから夢の実現への一步を踏み出す 教員養成の入り口

参観実習は、教職課程を受講する1年生を対象に、教える立場、教師の立場から学校の1日を体験します。

学生の教職への自覚を促し、進路選択の機会を与えることを目的として、2012年度より実施しています。



学校体験活動A※

2024
Start!

参観実習で1日学校体験を終えた学生が、次のステップとして24時間(授業見学12時間、その他の補助業務12時間)の学校体験活動を実施します。

「チーム学校」を体験し、学校での感動を大学での学びに活かすことができる体験とすることを目指します。

実施例	条件	時期	理由	主な対象学生
2時間×12日	大学の授業を午前中空けられる場合	10～2月	多くの時期に分散して参加することにより、子供たちのさまざまな変化を体験するため	小学校・幼稚園・中学校(国語・英語・社会・理科・数学・技術)・高等学校を主免とする学生
3時間×8日				
4時間×6日	免許科目の特性および上記が困難な場合	以下に集中実施 9月・2月	各学校の合唱祭・音楽祭・展覧会・体育祭を準備する授業に参加するため	中学校(音楽・美術・保健体育)・高等学校を主免とする学生
6時間×4日				
8時間×3日				

※教育学部教育学科で幼稚園免許を主とする場合と教育学部乳幼児発達学科で幼稚園免許・保育士資格取得を目指す学生は、科目名称が「教育・保育体験活動A」となります。

介護等体験

2024
Start!

特別支援学級を設置する小・中学校で 早い時期から児童・生徒理解を深める取り組み

「学校体験活動A」に続き、60時間の特別支援学級における学校体験活動を実施します。

学校では多様な児童・生徒が学んでおり、対応も多様であることを学ぶ機会とします。



実施例	条件	時期	理由	主な対象学生
2時間×15日 + 6時間×5日	大学の授業を午前中空けられる場合	(春開始) 5～9月 (秋開始) 10～2月	多くの時期に分散して参加することにより、子供たちのさまざまな変化を体験するため	小学校・中学校(国語・英語・社会・理科・数学・技術)の免許を取得する学生
3時間×15日 + 5時間×3日				
4時間×15日	免許科目の特性および上記が困難な場合	以下の時期を中心に集中実施 (春開始) 9月 (秋開始) 2月	各学校の合唱祭・音楽祭・展覧会・体育祭を準備する授業に参加するため	中学校(音楽・美術・保健体育)・高等学校を主免とする学生
6時間×10日				

※1 小学校または中学校免許を取得する学生は必修です。

※2 幼稚園免許・高等学校免許のみ取得を目指す学生は、実施する必要はありません。

教育実習へつながる実践的指導力の基礎づくり

教育実習の受講を許可された学生が、前の学期に 30 時間の学校体験活動を実施します。

教育実習へつながりけるよう、教師になるという気持ちを高め、学校の環境への適応等さまざまな準備を整える活動と位置付けています。



実施例	条件	時期	理由	主な対象学生
2 時間 × 15 日	大学の授業を午前中空けられる場合	10 ～ 2 月	多くの時期に分散して参加することにより、子供たちのさまざまな変化を体験するため	小学校・幼稚園・中学校（国語・英語・社会・理科・数学・技術）・高等学校を主免とする学生
3 時間 × 10 日				
4 時間 × 7.5 日				
6 時間 × 5 日	免許科目の特性および上記が困難な場合	以下の時期を中心に集中実施 9 月・2 月	各学校の合唱祭・音楽祭・展覧会・体育祭を準備する授業に参加するため	中学校（音楽・美術・保健体育）・高等学校を主免とする学生

※1 原則として教育実習校での活動を想定していますが、遠方で教育実習を予定している学生が大学近隣の学校で実施する場合があります。

※2 教育学部教育学科で幼稚園免許を主とする場合と教育学部乳幼児発達学科で幼稚園免許・保育士資格取得を目指す学生は、科目名称が「教育・保育体験活動 B」となります。

教育実習

※芸術学部のみ
2026 Start!

2027
Start!

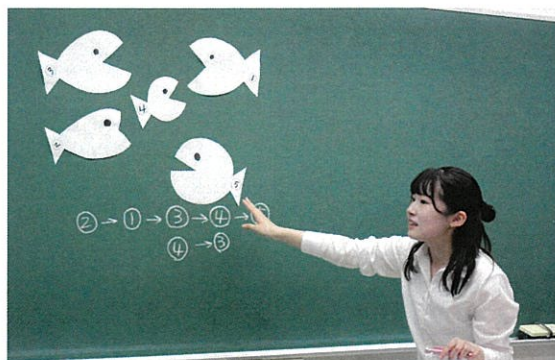
連続2週間実習による実践的指導力の総仕上げ

連続しての実施は 2 週間となりますが、1 ～ 3 年次に積み上げてきた 120 時間の学校体験活動による必修実習を含めた総仕上げに位置付けられる免許取得のための最も重要な実習です。

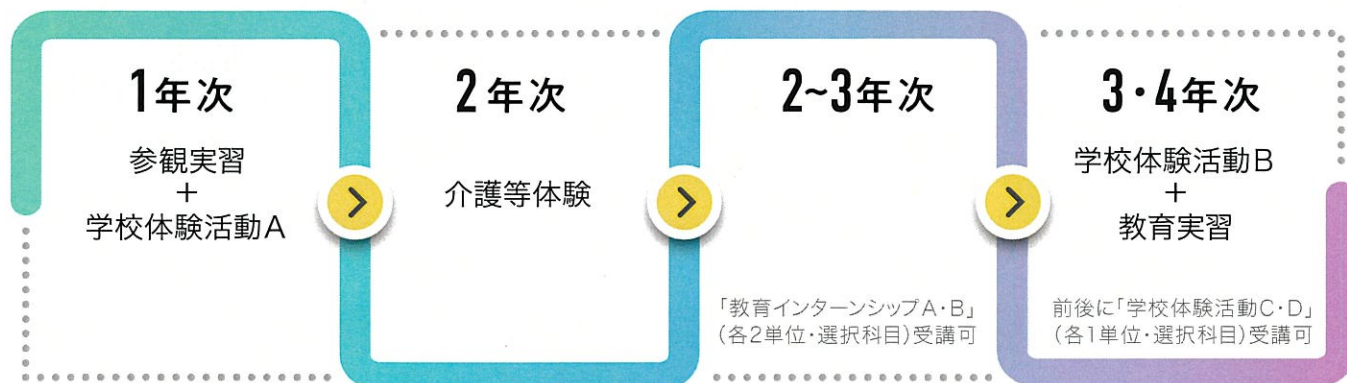


～現場で即戦力となる 教員の養成を目指して～

2024
Start!



玉川メソッドによる教員養成



玉川大学の教職課程受講支援プログラム

＊1年生から4年生まで常に教育現場で実践的指導力を学び、理論と実践の往還を繰り返すことで、即戦力となる教員の養成を目指します！

		1年次		2年次		3年次		4年次		
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター	
ステップ		教育現場に学ぶ								
		教養を身につける		実践的指導力の基礎を身につける		実践的指導力を身につけ、教員採用試験に備える				
大学の カリキュラム (授業)	理論	教職の意義と基礎理論を学ぶ		指導法の基礎を学ぶ		教科・教職の専門性と 実践力を養う		実践と応用	総まとめ	
		教科の基礎を学ぶ								
						教職の専門的な学修				
						各教科の指導法に関する学修		教育実習 3 単位	教職実践 演習	
	領域・教科に関する専門的事項・教育の基礎的理解に関する科目の学修									
	実践					教育実習先開拓		教育実習事前指導		教育実習事後指導
学校体験活動										
		参観実習+学校体験活動A 1単位		介護等体験 2単位		学校体験活動B 1単位		学校体験活動C・D (現場実習)各1単位		
				教育インターンシップA・B 各2単位		教育インターンシップC・D 各1単位				
採用試験対策		ガイダンス	筆記・面接・論文等試験対策			直前対策	教員採用試験	直前対策	教員採用試験	
					筆記・面接・論文等試験対策、総まとめ					
		模擬試験	模擬試験・自主学会等			模擬試験・自主学会等			特別講話等	

玉川大学教師教育リサーチセンター

〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1

教職課程
支援室

【通学課程】042-739-8806

【教員・保育士就職】042-739-8161

Mail: t-box@tamagawa.ac.jp (求人関係)

【通信教育課程】042-739-8848

【教職大学院】042-739-8340

教員
研修室

042-739-7097

Mail: t-kenshu@tamagawa.ac.jp

玉 川 大 学

教 育 実 習 日 誌

自 令和 年 月 日
至 令和 年 月 日
(週間)

実習校

実習教科

大学指導教員

学部 学科 年	氏 名	
---------------	--------	--

本学のモットー

くまの果³ 苦しい
いやな 辛³に 堪³え
場面と 真³の 先³せん
微笑³を以³て 担³当³せよ
玉川
三好

玉川教師訓

子供に 慕³われ
親³たちに 敬³われ
同僚に 愛³せられ
校長に 信³ぜられよ
玉川
三好

本学が目指す「教師像」

本学は、

玉川教師訓「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」を
実践できる教師の育成を目指します。

そのために、次の力量を備えた教師を養成します。

- ① 確かな学力と健やかな体を育てる「学習指導力」
- ② 豊かな心を育て自己実現を図る「幼児・児童・生徒指導力」
- ③ とともに高めあうクラスをつくる「学級経営力」
- ④ 新たな学校づくりを推進する「協働力」



令和6年1月16日 全学園連絡会

教員養成支援の成果と課題 2023

教師教育リサーチセンター

Contents 成果と課題

はじめに～2023年度の報告

- ① 教育実習の柔軟な見直し
- ② 教職課程認定申請
- ③ 中学校複数免許取得
- ④ 実務家教員による指導体制
- ⑤ 教員採用試験対策講座
- ⑥ 併設校との連携
- ⑦ 教職研究
- ⑧ 教員研修

令和5年度実施までの

公立学校(園)教員採用試験結果の推移

目標:名簿登載率
50%(合格率)

【通学・通信合計】

2019年度59.0%

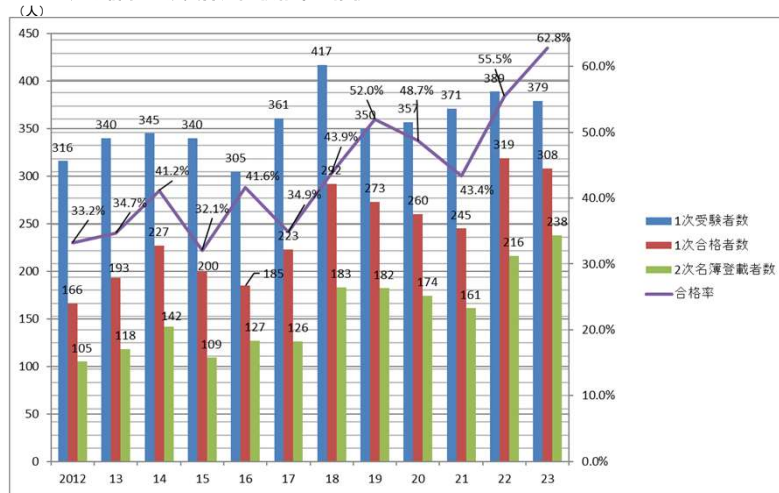
2020年度53.2%

2021年度47.9%

2022年度59.1%

2023年度62.5%

■通学課程の教員採用試験結果の推移



3

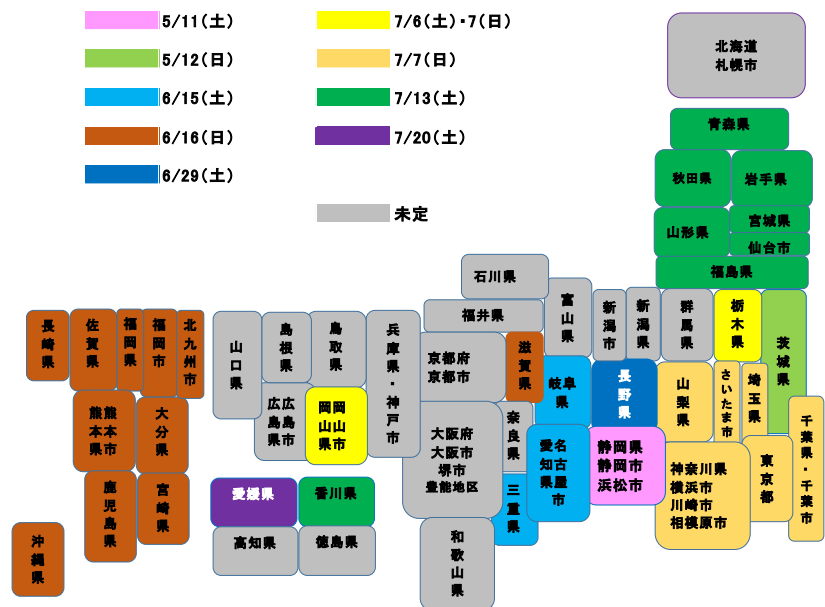
教員採用選考試験の早期化・複線化

●令和4年10月3日 文部科学大臣が会見にて、「2024年度より新しい教員採用選考の仕組みをスタートさせる」ことを明言。

●令和4年12月19日 中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～(答申)にて、教員採用選考試験実施時期の早期化・複線化について検討する必要性を提言。



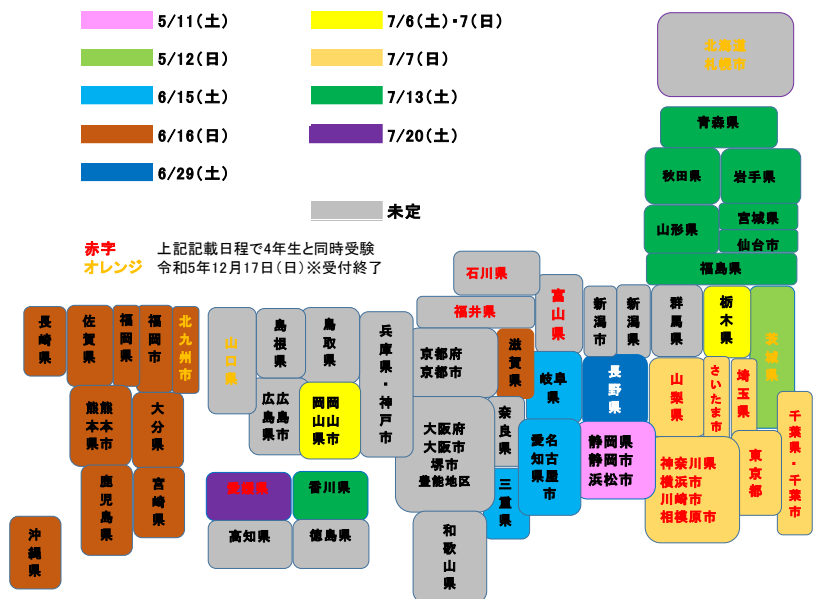
2024年度実施 教員採用試験 日程



5

2024年度実施 教員採用試験 日程

【3年次受験
実施自治体】



6

① 教育実習の柔軟な見直しによる新制度構築

成果

玉川大学の教員養成改革：「教育実習の柔軟な見直し」を実現！
実践的指導力の質的向上を目指し、1～4年次まで毎年学校現場へ

学校での多様な体験活動による理論と実践の往還

1年次：「参観実習」…教師の立場で1日学校体験
…6時間分現場実施

「学校体験活動A」…24時間分現場実施



2年次：「介護等体験」…特別支援学級を設置する
小・中学校で早い時期から児童・生徒理解を深める取り組み

…60時間分現場実施

3年次：「学校体験活動B」…教育実習へつながる実践的指導力の基礎づくり

…30時間分現場実施



4年次：「教育実習」…連続2週間実習による
実践的指導力の総仕上げ
…80時間分現場実施



◆Point◆

1. 教育実習実施までに、合計120時間現場へ
2. 介護等体験を特別支援学級設置の学校で実施
3. 学校体験活動・介護等体験を単位化し、授業空き時間を利用して実施。
4. 現場体験120時間を経て教育実習2週間により、教員採用試験の早期化等へ対応。
5. 学生が早い段階から現場へ行くことにより、より質の高い、即戦力となる教員養成を実現。

☆文部科学省推奨：「学校体験活動」から
「教育実習」へ繋げていく、中教審の指針を
実現する先駆的な取り組み！

① 教育実習の柔軟な見直し ピンチからチャンスへ

課題

令和2年度 コロナ禍における対応

①WEB参観実習の実施

②教育実習の秋学期延期

③介護等体験代替措置の実施（令和5年度まで）

令和3年度 参観実習の少人数実施に伴う地域拡大

令和4年度 中央教育審議会答申（12月19日）

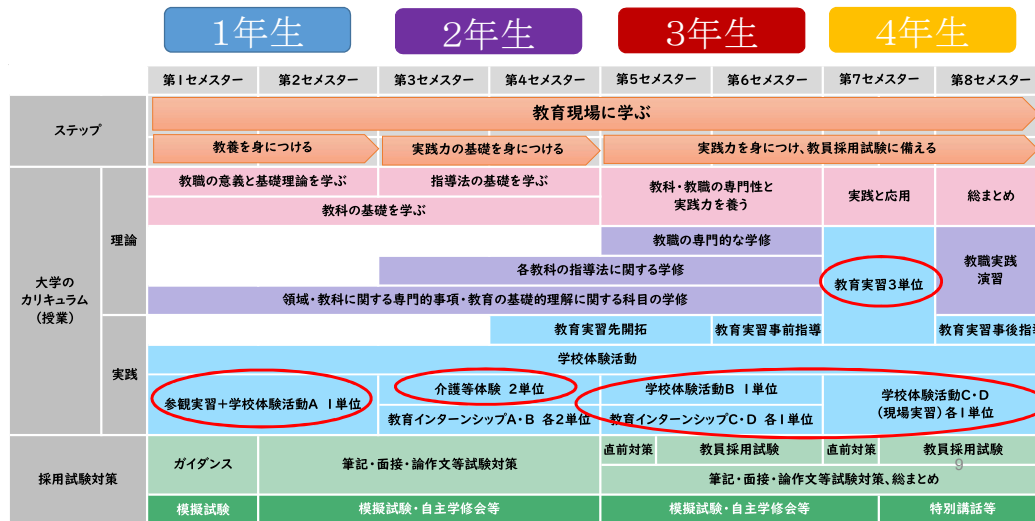
令和5年度 教育実習の柔軟な見直し（令和6年度より実施）



令和6年度 選択科目「教育インターンシップ」テーマ特化型プログラムの検討・開発（令和7年度より実施）

4年一貫した教職課程受講支援プログラム

●令和6年度改訂



② 教職課程認定申請における委員会指摘0

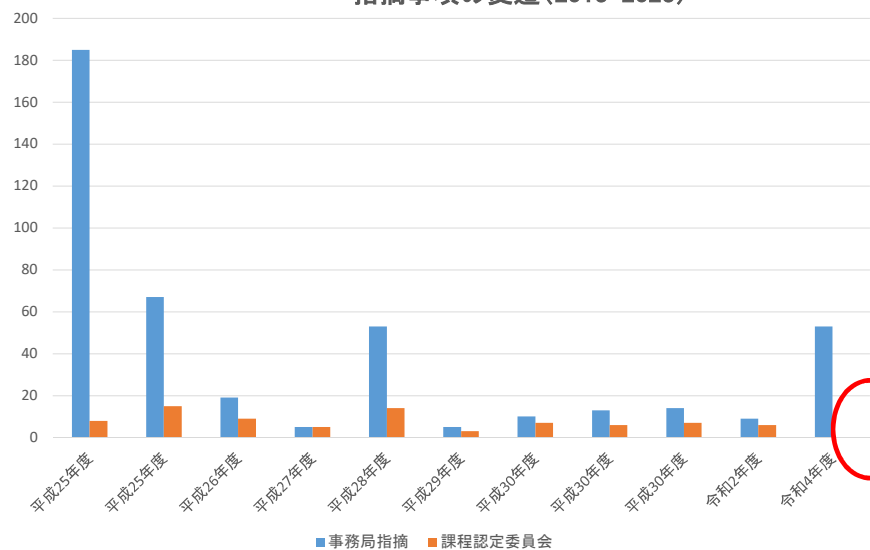
成果

100件に1~2件の
快挙!

2023年度開設
工学部
デザインサイエンス学科

少人数からチームで
の確認体制へ転換

指摘事項の変遷(2013-2023)



② 教職課程認定申請へ向けた専任教員配置

課題

令和元年度 学内業績審査の開始
令和3年度 義務教育特例による小学校2種免許取得カリキュラム
令和4年度 工学部デザインサイエンス学科申請
令和5年度 小学校2種免許課程認定申請

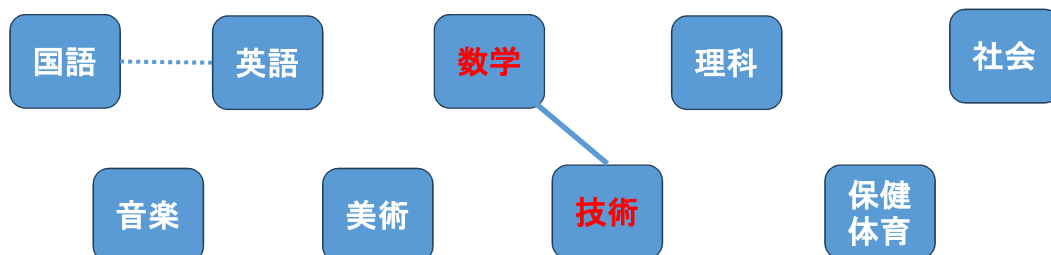


令和6年度 今後の申請へ向けて専任教員配置シミュレーション
および業績追加の経過把握方法を検討

③ 中学校複数免許取得の実現

成果

教員採用試験における加点制度の対象
学校現場における希少免許取得率向上の要請
令和5年度入学生より、工学部デザインサイエンス学科において
「数学」と「技術」の中学校複数免許取得が可能となる
令和6年度入学生より、文学部国語・英語併有プログラム実施検討中



③ 中学校複数免許取得のさらなる推進・拡充

課題

令和元年度 教育学科ダブル免許プログラムの開設
文科省中教審教員養成部会にて
「本学小中免許併有の推進」報告

令和5年度入学生より、工学部デザインサイエンス学科において
「数学」と「技術」の中学校複数免許取得が可能となる
令和6年度入学生より、文学部国語・英語併有プログラム実施検討中



令和7年度入学生より、その他の組み合わせが実施可能かを検討

④ 実務家教員による指導体制の改善・整備

成果

令和元年度 教職サポートルーム客員教員の業務改善開始
(通学・通信一体的対応)

令和2年度 教職サポートルーム客員教員の定数削減開始



令和3年度 教職サポートルーム客員教員の勤怠スケジュール把握

令和5年度 教職講座・実習指導担当客員教員の新設
地方自治体実習訪問指導&教員採用試験対策開始

令和6年度 業務改善による給与支給改定
教育実習訪問指導の首都圏全件実施

④ 実務家教員による指導体制の拡充

課題

【都道府県別】通学課程学生 教育実習実施校
令和2年度～令和4年度 実績平均値

東京都・神奈川県 150～200校

千葉県・埼玉県 30～40校

茨城県・静岡県 20～30校

宮城県・新潟県・福島県・長野県・
栃木県・群馬県・山梨県 6～15校

北海道・青森県・岩手県・秋田県・山形県・石川県・
岐阜県・愛知県・広島県・沖縄県 2～5校

富山県・三重県・兵庫県・香川県・山口県・
福岡県・熊本県・宮崎県・鹿児島県 1～2校

上記以外 府県 0校



*実習地域と採用試験受験地域はほぼ同等の割合。

令和4年度までの教育実習訪問地域 東京都・神奈川県・千葉県*・埼玉県*

↓ 実績を元に、教職講座・実習指導客員教員（茨城県・静岡県担当）を採用

令和5年度 教育実習訪問指導+採用試験対策講座 地域を拡充！

東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県全域 → 茨城県・静岡県 全域へ訪問指導先拡充

2029年度（令和11年度）までに

◆教育実習に伴う大学指導教員訪問指導実施率100%

◆首都圏以外の自治体教員による教員採用試験対策講座実施のため、自治体の求める教師像理解に向け地元出身の校長経験者（教職講座・実習指導客員教員）の採用100%

2023年度（令和5年度）実績

1.茨城県・静岡県 訪問指導実施

2.茨城県・静岡県 教員採用試験合格率 前年度20～30% UP!

茨城県（R4:26名中5名合格 19.2%→R5:23名中9名合格 39.1%）

静岡県（R4:12名中3名合格 25%→R5:15名中8名合格 53.3%）

2024年度（令和6年度）からの拡充 都道府県

群馬県・栃木県・福島県・新潟県市・山梨県・長野県

2025年度（令和7年度）からの拡充 都道府県

北海道・札幌市・宮城県・仙台市・山形県

東海地方（愛知県・名古屋市など3県市）付近

2027年度（令和9年度）からの拡充 都道府県

近畿地方・中国地方・四国地方・九州地方

⑤ 教員採用試験対策講座の前倒し

成果

教員採用試験の早期化対策として、講座を前倒し実施

1年生

2年生

3年生

4年生

以前

論作文

面接

現行

論作文

ICT

面接

ICT

改正

論作文

ICT

面接

一次・
二次対策

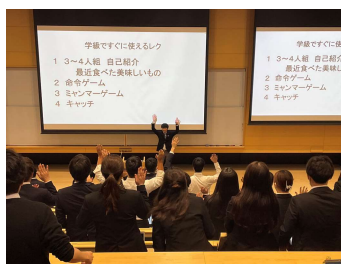
⑤ 教員採用試験対策講座と授業の連動

課題

授業と講座の指導内容を分析して、学校現場の課題を指導内容に盛り込む必要がある（例）保護者対応、学級経営、安全教育 等



「教職概論」「教育実習事前指導」「教職実践演習」
の指導内容見直しと新たな教職講座プログラムの開発



⑥ 併設校との連携強化

成果

令和2年度 教育実習代替措置の補完プログラム実施
（併設校の学内説明会録画、事前指導の動画使用協力）

令和4年度 教育実習協議会による意見交換

令和5年度 ボランティア募集の連携

臨時的任用教員希望学生を採用候補者として紹介
近隣学校の併設校学校見学会希望を橋渡し



⑥ 併設校との連携のさらなる強化

課題

令和6年度 「学校体験活動A」の学生派遣
令和7年度以降 「教育インターンシップ」の学生派遣
併設校参観実習の実施



⑦ 教職研究の充実

成果

令和元年度 「教員養成研究」創刊
令和2年度 「教育実習ガイド」「保育者養成・実習ガイド」公刊
令和3年度 再課程認定経過措置対応に伴う「年報」増刊号発行
令和4年度 「年報」に教職課程認定申請を見据えた
「教育実習報告」の掲載開始



⑦ 教職研究のさらなる充実

課題

「年報」「教員養成研究」へ新たな教育実習で業績が必要となる
「学校体験活動」「介護等体験」の報告を掲載



⑧ 教員研修の新たな創出

成果

教員研修：教師教育、教員養成に関する研究活動および現職教員を支援

●研修

「新たな教師の学びの姿」、
教職員の資質・能力向上を目指
した研修の高度化および体系化

- ☑社会情勢、職域の特性や課題を踏まえた研修内容の提供
- ☑自身の問題解決の場の提供
- ☑課題解決のための具体的な方法や取組を明確化 (Why-What-How)
 - ・校長研修
 - ・副校長、教頭、指導主事研修
 - ・指導主事研修
 - ・中堅教員研修

●連携

教育委員会との連携
学校の協働的探究 (組織的な改善等)

- 教職員の探究的な学びの創出・支援
- ☑教師人材確保強化に向けた取り組み
 - ☑求められる学校像・教師像の実現
 - ・ベーパーティーチャー研修の実施
 - ・講師派遣

●促進・発信

教師教育や教員養成に関する研究の促進・研究成果発表

- ☑教師教育・教員養成に関する興味・関心の醸成
- ・「年報」「紀要」「教員養成研究」刊行
- ・教師教育フォーラムの開催
- ・FD・SD研修の実施



教員研修



教師教育フォーラム

◆Point◆

「教員研修」に関連して、さまざまな角度から「新しい時代 (変化の時代) に対応できる質の高い教職員集団の形成」に向けてアプローチをする。

⑧ 教員研修のさらなる充実

課題

令和元年度 (独)教職員支援機構(NITS)玉川大学センター開設
令和4年度 教員免許状更新講習の発展的解消
令和5年度 新たな教員研修を展開



令和6年度 (独)教職員支援機構(NITS)玉川大学センターの継続
研修の質量充実へ向けて、講師陣の確保

ご清聴ありがとうございました



玉川大学における 教員養成への取り組み



文部科学教育通信
No.351～353 より抜粋

玉川大学教師教育リサーチセンター
平成 27 年 3 月

ここに掲載したものは、『文部科学省教育通信』No. 351～No. 353 「連載 学修支援の教育方法」第34回～第36回に掲載された文書を抜粋したものです。

◆第34回

教員養成における単位の実質化への取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・
――16単位CAP制度の導入と全学教職課程カリキュラム――

◆第35回

四年間を通じた教職課程指導・支援体制の試み・・・・・・・・・・・・・・・・
――キャリアプランを明確にしたプログラムの開発――

◆第36回

教員養成の質向上に向けた教職課程の全学体制による組織の運営・・・・・・・・
――教師教育リサーチセンターによる全学学生支援と研究活動の推進――

連載 学修支援の教育方法 第34回

教員養成における単位の実質化への取り組み ―16単位CAP制度の導入と全学教職課程カリキュラム―

玉川大学教育学研究科教職専攻・教育学部教授
玉川大学教師教育リサーチセンター長
森山 賢一

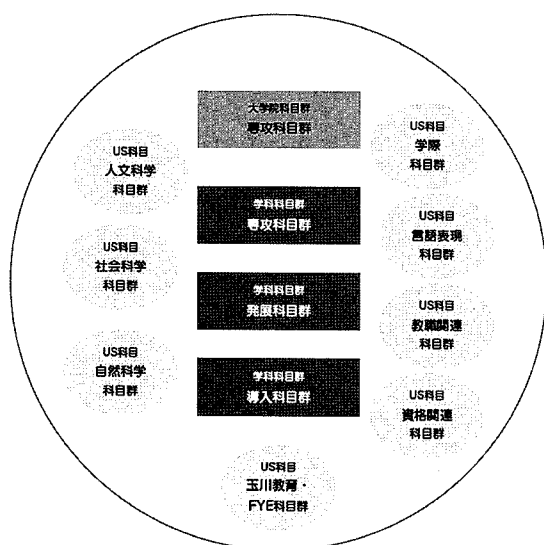
玉川大学は、全学体制における教員養成の充実に向けて、「教師教育リサーチセンター」を設置し、「質の高い教員養成」の実施に向けて具体的な対応に取り組んでいる。本学では、全学として二〇一三（平成二十五）年度入学生から、半年間に履修できる単位数を一六単位に制限しており、教職課程全科目もその例外ではなく、その学部・学科の卒業単位に含まれ、教員養成における単位の実質化に取り組んでいる。本稿では、本学での一六単位CAP制度における全学体制教職課程の指導支援について紹介する。

本学カリキュラムの特徴

本学のカリキュラムは、教養豊かな幅広い知識を持ち、基礎学力の堅固な基盤と高度な専門能力を持った有為な人材を育成するために、ユニバーシティ・スタンダード科目と学科科目群で構成されている。

ユニバーシティ・スタンダード科目は、学士課程教育において重要な役割を果たす教養

図1 ユニバーシティ・スタンダード科目（US科目）の位置付け

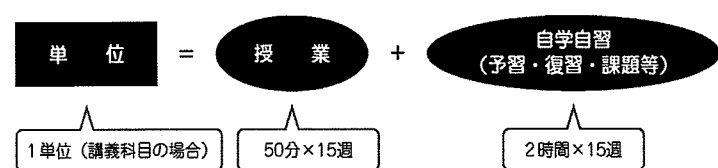


教育と、専門教育との連動を目指して構成されている。広い教養の世界に旅立つ学生の原点となる科目は、所属学科で専攻する領域と並行して学ぶことで、様々な学問分野にふれると同時に、自らの専門領域の学問的・社会的役割と関連づけて理解できるようにになっている。教員免許状を取得するために必要な教職に関する科目は、この中の「教職関連科目群」として開設されている。学科科目群は、導入科目群、発展科目群、専攻科目群に区分され、学修進度に合わせて順に履修するように開設されている。各学科で取得することができる免許種により、その教科の専門性を高めるための科目は、学科科目群の中に開設されている。このカリキュラム構成により、学生は四年間を通して学修をすすめて、「学士」にふさわしい力「学士力」を身につけていくことが可能になっている。

16単位CAP制度と教職課程科目

一方、大学での学修は授業とその予習・復

図2 授業と予習・復習で成り立つ大学での学修



教職課程科目の履修はこのルールの中で行っていくが、「教職に関する科目」や「教科に関する科目」など、より効果的な履修ができるよう、学士課程全体のカリキュラムの中に、各学科で教職課程の履修カリキュラムが構築されている。各学科には教職担当の教員が配置されており、教職課程を履修している学生は、この先生方の指導を受けながら所定の単位を修得している。

本学での教職課程受講は、上記のカリキュラムに基づいた学士課程教育

習で成り立っており、一週間に授業を受講して学修するには、その量においておのずと限界がある。

このため、本学では、それぞれの科目について深い理解を促すため、履修登録の上限単位を半期（各セメスター）一六単位とするC A P制度を導入している。したがって、四年間で履修できる総単位数は一二八単位までとなる。本学では単位の実質化が課題となっている高等教育において、教職課程も同様に上記の考え方を踏襲することが責務であると捉えている。このため、全学部の教職課程科目全科目がその学部・学科の卒業単位に含まれ、「教育実習」の単位であっても例外なく卒業単位に含まれている。

教職課程の質保証

の学修が展開され、その中で教員免許取得に必要な科目も履修することとなっているため、卒業単位の中に教職課程のカリキュラムを組み入れることは、当然のことといえる。これは、やみくもに多くの単位を履修し、資格取得の一つとして教員免許状を捉えるのではなく、教職課程に関する科目も含めて、履修した科目の内容を確実に理解し、確かな学士力を身につけたうえで、教員免許の取得をしなくては、社会が求める教員として送り出すことができないのではないかと捉えているためである。このために、各学部・学科においては履修モデルの十分な検討がなされている。

学生にとってはそれぞれ所属する学科において専門の学修を行い、さらには、教師としての資質能力を身につけていくために、教職に関する専門の学修を両立して進めていくことが必要である。どちらが大事ではなくどちらも大事なわけである。

教員養成においては、これらの二つの立場を「あれかこれか」(Entweder-Oder)の二者択一的な対象と捉えるのではなく、教職科目と教科科目を中心とした、その学科の専門科目のそれぞれの内容が、本来の意味において統合される立場を求めるということにある。このような見解においては単位の実質化とも関連して、学士課程教育と教職課程の教育は相互に同様な枠組の中で位置づけられ、展開されなければならない。

教員養成の質保証に向けた新たな学科の設置

具体的な展開例として、本学の芸術学部芸

術教育学科ならびに文学部英語教育学科（二〇一五年四月よりスタート）の教員養成カリキュラムを紹介してみる。

芸術教育学科の教員養成プログラムにおいては、音楽教育コースと美術・工芸教育コースの二つの教員養成プログラムが、英語教育学科においては、英語教員養成コースのプログラムが展開され、その全体の特色として中学校、高等学校教諭の一種免許状と小学校教諭二種免許状が取得可能であること、小・中・高等学校の現場と大学での学びをつなぎ、実践的な学修を重視していること、本学の特色を生かし、総合学園として同一キャンパスにある幼・小・中・高校の多くの学習活動を通して、子どもたちの活動や発達を実感しながら学修を進めることができることがあげられる。特に小学校二種免許取得プログラムにおいては、単位の実質化に即して、春学期、秋学期には科目の開講を行わず、サマーセッション、ウィンターセッションでの開講とした。学びを深化させる学修システムの工夫として、自らの目的に合わせてU S科目を選択すること、芸術教育または英語教育を学ぶ上での導入科目（必修、選択必修の専門科目）から発展科目（選択必修の専門科目）へ深まっていくこと、「教育方法学」や「教育心理学」などの教職に関する科目と、各学科で開講されている教科に関する科目（専門科目）ができる限り相互に対応して学修できること、一年次から参観実習をはじめとした教員養成プログラムがスタートし、四年一貫して学修できることなどがあげられる。まさに教職科目と教科科目が相互補完されて学修されることになっている。

四年間を通じた教職課程指導・支援体制の試み ―キャリアプランを明確にしたプログラムの開発―

玉川大学教育学研究科教職専攻・教育学部教授
玉川大学教師教育リサーチセンター長
森山 賢一

玉川大学における 教職課程受講学生の現状

平成二十六年度入学生における本学の学部組織においては、六学部（文学部、農学部、工学部、教育学部、芸術学部、リベラルアーツ学部）一二学科で教職課程認定を受けている。平成二十六年五月の教職課程受講者は、一年生・七一六名、二年生・五五五名、三年生・五二一名、四年生・五九三名の合計・二二八五名であった。本学は通信教育課程も有しており、通信教育の学生は約四〇〇〇名で、そのほとんどが教員免許取得希望者である。このように大変多くの教職課程受講学生が教員免許取得に向けた学習を展開している。

取得できる免許状は、教育学部においては幼稚園、小学校教諭免許状と保育士資格（乳幼児発達学科のみ）、その他に中学校・高等学校教諭の社会・公民、保健体育の免許状を

取得することができる。その他の学部においては、学部教育の特徴を生かした中学校・高等学校教諭免許状を取得することが可能となっている。

また、教育学部を除く学部で教職課程（中学校・高等学校教諭免許状）を履修している学生が、本学の通信教育課程を利用することで、卒業と同時に小学校教諭二種免許状を取得できるプログラムを実施している。このプログラムにより、「理科や数学に強い小学校教諭」「英語に強い小学校教諭」など専門的知識を持った小学校教諭、あるいは「小学校教育を知る中・高等学校教諭」を社会に輩出している。

一年次からの教員養成と 教職課程受講支援プログラム

教職課程を履修する学生は、大多数が高等学校での進路決定時に「教師になりたい」

「ぜひ免許状を取得したい」と強い意志を持って大学の選択をしている。具体的には入学時の志望動機に教員希望と書いて入学する学生が多い。しかし、教育学部および芸術学部芸術教育学科以外の学部・学科においては、教職課程の受講が二年次からはじまることから、入学後一年間教職課程としては空白の時間を過ごすこととなる。このため当然のことながら入学時の「教職課程を履修したい」「教員になりたい」との意欲は低下するわけである。

教職に就こうという大学入学時のモチベーションを持続させるには、一年次の教職課程支援が必要不可欠であり、大学四年間でのトータル的な教職課程受講支援プログラムの構築、実践が重要である。

現在本学では七〇〇名を超える学生が一年次から教職課程受講支援プログラムのもとで学んでおり、教育現場体験プログラムと教員採用試験対策プログラムとが展開されている。

各学年における教職課程受講支援プログラムの概要については次の通りである。

(1) 一年次

- ・教職の意義と基礎理論を学び、教養を身につける
- ・教職課程の受講に関する四年間の流れを理解して教員になるための動機づけを行う
- ・教職課程ガイダンスの実施、模擬試験（一般教養を中心に）
- ・一日参観実習
- ・読売新聞社教職課程特別講座

(2) 二年次

- ・教科指導法の基礎を学び、実践的指導力の基礎を身につける
- ・ガイダンスの実施、模擬試験（一般教養、教職教養、教職専門）、論文文の基礎
- ・介護等体験（義務教育免許のみ）への参加、教育ボランティア、インターンシップへの積極的参加

(3) 三年次

- ・教職、教科の専門性と実践力を養い、教育現場に学ぶ
- ・教員採用試験に備える
- ・教員としての資質能力を理解し、自らの資質能力の再確認を行い、教員採用試験に向けた学修を強化する
- ・ガイダンスの実施、模擬試験（一般教養、教職教養、教職専門）論文文、面接対策
- ・教育ボランティア、インターンシップへの積極的参加
- ・教育、保育実習

(4) 四年次

- ・三年間の学習成果の確認とそれを踏まえての補完と総まとめ
- ・教員採用試験受験に向けた直前対策と教員就職までの準備
- ・教育ボランティア、インターンシップ
- ・教育、保育実習

一年次の主な

教職課程支援講座の内容

- ・教職課程受講に関するガイダンス
- 『教職を目指す学生に向けてー教員に求められる資質能力』の講話
- 『文章力・言語表現力を身につけるー日本語検定の活用等ー』の講話

この講座の趣旨は、教員になる以上、正しい日本語を使う必要性を学生に理解してもらうための機会としている。この講話から、日本語検定（主催：日本語検定委員会）の受験につなげ、各自が日本語検定過去問題集等を利用して自主学習をしてもらうことをねらっているものである。

- ・教職課程基礎講座ーセンター長講話ー
- 教師教育リサーチセンター長より、全学教職課程履修希望学生に対して、教職課程を受講する心構えや今日の学校教育を巡る課題、教員とは何かについてなど基本的な内容について講話を実施する。
- ・教員採用模擬試験（五月実施）
- 一年次生にとっては、はじめての模擬試験である。

一般教養分野の教員採用模擬試験を受験し、現在の時点での一般教養に関する理解度の確認を行う。

・『日本語検定』の導入

教員としての基本的な能力として、日本語能力について理解を深め、その能力の確認を行う。

- ・教員採用最新動向、学習スタートガイダンス
- 五月に実施した教員採用模擬試験（一般教養）の結果をもとに問題の解説を行う。さらに教員採用試験の最新動向や、今後の教員採用試験対策講座に関してのガイダンスを実施する。ここでは時事通信社に協力を求め、全国的なデータをもとに学生への理解を促す。
- ・夏休み課題の実施

夏期休暇中に、新聞の記事の中から関心を持った教育問題について調査・研究し、レポート（二四〇〇字程度）として提出する。あるいは、補習教室や水泳教室の補助等の体験結果を、レポート（一二〇〇字程度）にまとめて提出する。

・教養基礎力向上講座（理科・数学）

一般教養の中でも、理科・数学が苦手な学生を対象に実施しているが、特に高等学校で「物理」「化学」を履修していない学生も対象としている。演習問題を実際に解きながら、基本的事項から徹底的に取り組む講座である。これらの他、筆記試験対策講座（一般教養）、小学校講座、トリアル模擬試験などを実施している。

一年次生への参観実習の導入

参観実習は、一年次生教職課程受講者七〇名を対象に、教育ボランティア、三年次の教育実習事前指導、四年次の教育実習に先立ち、教える立場、教師の目線から、学校の一日を体験することで、学生の教育現場への理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに、進路選択の機会を与えることを目的に実施している。

近隣の市教育委員会にお願いし、その管轄下の公立小学校・中学校で受け入れさせていただき、一校あたり、五〜一〇名の学生が配当され、十一月中旬（教育学部は七月）に行われる。

参観実習の実際の流れについての概略は次の通りである。

・事前指導

各受け入れ先の校長先生に本学に來校いただき、地域の特徴、教育内容、学校の特色ならびに参観実習にあたって注意すべき点について講話を行う。

・プロフィール文書作成

学生各自で自己紹介、教職への志望動機、参観実習での課題、さらには、受け入れ校への質問内容を作成する。このプロフィール文書は引率教員の添削後に教師教育リサーチセンターより参観実習受け入れ校へまとめて送付する形をとっている。

・参観実習受け入れ校との事前打ち合わせ
学生の代表者（班長）が受け入れ校を事前

に訪問し、参観実習の事前打ち合わせを行う。なお、班長は受け入れ校との打ち合わせの内容をもとにして、参観実習計画書を作成し、引率教員ならびに班員に配布する。

・参観実習当日

参観学生は、八時に実習校に集合し、校長先生、教頭先生による学校紹介および講話終了後、児童、生徒への紹介を行い、午前中は授業参観、昼食（給食）、昼休み、午後は総括指導（質疑応答を含む）という流れで各学校において進められる。

・報告書の作成

実際の教育活動、教師の任務、児童・生徒の様子、学校の雰囲気、環境、今後この参観実習をどう生かすかなどについて記載し、プロフィールの文書作成と同様に、引率教員の添削後、教師教育リサーチセンターより受け入れ校にまとめて送付する。

このような一日参観実習は、実習校、教育委員会との連携によって実現するが、四年一貫した教職課程の試みとしては、重要な要素となっている。受け入れ校からも、実習校と学生が継続したかかわりをもつきっかけとなっているとか、一年次から教職に目的をもって取り組めるよい機会であるといった非常に良い評価を得ている。

今後の課題としては、事前指導における指導内容のさらなる検討、実習校との連携方法の検討などがあげられる。

待望の書籍化！

Kommentar

国立大学法人法 コンメンタル

National
University
Corporation
Act



国立大学法人法制研究会 編著
A5判／710頁
定価 4,935 円（本体 4,700 円＋税）

大学の自律性を踏まえた国立大学法人の特殊性を中心に、基本的なロジックと国会答弁等のエビデンスを端的かつ骨太に解説。「文部科学教育通信」誌に平成二十年八月号から平成二十三年一月号まで計五五回連載されたものを、今回改めて全体的に見直し、新たに概説や参考資料等を加え、資料としての充実と便宜を図った。

特色GPPのすべて

大学教育改革の起動
(JUA選書第14巻)

編川正吉 小笠原正明 編／財団法人大学基準協会 監修
A5判／464頁 4,300 円（税込）

質保証時代の高等教育(上) 経営・政策編

B6判／332頁 2,415 円（税込）
山本眞一 著

質保証時代の高等教育(下) 教育・研究編

B6判／364頁 2,415 円（税込）
山本眞一 著

データで見る 大学財政の基礎知識 3訂版

A5判／188頁 1,890 円（税込）
合田隆史 杉野剛 藤原誠 著

障害学生支援入門

— 誰もが輝くキャンパスを —

B5判／170頁 1,890 円（税込）
鳥山由子 竹田一則 編

テキスト教育制度・教育法規

A5判／278頁 2,310 円（税込）
霜島秋則 著

教員養成の質向上に向けた教職課程の全学体制による組織の運営 ―教師教育リサーチセンターによる全学学生支援と研究活動の推進―

玉川大学教育学研究科教職専攻・教育学部教授
玉川大学教師教育リサーチセンター長

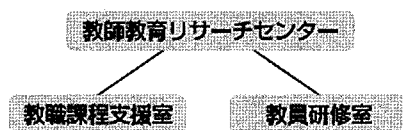
森山 賢一

全学教員養成を担う 教師教育リサーチセンター

教員を目指す学生の支援を担うため、二〇〇六年度から設置された教職センターを、全学体制における教員養成の充実に向けて、二〇一二年度より「教師教育リサーチセンター」に改組し、「質の高い教員養成」の実施に向けて具体的な対応に取り組んでいる。

教師教育リサーチセンター（以下、センターと表記）には、大きく分けて二つの機能がある。一つには、教職課程受講学生に関する学生支援機能で、教職課程支援室が担当している。教育実習や保育実習、介護等体験の手続き、免許状の申請や、教員採用試験の対策、情報提供と就職支援等を担当している。

二つ目は、教師教育・教員養成に関する研究支援機能で、教員研修室が担当している。教員養成のための「教職カリキュラム研究」をはじめとし、紀要や年報の作成等の研究活



- ・教職課程支援室は、教育実習、保育実習、介護等体験、ボランティア等や、教員、保育士希望の就職支援及びキャリアデザイン支援に関する業務を担当
- ・教員研修室は免許状更新講習や教員養成のための「教職カリキュラム研究」「教師教育に関する研究」や近隣教育委員会、教育現場との連携による現職教員を対象とした研修会等の業務を担当

動の支援を行っている。教員研修室の主な業務としては、上記の内容をはじめとして、近隣教育委員会・学校との連携、教職課程におけるFD・SD研修、教員免許状更新講習の実施、センターが主催する「教員養成フォーラム」の企画・運営等、担当する業務は多岐にわたっている。

教職課程の学生支援

センターにおける支援業務については、教職課程の履修にかかわる支援、免許状の申請業務にとどまらず、学校現場、教育委員会との連携を図りながら、教師になりたいという強い意志と情熱を持った学生を支援している。具体的には、教育実習や介護等体験、学外ボランティアや教員採用試験対策プログラム、学校現場体験プログラムの提供等における支援を行っている。これ以外のことについては、基本的には各学部・学科の責任のもとに対応してもらおうという形をとっている。

全学に対応するセンターの開設は、ある面ではリスクを生じることもある。「教職に関してはセンターが全部やってくれるだろう」「センターの仕事だから任せておけば良い」と考えられてしまう懸念があることである。また、どこまでがセンターでどこからが学部・学科かという、責任の所在があいまいになってしまふという面もある。センターを開設した当初は、学部・学科との間で「押して・引いて」という場面も見られた。

一方、双方で共有する部分というのも当然出てくる。そういった場合、学部・学科の業務を司る学部と、センターが協働して対応していくことになる。例えば課程認定の申請などに関わって、学部とセンターにまたがって問題が生じるということもある。そういう時に気を付けるのは、問題が対応されずにそのまま放っておかれてしまうことがないように、まず分掌を明確にしておくことである。それが教員に関わる問題であれば、その責任は学部ということになるため、しかるべき対応を求めるなど、問題の一つ一つが抜け落ちることがないよう、両方で教職課程をサポートしている。そういう意味で、今、学部とセンターの両輪で教職課程を運営しているといえる。

センターと学部・学科の関わりという点では、教育学部も他の学部と同じ。ただ、教育学部は教職課程受講者の数も非常に多く、関わり具合は相応に多いが、大前提として、教員免許を取得するということは同じであると考えている。このことは、どの学部であろうと全く差はない。例えば、教育学部で取る体育の免許と、農学部で取る理科の免許は、教

科は違っても同じ中学・高校の免許で、そこには平等に力を注がなければいけない。教員免許の取得を目指す学生をサポートするという点に対して、全学の体制を整えているということは、学部・学科にかかわらず平等に対応していこうとする意思表示であり、また、そのサポートが求められているからこそ、全学の体制を敷いているのだと理解している。

教職サポートルームの運営

教員・保育士を目指す学生に対するキャリア形成支援、教職指導の一役を担うため、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校での園長・校長・教育行政経験者を教員・保育士指導担当教員として迎え、教職サポートルームを構成している。教職サポートルームの教員は、教職・保育職を目指す学生たちの夢をかなえるための相談、支援にあたる。具体的には、センターや各学部・学科の教職担当教員と連絡調整をしながら、教育実習に関する指導、教員・保育士採用候補者選考試験対策の企画・講師等を担当する。

教職課程受講学生は、センターで取り揃えた教科書・指導書や教職に関する参考書等が自由に閲覧できるだけでなく、模擬授業や共同討議等ができるスペース（センターで運営）を利用して、教職サポートルーム教員の指導を受けながら実践的指導力を身につけている。

センターを中心に全学教職課程を運営

教職課程のカリキュラムは、学部とセンターの協働のもとで検討・構築されている。このため教職や教職課程カリキュラム等に関する事項を審議する「教職課程委員会」構成員

には、双方の教員、職員が含まれている。例えば教職課程に新しい科目が必要ではないか、そういう議論があれば、教職課程委員会あるいは教務委員会で議論がなされたうえで、学則改正を行うという仕組みになっている。最近では教職実践演習が新たに開設されたが、これはセンターが中心となって、全学共通に開設していこうという方向で検討がなされた。全学共通シラバス、授業運営はセンターを中心に動かし、学部が連動して学部・学科専門科目との整合性を保った。学部・学科から授業内容や教員構成に対して意見がある場合、教職課程委員会で議論されることになっている。

本学では、教職課程の履修カルテも全学共通としている。また、教職に関する科目は授業もシラバスも全学共通のため、そこでの議論や連絡事項は、月一回の教職課程担当者連絡会で、それぞれの学部・学科から意見を持ち寄り、あくまでも共通という形の中で確認が行われるようになっていく。教職実践演習のような新たな課題が出た時は、教職課程委員会の下にワーキンググループを作って、頻繁に意見交換を行い、教職課程担当者連絡会と調整しながら、最終的に教職課程委員会で承認を得るという仕組みになっている。それぞれの学部・学科の意見はそこで反映されるため、新しい制度が始まったと同時に、それに対して学部・学科側から大きな課題や問題が生じるといったことは少なくなっている。

この体制は今のところ、教職課程委員会の委員の先生方のご協力や、熱心な取り組みのおかげで、非常に円滑に進んでいると判断している。こういった仕組みがうまく機能する

まで何年かかったが、センターとそれぞれの学部・学科との間で、それなりの合意形成できる仕組みを構築することができたと考えている。

学内全体で教職課程の質を担保

教職課程は、教職に関する科目と教科に関する科目で大きく成り立っている。一つ一つの授業の質を担保するとともに、目指す教師像のもとにそれぞれの授業が構成されていないと教職課程の質は向上しない。教職に関する科目は全学共通で、多くは教育学部が開設しているが、教科に関する科目は基本的にそれぞれの学部・学科の開設科目となっている。教職課程の質を維持向上させるため、本学では、教職課程科目については全学でシラバスチェックが行われている。教職に関する科目、教科に関する科目はセンターが確認する。それぞれ最終的な審査を通るまでは、担当教員に書き直しをしていただくようお願いをしている。

教職課程の質の担保に、大学としてどうかかわるかということを考えた時、どれがどこが確認するということを明確にしておくことは大変重要なこととらえている。

教師教育、教員養成に関する研究の推進

センターの特微的な機能である研究活動の推進では、下記のような活動を中心として、教員研修室が教師教育・教員養成に関する研究活動の推進を支援している。

・教員免許更新講習

本学では、全人教育を理念とする教員養成の実績と、多くの教員を輩出していることから、二〇〇九年度より教員免許更新講習を実施している。また、今後は教員免許更新制度の改善に係る検討会議が提示した「教員免許更新制度の改善について（報告）」の内容に基づいて、改善すべく検討する予定である。

・年報・紀要の発行
大学教員の研究実績を高める必要性、また今後の教師教育研究の質向上のため、二〇一一年度より年報を発行している。特別寄稿をはじめ、論説、論文、実践報告、各種データ、ならびに学生からの実習体験記を掲載したものを作成し、教職課程を有する私立大学をはじめ連携教育委員会等の関係教育機関に配布している。

・学内向け「教員養成FD・SD研修」の実施
教員養成大学として、教員・職員に向けて教員養成に伴う最新の動向等を共有すべく、教員養成FD・SD研修を実施している。

・教育委員会との連携

近隣教育委員会と連携協定を結び、教育ボランティア、インターンシップをはじめ、参観実習、教育実習等で学生がお世話になることが多くある一方で、大学教員が学校現場へ出向き、授業や講演を行うこと、教育委員会の研修に大学側が全面的に協力もしている。今後は、学び続ける教員の支援のため、大学の知を活用した現場研修の充実を図る必要がある、本学では、継続的に教員の資質能力向上を実現する仕組みを構築するため、教育委員会とのさらなる連携・協働を深めていきたいと考えている。

・文部科学省委託事業

平成二十五年度は、「平成二十五年度教員の資質能力の向上に係る先導的取組事業」

「平成二十五年度免許更新制高度化のための調査研究事業」の二件に採択され、その研究成果を報告書として発行した。平成二十六年度も、「平成二十六年度総合的な教師力向上のための調査研究事業」「平成二十六年度免許更新制高度化のための調査研究事業」の二件が採択された。

・「教員養成フォーラム」の企画・運営

二〇一三年度は『期待される教師と今後の教員養成』、二〇一四年度は『これからの教員に求められる資質能力と今後の教員養成』をテーマとし、講演、シンポジウムを実施した。

今後の課題

教師教育リサーチセンターは、「質の高い教員養成」の実現に向けた全学的組織として、教職課程を受講する全学の学生支援と、教師教育、教員養成に関する研究活動の推進に取り組んでいる。全体の概要は前述のとおりで、様々な課題も発生しており、一つ一つ学内外の協力体制を整えながら対応している。

今後の課題として、

- ①教職課程受講学生に対する支援プログラムや体制の効果・有効性の検証
- ②組織体制や活動内容に関する課題の抽出と課題解決に向けた対策案の策定
- ③研究活動成果の学生支援への活用方法があげられる。

これらの課題を解決していくことが、「質の高い教員養成」の実現のためには、必要不可欠ではないかと考えている。

資料 1－2－2

日付：令和6年6月4日

○玉川大学教授会等運営規程

平成14年4月1日制定

改正

平成15年4月1日
平成16年4月1日
平成17年4月1日
平成18年4月1日
平成19年4月1日
平成20年4月1日
平成21年4月1日
平成22年4月1日
平成23年4月1日
平成24年4月1日
平成25年4月1日
平成26年4月1日
平成27年4月1日
平成28年4月1日
平成28年7月29日
平成29年4月1日
平成30年4月1日
平成31年4月1日
令和2年4月1日
令和3年4月1日
令和4年4月1日
令和5年4月1日

玉川大学教授会等運営規程

（目的）

第1条 玉川大学学則（以下「本大学学則」という。）第44条第7項並びに第46条に規定する玉川大学教授会（以下「教授会」という。）の運営について、学校法人玉川学園会議等運営規程のほか、本規程に定める。

（会議）

第2条 教授会は毎月これを開会する。

2 教授会の議長は、学部長がこれに当たる。

3 教授会は、特に定めのある場合を除き、構成員の過半数の出席をもって成立する。

4 教授会に係る事務主管は教学部とする。

（審議事項）

第3条 本大学学則第44条第5項及び第6項の審議並びに第7項の運営については、次の各号による。

（1）学部長が必要と認めた場合には、学科ごとに審議し、学部教授会の意見とすることができる。

（2）本大学学則第44条第5項第1号の「入学者の決定」については、学長が委嘱した各学部入学試験判定会議において審議し、学長がこれを決定する。

（3）学長又は学部長は、前号の決定を学部教授会に報告するものとする。

（4）教員の任用、昇格にあたっての教員資格審査については、予め学長が委嘱した教員資格審査委員会で審議し、学長が決定する。

（審議事項の報告）

第4条 教授会の審議の結果は、学科主任等により、必要に応じ速やかに各学科に報告するものとする。

（各委員会）

第5条 本大学学則第46条に基づき、教務委員会、教職課程委員会、学生委員会、入学試験運営委員

会、課外活動支援委員会、キャリア・就職指導委員会、FD委員会、大学学事運営委員会、国際教育推進委員会、インターンシップ委員会、ELF運営委員会、及びIR委員会を置く。また、教育学部には、通信教育課程入学選考委員会を置く。

2 各委員会の委員は、毎年度当初、学部長等が各学科主任等の意見を徴し、学長に推薦し、学長が任命する。

3 委員会は、学長の諮問に答え、審議の結果を答申する。また、委員会は、必要な事項を審議し、大学部長会に建議又は学長に上申することができる。

（教職課程委員会）

第7条 教職課程委員会は、教師教育リサーチセンター長を委員長とし、各学部の教職担当及び事務担当をもって構成する。

2 委員長が必要と認めたときは、本委員会に前項以外の教職員を出席させることができる。

3 教職課程委員会は、次の事項を審議する。

（1）教職に関する事項

（2）教職課程に関する事項

（3）教職課程のカリキュラムに関する事項

（4）教育職員免許状・保育士資格、その他の資格に関する事項

（5）その他本委員会に属する事項

4 教職課程委員会は、委員長が招集し開催する。

5 教職課程委員会は、原則として毎月開催する。

6 事務主管は教師教育リサーチセンターとする。

1.審議会議からの改善指摘事項の進捗状況（該当する分科会、部会のみ）

- 1-1.第 3 期認証評価において指摘された「改善課題」「是正勧告」の進捗状況 ⇒なし
- 1-2.各分科会・部会等における点検・評価結果（2022 年度）に基づく全学的観点からの課題の進捗状況 ⇒なし

2.大学基準協会評価基準に基づく点検・評価結果

第 4 期認証評価 評価基準(該当項目抜粋)

基準2 内部質保証

評価項目①

内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

＜評価の視点＞

- ・大学全体規模や学部、研究科その他の組織(教職課程を実施する全学的組織を含む)における自己点検・評価をそれぞれ定期的実施し、その結果を活用して改善・向上に取り組んでいるか。
- ・学部、研究科その他の組織における自己点検・評価の客観性、妥当性を高めるために、学生の意見や外部の視点を取り入れるなどの工夫をしているか。
- ・行政機関、認証評価機関等から指摘事項があった場合、それに適切に対応しているか。

基準4 教育・学習

別添「評価項目・評価の視点」参照 ⇒各学部の 3 つのポリシーを起点とした評価基準ですが、教員養成部会で該当する基準があれば取り上げてください。

基準7 学生支援

評価項目①

学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

＜評価の視点＞

- ・学生支援に関する大学としての方針に基づき、各種の学生支援体制を整備し、教員と職員がそれぞれ役割を果たしながら支援を行っているか。
- ・各種の学生支援にあたり、専門的な知識・能力や経験を有する者を含む必要なスタッフを配置しているか。
- ・学生支援に関する情報を学生に積極的に提供するとともに、その支援は学生の利用しやすさに配慮しているか。

[修学支援(学習面)]

- ・学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備しているか(補習教育、補充教育、学習に関わる相談等)。

[進路支援]

- ・各学位課程(学士課程、修士課程や博士課程など)や分野等における必要性、個々の学生の特性等に応じ、就職支援のほか、職業的自立に向けたキャリア教育・キャリア形成支援等の進路支援を行っているか。

評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- ・学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。

基準9 社会連携・社会貢献

評価項目①

社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

＜評価の視点＞

- ・社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。
- ・社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。

評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- ・社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。

No.	基準	現状(問題点)	改善策(実施年度 又は 実施予定年度)	改善策 実施組織	左記問題点、 改善策を 共有した会議等	大学分科会 での検討を 希望
1	2	教職課程認定審査において必要専任教員数を充足する必要があるが、当該教員の研究業績が要件を満たしているかどうかを常時把握することができていない。	申請後に業績不足を指摘された場合に新採用教員で補充することは困難である。また、場合によっては、申請学科以外の教員を所属変更せざるをえない可能性もあるため、申請予定の専任教員の業績確認を研究者情報システムの活用等で、可能な体制を構築したい(令和6年度検討、令和7年度実施)。	教師教育リサーチ センター教職課程 支援室	大学部長会 教務委員会 教職課程委員会 FD委員会	○
2	4	令和6年度入学生より2年次で介護等体験を特別支援学級で実施することになるが、必修科目「特別支援教育」の履修は3年次の学科が多い。	理論と実践の往還を実現させるためには、介護等体験を実施する学年・学期で履修できるのが望ましい。令和7年度はすでに教職課程認定を申請する学科があり変更できないため、令和8年度入学生以降の履修モデルを変更できるかどうかを令和6年度より検討する。	教師教育リサーチ センター教職課程 支援室	大学部長会 教務委員会 教職課程委員会	しない
3	9	公立学校の教員を対象とした研修を開発し実施しているが、私立学校(特に併設校)との連携のもとで研修開発が行えていない。	教師教育リサーチセンター所属の非常勤講師のうち、全国各地で研修を行っている教員を中心とした取り組みを企画する(令和7年度)。	教師教育リサーチ センター教員研修 室	併設校部長連絡会	しない

No.	基準	現状(長所)	発展方策(実施年度 又は 実施予定年度)	発展方策 実施組織	左記長所、 発展方策を 共有した会議等	大学分科会 での検討を 希望
1	2	文部科学省が中央教育審議会等で示した方針に基づき、全学的な事項を協議する教職課程委員会を軸とした審議により学内の方針策定を迅速に進める体制が整っている。	常任会および教学部との連携を強化する(令和6年度)。	教師教育リサーチ センター教職課程 支援室	常任会	しない
2	2	教職課程認定申請で提出した教員以外が教職関連科目を担当する場合には、シラバスに関わる研究業績を10年以内に複数保持していることを確認する学内審査体制が整っている。	現状は紙ベースでの申請・確認を実施しているが、教員採用のシステム化を参考にして方法の変更を検討する(令和7年度)。	教師教育リサーチ センター教職課程 支援室	教職課程委員会 教職サポートルーム会	しない
3	4	「教育実習」の在り方について柔軟に見直し、学校現場における活動を単位化する科目を新設し、「単位の実質化」をふまえたカリキュラム編成を実現している。	令和6年度入学生から「学校体験活動A～D」「介護等体験」を新設するのは通学課程のみなので、通信教育課程において同様の枠組みを実施するための課題を検討する(令和8年度)。	教師教育リサーチ センター教職課程 支援室	大学部長会 教務委員会教 職課程委員会	しない
4	4	教職課程認定申請で提出したシラバスを共通化し、教務システムに登録している。	小学校二種免許を特例で開設可能とする教職課程を申請するため、関連科目を共通シラバス化する(令和7年度)。	教師教育リサーチ センター教職課程 支援室	教職課程委員会	しない
5	4	ICTを活用した授業を実践できる教員を養成するために、1年次に必修科目を開設し、2年次以降では教職講座における振り返りにより強化するプログラムを編成している。また、学校現場における使用率が50%を超えるGoogleアカウントを1年次より学生に配付し、授業・教職講座等の取り組みで活用している。	2年次以降に実施しているICT講座について、著名な講師を招聘する(令和6年度)。	教師教育リサーチ センター教職課程 支援室	教職課程委員会 教職サポートルーム会	しない
6	7	教員志望の学生を対象とした「教職課程受講支援プログラム」を1年次から4年間かけて学ぶ仕組みを整えている。	教職講座の参加率が低下傾向にあるので、参加率が高い学生の教員採用試験合格率を示しながら、学生の意識を高める取り組みを行う。また、学生のニーズを確認のうえ内容を厳選し再構築する(令和6年度)。	教師教育リサーチ センター教職課程 支援室	教職課程委員会 教職サポートルーム会	しない
7	7	現場経験が豊富な小学校・中学校・高等学校の校長、幼稚園長・保育所長、教育行政経験者を擁する教職サポートルームを設置し、教員志望の学生のキャリア形成支援を行っている。	令和5年度に首都圏以外で2桁の受験学生がいる自治体に教職講座・実習指導担当の客員教授を配置した。令和6年度には毎年受験学生がいる自治体、令和7年度からは少数でも第1希望で受験希望がある自治体の客員教授を配置予定。	教師教育リサーチ センター教職課程 支援室	教職課程委員会 教職サポートルーム会	しない
8	7	学校現場や社会の要請に応えられるよう、幼稚園と保育士、幼稚園と小学校、小学校と中学校、中学校と高等学校、中学校で複数教科などの組み合わせで免許・資格を取得できる仕組みを整えている。	学生に免許の組み合わせごとの特徴・効用を示しながら、複数免許取得者を増やす。また、中学校で複数教科の免許取得を可能とする検討を進める(令和6年度)。	教師教育リサーチ センター教職課程 支援室	教職課程委員会	しない
9	7	教員養成の質保証を目指す施策・運営は職員が策定・立案し、教育的な指導は教員が担うという役割分担で、学生支援体制を整備し円滑に進めている。	教育実習訪問指導について、現行は大学から2時間以内の場所にある学校のみ実施し、その他の地域は専任教員が電話対応していた。 令和6年度より首都圏は全域実施、地方も客員教授を配置した地域は順次実施し、令和11年度までに100%の実施を目指す。その中でも上記№6の発展方策により、専任教員の	教師教育リサーチ センター教職課程 支援室	教職課程委員会 教職サポートルーム会	しない

			負担は軽減する方向で進めている。			
10	7	自主学修室を設置し、全国の教員採用試験過去問題集や試験対策に役立つ書籍を取り揃え、学生が学ぶ場所を提供している。自主学修室や模擬授業室には、黒板および電子黒板を設置し、授業実施の際に必要な板書や機器の操作を練習できる環境を整えている。	自主学修室は教職課程の専門図書室という位置づけであるというPRを積極的に行い、利用件数を増加させる。コロナ禍により中断してしまったガイダンスを再開することも一案だが、教職課程 1 年次の「一年次セミナー101」で紹介する機会を設けるなど、新たな対応案も検討する(令和 6 年度)。	教師教育リサーチセンター教職課程支援室	教職課程委員会 教職サポートルーム会	しない
11	9	近隣の自治体と毎年開催している「教育実習に関する協議会」にて学校現場の課題を把握し、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に効果的につなげている。	現在は町田市、横浜市、川崎市、相模原市の校長会長等との意見交換の場となっている。今後は令和 6 年度より新たに始まる介護等体験を受け入れていただいた自治体(稲城市・狛江市・豊島区・世田谷区・渋谷区・厚木市・海老名市・藤沢市等)との協議会実施を検討する(令和 6 年度)。	教師教育リサーチセンター教職課程支援室	教職課程委員会 教職サポートルーム会	しない
12	9	「教師教育フォーラム」を教職大学院との共催により毎年開催し、教職に関する知識を社会に還元している。	有識者による講演および大学教員、現職教員等によるシンポジウムをオンラインで、教科ごとの分科会はハイブリッド型で開催。近隣地域だけでなく、遠方の現職教員等学校関係者、教員養成に携わる大学教職員、教員志望学生、教育研究者、教育委員会関係の方々等、全国の教育に携わる方に参加していただく。今日的課題についての講演や事例研究を通した話題提供により教育実践の充実に繋げる(令和 6 年度)。	教師教育リサーチセンター教員研修室	教職課程委員会 教職サポートルーム会	しない
13	9	教育委員会との連携のもと、校長研修・中堅教員研修・指導主事研修・ペーパーティーチャー研修を実施し、教員の資質能力の向上に寄与している。	教職員支援機構(NITS)の玉川大学センターとして教育委員会を訪問し、学校現場の状況や研修受講者のニーズ等を把握、研修内容の精選や受講者間の学び合いの場の充実に図る。従来実施している校長研修・中堅教員研修・指導主事研修・ペーパーティーチャー研修に加えて、新たに、副校長・教頭研修を実施。また、中堅教員研修では、従来の「特色ある教育活動を推進するマネジメント力の育成」から「校内の研究・研修をマネジメントするファシリテーターの育成」を目的とする内容に変更。教職員の資質能力の向上を目指した研修の高度化および体系化を図る(令和 6 年度)。	教師教育リサーチセンター教員研修室	教職課程委員会	しない
14	9	「年報」「教員養成研究」を発行し、本学教員の教職に関する知識の発表の場を設けるとともに、社会に還元している。	研究活動成果として、『年報(14 号)』を発行予定。原著論文、実践報告、教育実習報告等、各種データ等を掲載し、本学の教師教育研究における取組やデータを公表。また、教職サポートルーム客員教員による教職課程科目に関わる事例研究や報告を目的とした『教員養成研究(第 21、22、23、24 号)』を発行予定(令和 6 年度)。	教師教育リサーチセンター教員研修室	教職課程委員会	しない
15	9	教師・保育者になった卒業生と大学の交流の場として、「教師・保育者の集い」を毎年開催している。	毎年コスモス祭の初日に開催することで、玉川の丘に戻ってくる卒業生が参加しやすいイベントにしてい。講師は大学の現職教員に限定せずに、社会的な著名人や OB・OG 教員を招聘する(令和 6 年度)。	教師教育リサーチセンター	教職課程委員会 教職サポートルーム会	しない
16	10	教職課程「FD・SD 研修会」を開催し、教員養成大学としてより質の高い教員養成を目指した今後の取組について、教職員の理解を深め、これからの教育活動への意識を高める機会とする。	社会の変化に対応する学校教育と教員の資質能力の向上を目指し、最新の中央教育審議会の答申を踏まえた具体的なテーマを設定して実施。文部科学省の取組指針等の最新情報を提供することで、今後の教職課程の在り方を再認識していただく。従来のオンライン開催を継続することで、対面開催よりも多くの教職員に参加していただく。(令和 6 年度)	教師教育リサーチセンター教員研修室	教職課程委員会 教職サポートルーム会 FD 委員会	しない

資料 1 - 2 - 4

2023 年度 分科会・部会 開催状況調査

※ 提出日以降に実施の予定(今年度内)がある場合は予定としてご記入ください。

教員養成部会		
第 1 回	4 月 18 日 (火)	1. 教職課程委員会委員の委嘱ならびに開催日程に関する件 2. 「2023 教職課程受講ガイド修正」に関する件【英語教育学科】 3. 令和 5 年度入学生 教育学部教育学科中学校 2 種免許(数学)受講条件変更に関する件 4. 学校・その他教育現場 体験活動 欠席届に関する件
第 2 回	5 月 23 日 (火)	1. 令和 6 年度入学生以降「教育実習」実施期間・単位数の変更に関する件 2. 令和 6 年度入学生以降「教育実習」および「教職実践演習」の実施時期に関する件 3. 令和 6 年度入学生以降「学校体験活動」の取り扱いに関する件 4. 令和 5 年度入学生以降「教育インターンシップ A～D」の科目名称変更に関する件 5. 令和 6 年度以降 「介護等体験」の運用変更に関する件
第 3 回	6 月 20 日 (火)	1. 令和 6 年度以降「介護等体験」の実施場所変更に関する件 2. 令和 6 年度入学生以降「学校体験活動」および「介護等体験」の運営に関する件 3. 令和 6 年度「教職実践演習」「教育実習事前指導」「学校体験活動 I」の授業時間割に関する件 4. 令和 6 年度以降「教育実習」「学校体験活動」「介護等体験」の評価方法に関する件 5. 令和 4 年度入学生ダブル免許プログラム履修モデル変更に関する件
第 4 回	7 月 25 日 (火)	1. 「学校体験活動 A～D」および「介護等体験」に関する件(科目名称の再審議に関する件／教職課程表に関する件／シラバスに関する件) 2. 令和 6 年度以降「介護等体験」の運営に関する件(社会福祉施設での介護等体験実施希望に関する件／「大学が独自に設定する科目」申請に関する件／中学校・小学校免許併有希望学生の配当先に関する件・実施時期の指定および令和 6 年度授業時間割調整に関する件／学生の提出書類の一部流用に関する件／事後指導の実施形式に関する件) 3. 令和 6 年度入学生以降「学校体験活動」の運営に関する件(実施時期の指定および令和 6 年度授業時間割調整に関する件／事後指導の実施形式に関する件) 4. 令和 6 年度入学生以降 教職課程受講条件の見直しに関する件 5. 令和 6 年度入学生以降 科目等履修生受講条件に関する件 6. 令和 5 年度入学生ダブル免許プログラム履修モデル変更に関する件 7. 彩の国かがやき教師塾の学内考査および出願書類に関する件
第 5 回	9 月 19 日 (火)	1. 令和 6 年度以降介護等体験・学校体験活動の運営に関する件 ～実施時期の確定及び令和 6 年度授業時間割調整の見直しについて～ 2. 令和 6 年度入学生 教職課程受講条件等の検討に関する件 3. 令和 6 年度科目等履修生に対する「教職課程科目受講希望者の留意事項」の確認に関する件 4. 令和 6 年度入学生対象 教科及び教科の指導法に関する科目 変更に関する件【情報通信工学科】【マネジメントサイエンス学科】
第 6 回	10 月 17 日 (火)	1. 令和 6 年度入学生以降 「学校体験活動」「教育・保育体験活動」「介護等体験」シラバスに関する件 2. 令和 6 年度入学生以降「学校体験活動」「教育・保育体験活動」令和 7 年度入

		学生以降「介護等体験」科目担当者選定基準に関する件 3. 令和 6 年度 学校体験活動 A の運営に関する件 ～事前・中間・事後指導実施計画(案)について～ 4. 令和 6 年度 介護等体験の運営に関する件(令和 6 年度実施分 時間割調整見通しに関する件／事前・中間・事後指導実施計画(案)に関する件) 7. 令和 6 年度入学生対象 大学が独自に設定する科目 変更に関する件【国語教育学科】 8. 令和 6 年度入学生対象 大学が独自に設定する科目 変更に関する件【情報通信工学科】 9. 令和 6 年度ダブル免許プログラム履修モデル(案)に関する件 10. 公立学校教員採用候補者選考大学推薦における学内選考制度実施要項に関する件
第 7 回	11 月 21 日 (火)	1. 令和 6 年度入学生以降 「学校体験活動」「教育・保育体験活動」「介護等体験」シラバスに関する件 2. 令和 6 年度入学生 教職課程受講条件等に関する件 3. 「教育・保育体験活動に関する規則」制定に関する件 4. 「介護等体験に関する規則」・「教育実習に関する規則」改訂に関する件 5. 令和 5 年度 参観実習実施報告及び再受講者の実施、および令和 6 年度以降「学校体験活動 A(参観実習)」欠席者の扱いに関する件 6. 令和 6 年度入学生以降 転・編入学生、転学部・転学科生の対応に関する件 7. 学芸員資格に関するガイダンスの変更事項に関する件
第 8 回	12 月 12 日 (火)	1. 「教育・保育体験活動に関する規則」制定に関する件 2. 「介護等体験に関する規則」・「教育実習に関する規則」・「教職課程履修規則」改訂に関する件 3. 教育職員免許法施行規則の一部改正による教科専門の科目区分の統合等対応に関する件 4. 令和 6 年度入学生以降 転・編入学生、転学部・転学科生の対応に関する件 5. 令和 6 年度「教育実習事前指導」「教職実践演習」計画に関する件 6. 免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目「数理・データサイエンス・AI リテラシー」追加に関する件【教育学部】
第 9 回	1 月 23 日(火)	1. 教職課程受講継続判定および教育実習受講判定に関する件 2. 令和 6 年度入学生以降 転・編入学生、転学部・転学科生の対応に関する件 3. 令和 6 年度以降 介護等体験の実施に関する件 4. 教職課程 FD・SD 研修会について
第 10 回	3 月 5 日(火) ※予定	1. 教職課程受講許可・継続判定に関する件 2. ダブル免許各種プログラムの受講判定に関する件 3. 博物館実習受講許可に関する件 4. 各資格取得判定に関する件 5. 令和 6 年度 教職課程委員会の開催に関する件

資料 1－2－5

2023年度教育研究活動等点検調査委員会
大学共通部会

教員養成部会報告

教員養成部会
教師教育リサーチセンター

高橋 正彦

2024年2月26日(月)

本学の教員養成

・本学が目指す教師像

玉川教師訓「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、
校長に信ぜられよ」を实践できる教師の育成を本学は目指します。

そのために、次の力量を備えた教師を養成します。

- ①確かな学力と健やかな体を育てる「学習指導力」
- ②豊かな心を育て自己実現を図る「幼児・児童・生徒指導力」
- ③ともに高めあうクラスをつくる「学級経営力」
- ④新たな学校づくりを推進する「協働力」

・公立学校教員採用試験名簿登載率50%の実現

・教師教育・教員養成に関する研究と研修の推進

文部科学行政の主な動き

◆「令和の日本型学校教育」の構築を目指して ～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～
(令和3年1月26日答申)

◆教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン(令和4年4月から義務化)

(令和3年5月7日教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議)

- ・教職課程の自己点検・評価
- ・全学的に教職課程を実施する組織体制の整備

◆『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について ～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～ (令和4年12月19日答申)

3

令和4年12月答申の示す養成の方向性

1. 理論と実践の往還を重視した教職課程への転換

「教育実習」等の在り方の見直し

「学校体験活動」の積極的な活用

2. 教職課程における多様な専門性を有する教師の養成

小学校の専科指導優先実施教科(外国語、理科、算数、体育)に相当する中学校教員養成課程を開設する学科等において、小学校教員養成課程の設置が可能

3. 優れた人材を確保できる教員採用等の在り方の検討

公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施

4. 義務教育9年間を見通した教員免許の在り方を踏まえた方策

小学校教諭と中学校教諭の両免併有の促進

5. 教員養成大学・学部、教職大学院の高度化・機能強化

4

本学の取り組み

- ・学校体験活動を活用した「教育実習」の見直し
- ・介護等体験の特別支援学級での実施
- ・小学校2種免許状教職課程認定申請（令和7年度入学生対象）
- ・公立学校教員採用試験の3年生受験対応
- ・教職課程受講支援プログラムの見直し
- ・ダブル免許プログラムの推進



教職課程の自己点検・評価の実施

5

本学の教員養成における課題

- 課程認定申請における必要専任教員数充足のための研究業績の促進（教員免許取得に必要な科目の業績）
- 「理論と実践の往還」を重視した介護等体験の在り方等の検討
- 現職教員研修の充実
- 質の高い教員養成と質保証

改善策の実施 ⇒ 長所へ

6

資料 1－2－6

令和 5 年度

ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

玉 川 大 学

大学 FD 委員会

大学院 FD 委員会

3. 教師教育リサーチセンターの活動

1 教職課程 FD・SD 活動への取組理念・目標

本センターは、大学における教職課程の運営を目的とし、大学附置機関として設置された。主な業務内容には、「教職課程における学生支援」と「教職に関する研究活動支援」がある。研究活動支援のひとつとして教員養成における教職課程 FD・SD 研修があり、教員養成の質を向上させることを理念・目標としている。

2 教師教育リサーチセンターにおける教職課程 FD・SD 活動の組織構成と役割

センター長、課長及びリサーチフェローを中心に教職課程 FD・SD 活動を計画し、課長補佐以下職員で研修会開催の実務を担当している。

3 令和 5 年度の活動内容

(1) 教師教育フォーラム

① 概要（目的を含む）

『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（令和 4 年答申）において、教師及び教職員集団の姿が示された。答申では学校教育を取り巻く環境の大きな変化に対して、教員養成、採用、免許制度も含めた方策を通じて、多様な人材の確保や教師の資質能力の向上を図り、質の高い教職員集団を形成することが求められている。『令和の日本型学校教育』の構築のためには、校長のリーダーシップのもと、事務職員や様々な分野や組織運営等に通じる多様な外部人材や専門スタッフが、チームとして家庭や地域と連携した学校運営が必要不可欠とされている。

また昨今では教員不足が大きな課題となっており、教員の確保も含めた養成・採用・研修・免許制度の一体的改革が必要である。

今回の教師教育フォーラムは、『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教職員集団の構築に向けた様々な取り組みについて、講演者、出席者がともに考える機会として計画した。

② 到達目標

学内外より 200 名以上の出席者を集客することを目標に掲げた。

③ 活動内容

日時：令和 5 年 10 月 21 日（土）9：30～15：30

於：大学教育棟 2014 よりオンライン（Zoom）配信

テーマ：新しい時代（変化の時代）に対応できる質の高い教職員集団の形成に向けて

【プログラム】

午前の部

○講演（50分）

- ・新しい時代（変化の時代）に対応できる質の高い教職員集団の形成に向けて

文部科学省総合教育政策局 教育人材政策課長 後藤 教至 氏

○シンポジウム（90分）

- ・「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた研修と教員の確保について

東京都教職員研修センター 研修部長 栗原 健 氏

- ・新たな学びのスタイルを目指した秦野のチャレンジ～末広スタイル～

秦野市立末広小学校 校長 吉田 正也 氏

- ・理論と実践の往還を重視した教職課程カリキュラム改革

玉川大学教師教育リサーチセンター リサーチフェロー 森山 賢一 教授

【コーディネーター】玉川大学教師教育リサーチセンター 笠原 陽子 客員教授

午後の部

○分科会：教職大学院

- ・文学の教材研究と〈問〉を中核とした学習デザイン 玉川大学教職大学院 松本 修 教授
- ・英語教育部会 玉川大学教職大学院 西村 秀之 准教授
- ・特別な配慮を必要とする生徒への対応 玉川大学教職大学院 成川 敦子 准教授
- ・教員の人材育成 玉川大学教職大学院 今井 勉 教授

④ 評価

テーマに基づき文部科学省よりご講演いただき、シンポジウムでは、東京都教職員研修センター、実際の教育現場（小学校）、養成大学それぞれの立場からの報告をもとに、質の高い教職員集団の形成についての意見交換がされた。

午後の部では、本学の教職大学院担当者を中心に分科会を実施し、4つのテーマに分かれて発表を行い、意見を交換した。

また、感染症拡大防止の観点のもとより、遠方からの参加者の利便性なども鑑みて、開催方法は、全体会を昨年度に引き続きオンライン形式、分科会を対面およびオンライン形式（※分科会による）の併用とした。成果として、近隣地域のみならず幅広い地域の現職教員等学校関係者、教員養成に携わる大学教職員、教員志望学生、教育研究者、教育委員会関係者等、教育に携わる方々に参加していただくことができた。

会としては延べ130名の参加者を迎え、盛会のうちに終了した。

（2）令和5年度教職課程FD・SD研修会

① 概要（目的を含む）

令和3年、令和4年の二つの答申により、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた子供の学びの姿、さらに子供を育てる教師の学びの姿が示された。それにより、養成、採用、免許、研修の具体的な方向性が明確になり、学校現場、教育委員会、養成大学等が連携し

て対応することが求められることとなった。

本研修は、“教員養成における理論と実践の往還の中心としての教育実習”について、答申の背景と見直すべき教育実習の内容について具体的に解説し、養成大学としてより質の高い教員養成を目指した今後の取り組みについて理解を深める機会とすべく企画した。

② 到達目標

答申の内容を具体的に解説し、養成大学としてより質の高い教員養成を目指した今後の取り組みについて、教職員の理解を深め、これからの教育活動への意識を高める機会とする。

③ 活動内容

日 時：令和6年3月5日（火）10：00～11：30

場 所：オンライン配信（Zoom）

テーマ：「教員養成における理論と実践の往還の中心としての教育実習」

大学院教育学研究科教授・教師教育リサーチセンター リサーチフェロー

森山 賢一

対 象：大学教員、事務職員

内 容（目的）：答申の内容から“教員養成における理論と実践の往還の中心としての教育実習”について具体的に解説し、養成大学として、より質の高い教員養成を目指した今後の取り組みについて理解を深める。

④ 評価

学内教職員より、おおよそ70名の参加者があった。答申で示された内容について具体的に解説していただくことにより、今後の教職課程の在り方を再確認し、教員養成大学として、これからの教育活動への意識を高める機会となった。

4 昨年度（令和4年度）に提案された予定・課題の達成度について

令和5年度は「教師教育フォーラム」及び「教職課程FD・SD研修会」各1回を計画し、開催した。計画通り実施することができ、それぞれの目標を達成することができた。

5 今後（令和6年度以降）の予定・課題について

「教師教育フォーラム」及び「教職課程FD・SD研修会」を計画している。「教師教育フォーラム」は、引き続き教職大学院と共催することにより、大学全体としての教員養成への取組をふまえた内容で開催を予定している。

教師教育フォーラム

新しい時代(変化の時代)に対応できる
質の高い教職員集団の
形成に向けて

**オンライン
配信**

事前申し込み制

参加費無料

2023年 **10月21日** 土
9:30~15:30

教師教育フォーラムは教師教育リサーチセンターと
教職大学院との共同開催イベントです。

午前の部は「新しい時代(変化の時代)に対応できる
質の高い教職員集団の形成に向けて」をテーマに掲げ、
講演者に様々なお立場からご報告いただきます。

午後の部は教職大学院分科会を行います。4つの分
科会に分かれ、それぞれの専門分野について情報共有、
意見交換をしていただきます。

社会の変化に伴い、学校教育も大きく変化している
中で、『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教職
員集団の形成に向けた様々な取り組みについて、みな
さまと共に考える機会にしたいと考えております。

申込締切

10月17日(火)23時59分

お申し込みは
こちら▶



主催

教師教育リサーチセンター

共催

教職大学院

後援

町田市教育委員会、稲城市教育委員会、神奈川県教育委員会、
横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、
時事通信出版局、協同出版、日本語検定委員会、
玉川学園K-12

プログラム

9:30~12:00 教師教育フォーラム

学長挨拶 小原 芳明

講演

- 新しい時代(変化の時代)に対応できる質の高い教職員集団の形成に向けて
後藤 教至 氏(文部科学省総合教育政策局 教育人材政策課長)

シンポジウム

- 「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた研修と教員の確保について
栗原 健 氏(東京都教職員研修センター 研修部長)
- 新たな学びのスタイルを目指した秦野のチャレンジ~末広スタイル~
吉田 正也 氏(秦野市立末広小学校 校長)
- 理論と実践の往環を重視した教職課程カリキュラム改革
森山 賢一(玉川大学教師教育リサーチセンター リサーチフェロー)

【コーディネーター】

笠原 陽子(玉川大学教師教育リサーチセンター 客員教授)

13:00~15:30 教職大学院 分科会

- 国語科教育 ●英語教育
- 特別支援教育 ●教員の人材育成

詳細は裏面をご覧ください。

問い合わせ先

玉川大学教師教育リサーチセンター

〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1

TEL: 042-739-7097 FAX: 042-739-8857

e-mail: t-kenshu@tamagawa.ac.jp HP: www.tamagawa.jp

分科会テーマ

国語科教育：文学の教材研究と〈問い〉を中核とした学習デザイン

対面＋オンライン形式

『小学校国語科 物語の教材研究大全』全3巻の刊行を受けてー

『小学校国語科 物語の教材研究大全』1・2年 3・4年 5・6年 全3巻（明治図書2023年8月 松本修監修）が刊行された。全体の執筆陣の三分の一以上が玉川国語教育研究会のメンバーである。編者・執筆者として加わった3名をゲストスピーカーとして、編集の意図、実際上の工夫、執筆した内容について語ってもらい、活発な討議を展開する。

ゲストスピーカー・担当教員

西田 太郎 氏（兵庫教育大学准教授）編者・執筆者（3・4年教材研究の目）
鈴木 真樹 氏（相模原市立九沢小学校指導教諭）編者・執筆者（5・6年教材研究の目・「白いぼうし」）
橋本 祐樹 氏（世田谷区立等々力小学校主任教諭）執筆者（「きつねの窓」）
松本 修（玉川大学教職大学院教授）

英語教育部会

対面＋オンライン形式

言葉の当たり前を大切にしたい英語の授業づくりについて考える

英語教育を取り巻く環境が日々刻々と変わる中、今一度原点に立ち返り、言葉の持つ意味を大切にしたい授業づくりを小学校、中学校の実践をもとに参加者と一緒に考えていきます。

ゲストスピーカー・担当教員

吉水 慶太 氏（三重大学教育学部附属中学校）
藤井 翔一郎 氏（横浜市立東本郷小学校）
山本 丁友 氏（横浜市立本牧中学校）

コーディネーター 西村 秀之（玉川大学教職大学院准教授）

特別支援教育：特別な配慮を必要とする生徒への対応

オンライン形式

これからの学校現場で教師に求められるもの～高校（または高等部）における特別支援教育の視点から～

「令和の日本型学校教育」の構築において「大臣指針」より、教師に求められる資質能力として5つの柱が示された。その中でも「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」は、これからの時代において全ての教師に共通的に求められる必須能力であるとして教職課程にも必須単位化された。特別支援教育へのニーズが一層高まる中、平成30年度には高校における通級指導制度も新たに始まった。発達障害の有無を超え、思春期の高校生たちの抱えている問題や学校における支援の在り方について考える機会としたい。

ゲストスピーカー・担当教員

森田 常次 氏（東京都立多摩科学技術高等学校長）
春木 美紀 氏（埼玉県立入間わかさ高等特別支援学校 教諭）
大沼 健司 氏（社会福祉法人 創隣会 職員）
・みらいとサテライトセンター（困窮者支援とひきこもりの方の支援）
・ひとつぶのたね（相談支援事業所）

コーディネーター 成川 敦子（玉川大学教職大学院准教授）

教員の人材育成

オンライン形式

「教育愛にあふれ社会の中で学び続ける教員」ー教師のウェルビーイングをめざしてー

本年8月末に、教員の働き方をめぐり中教審の特別部会でまとめられた緊急提言の中で「教員を取り巻く環境は国の未来を左右しかねない危機的な状況」と表現されるなど、マイナスなイメージが広がっている教育現場であるが、本来「学校」は子どもたちの溢れる笑顔から常にエネルギーを得られる充実の職場であり、多くの教員は使命感を持って日々の教育活動に励んでいる。行政と学校が連携して教師のウェルビーイングを支える相模原市の取組を通して、若手教師が希望をもって教育活動に取り組むことのできる環境づくりをめざした人材育成の在り方を考える。

ゲストスピーカー

奥津 光郎 氏（相模原市教育委員会 教育センター所長）
仲村 康太郎 氏（相模原市教育委員会 教育センター指導主事）
相馬 圭 氏（相模原市立桂北小学校 校長）
渡辺 晴樹 氏（相模原市立旭中学校 教諭）

コーディネーター 今井 勉（玉川大学教職大学院教授）

講演者プロフィール

後藤 教至

文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長。
平成12年4月文部省入省、初等中等教育局、高等教育局、スポーツ庁等で勤務。その間、宮城県教育委員会、内閣官房教育再生実行会議担当室へ出向。その後、令和元年9月高等教育局国立大学法人支援課企画官、令和3年8月初等中等教育局企画官、令和4年8月文部科学広報官を経て、令和5年2月より現職。

栗原 健

東京都教職員研修センター研修部長。
東京都公立小学校教諭、東京学芸大学附属大泉小学校教諭、東京都公立小学校校長、東京都板橋区教育委員会事務局指導室長、東京都教育庁指導部指導企画課長等を経て令和5年度より現職。公認心理師、学校心理士、特別支援教育士、臨床発達心理士。

吉田 正也

校地内に神奈川県立秦野支援学校末広校舎がある神奈川県秦野市立末広小学校校長。秦野市立小学校で教諭として勤務の後、秦野市教育研究所指導指導主事、秦野市立小学校教頭を務め、平成31年度より現職。令和4・5年秦野市小学校校長会長。

森山 賢一

玉川大学教育学研究科教授、教師教育リサーチセンターリサーチフェロー。専門は教育内容・方法学、教師教育学。特に教育の理論と実践との結合を目指すことによって、教育実践に関する研究水準の向上に取り組む。町田市教育委員、第9期～第12期中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会委員、教育実践学会会長、日本感性教育学会会長等を務める。

笠原 陽子

玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授。
独立行政法人教職員支援機構玉川大学センター 担当。
玉川大学大学院教育学研究科教職大学院教授、神奈川県内の小中学校教諭、中学校長を務め、神奈川県教育委員会子ども教育支援課長、支援部長、教育参事監、教育監、顧問を歴任。現在、神奈川県教育委員会教育委員を務める。

資料 1－2－8

令和 6 年 1 月 23 日

教職員各位

教師教育リサーチセンター長
高橋 正彦

「令和 5 年度 教職課程 FD・SD 研修会」 開催のご案内（案）

平素より、教師教育リサーチセンターの運営につきまして、ご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、文部科学省中央教育審議会より『「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）』（令和 4 年 12 月 19 日）の答申が示されました。この答申により、「令和の日本型学校教育」の構築に向けた子供の学びの姿、さらに子供を育てる教師の学びの姿が示されたわけです。養成、採用、免許、研修の具体的な方向性が明確になり、学校現場、教育委員会、養成大学等が連携して対応することが必要となっております。

今年度の研修は、上記答申の内容より“教員養成における理論と実践の往還の中心としての教育実習”について具体的に解説し、養成大学としてより質の高い教員養成を目指した今後の取り組みについて理解を深める機会として企画いたしました。

年度末のご多用の時期とは存じますが、教員養成にかかわる多くの教職員の方々のご参加をお待ちしております。

- | | |
|---------|--|
| 【日 時】 | 令和 6 年 3 月 5 日（火）10：00～11：30 |
| 【場 所】 | オンライン配信(Zoom) |
| 【テ ー マ】 | 教員養成における理論と実践の往還の中心としての教育実習 |
| 【講 師】 | 大学院教育学研究科教授・教師教育リサーチセンターリサーチフェロー
森山 賢一 先生 |
| 【対 象】 | 大学教員、事務職員 |

以上

【申込みフォーム】

出席を希望される方は、下記 URL より事前申し込みをお願いいたします。

〔1 月下旬 URL をご案内予定〕

準備の都合上 2 月 29 日(木)17 時までにお申し込みください。

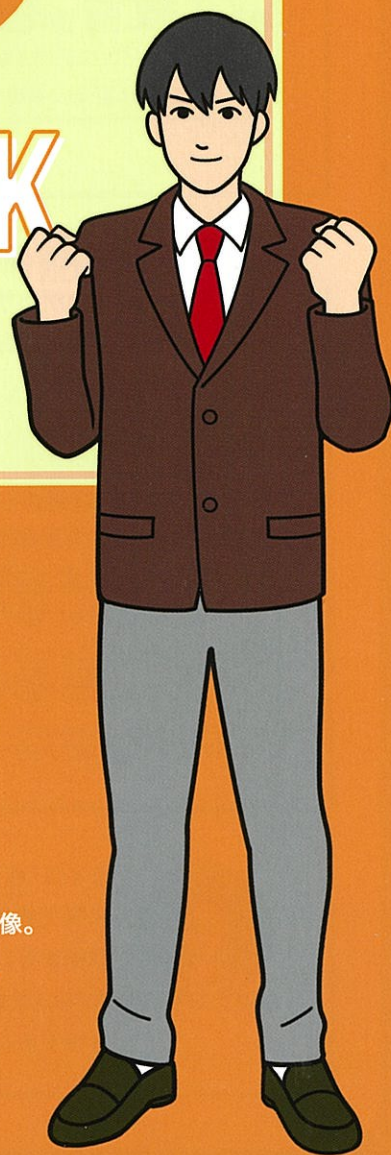
【問い合わせ先】 教師教育リサーチセンター 教員研修室
担当:森・鈴木
t-kenshu@tamagawa.ac.jp

玉川大学

「教員養成の玉川」ガイド

先生に なろう

START BOOK 2024



「理想の先生」への第一歩。

「先生」という存在は、子どもたちにとって大きな存在。
だからこそ、「どんな先生になりたいか」目標をしっかりとって、
大学で「教育」について学ぶ必要があります。

「こんな先生になりたい!」と思った先生が、あなたにとっての理想の先生像。
大学時代、どこに身を置くかで、その人の教育観は大きく変わります。
先生になって何がしたいのか、そのためには何が必要なのか。
そんなことを思い描きながらこの冊子を読みましょう。

第1部

先生になるには??



先生になりたい!…って思ったけれど
そもそも先生って
どうしたらなるのでしょうか??

先生になるためには教員免許状の取得や
教員採用試験に合格することが必要です。
まずは先生になるための仕組みを
確認してみましょう。



「教育」を学ぶって?



教育学部には教員養成系と教育学系の
2つがあります。同じ教育でも
学ぶ内容は大きく異なるんですよ。

学校の先生をめざしたい!

教員養成系

教科ごとの知識や指導方法など、実践的に学び、教員免許状の取得をめざします。

教育を学問として学びたい!

教育学系

教育の本質や目的、制度や行政など、大きな観点から
教育を理論的・学問的に追究しようとするもので、教育
心理学、教育社会学、比較教育学などがあります。

先生になるためには 何が必要?



まずは「教員免許状」取得に必要な単位を
大学で修得し、卒業と同時に教員免許状を
取得することが最初のステップ!
さらに、その後に「教員採用試験」に
合格することが必要です。

ステップ1

教員免許状^{※1}を取得

ステップ2

教員採用試験^{※2}に合格

新任教員としてスタート!

※1 教育職員免許状→略して「教員免許状」といいます。

※2 公立学校教員採用候補者選考試験→略して「教員採用試験」といいます。

教員免許状や資格について ポイントを確認しましょう！

教員免許状には種類がある

教員免許状はいろいろな種類に分かれています

幼稚園、小学校、中学校、高等学校という学校種ごとに免許状があります。また、小学校は全教科共通ですが、中学校・高等学校は教科ごとに分かれています。さらに、同じ学校種でも「専修」「一種」「二種」の3種類があります（高等学校は「専修」「一種」の2種類）。

〔幼稚園教諭〕専修・一種・二種

〔中学校教諭〕専修・一種・二種

国語・社会・数学・理科・音楽・美術・
保健体育・技術・家庭・外国語 など

〔小学校教諭〕専修・一種・二種

〔高等学校教諭〕専修・一種

国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・
工芸・保健体育・情報・農業・工業・外国語 など

「専修」「一種」「二種」の違いって？

卒業する課程によって異なります

二種：短大卒 一種：大学卒 専修：大学院修了以上

教員免許状の種類は教員採用試験には影響しません。しかし、二種免許状しか取得していない人は、先生として勤務して数年経つと、一種免許状を取得する必要があります。

保育士という免許状はないの？

‘免許状’ではなく‘国家資格’です

大学・短期大学・専門学校などの指定保育士養成施設で必要単位を修得して卒業するか、保育士試験に合格して「保育士資格」を取得する必要があります。玉川大学の教育学部 乳幼児発達学科では4年間のカリキュラムの中で、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の両方が取得できます。

保育所と幼稚園って何が違うの？

管轄・対象の年齢・目的が異なります

保 育 所：厚生労働省（0歳～就学前：保育）
幼 稚 園：文部科学省（3歳～就学前：幼児教育）
認定こども園：内閣府（文部科学省・厚生労働省）
（0歳～就学前：幼児教育・保育・子育て支援）

認定こども園は、就学前の教育・保育を一体的に行う、幼稚園と保育所の両方の良さを併せもった施設です。

- 認定こども園の先生になるには、原則として、保育士資格と幼稚園教諭免許状が必要です。

義務教育学校と中等教育学校って？

それぞれに導入の背景があります

義務教育学校：小学校 + 中学校
中等教育学校：中学校 + 高等学校

義務教育学校は、学校教育上の課題となっている「中1ギャップ」に対応するために制度化されました。中等教育学校は、一つの学校として中高一貫教育を行う学校です。中高一貫教育の形態の一つで、心身の成長や変化の著しい多感な時期において、一人ひとりの能力・適性に応じた教育を進めるために導入されました。

- 義務教育学校の先生になるには、原則として、小学校と中学校の教員免許状が必要です。
- 中等教育学校の先生になるには、原則として、中学校と高等学校の教員免許状が必要です。

教員免許状・資格を取るには？

教員免許状・資格を取得できる学校を選ぶこと

取得したい免許状の教職課程のある大学、学部・学科を選ぶ必要があります。玉川大学のように、教育学部に限らず専門学部で学ぶことができる大学もありますので、よく調べてみましょう。

教員採用試験ってどんなもの?



先生になるために必要な2つめのステップ。それが教員採用試験です。
教員免許状は全国共通で使うことができますが、教員として採用されるためには、
教員採用試験に臨み、合格する必要があります。



教員採用試験の内容を見てみましょう!

公立学校の教員採用試験の一例

1次試験

- 一般教養 — 高校生までに学ぶ教科から、一般常識や時事問題まで幅広く出題
- 教職教養 — 大学の教職課程で学ぶ、理論や法律について
- 専門試験 — 先生になった時に担当する教科についての知識・教養
(小学校の先生は全科、中学校・高等学校の数学の先生は数学 など)

2次試験

- 論作文 — 教育論や、生徒指導などのテーマについて、自分の意見を書く
- 適性検査 — 面接、討論、模擬授業などを行い、教員としての総合的な力が問われる

CHECK

教員採用試験の疑問点を 解消しましょう!

公立学校と私立学校の試験に違いはある?

試験の内容や求人のタイミングが異なります

私立学校は、欠員補充のために採用される場合が多く、希望する学校から常に求人があるとは限りません。
また、独自に試験を実施するため学校によって時期や内容も異なります。

公立学校

全国の都道府県が政令指定都市ごとに実施
(幼稚園・保育所・認定こども園は市区町村が実施)

私立学校

学校独自に実施
(主に欠員補充のため、定期的な求人があるとは限らない)

試験の現状は?

地域や学校種によってさまざま

公立学校の教員採用試験は、実は自治体や学校種、教科・科目によって合格倍率に大きな差があります。一般的に筆記試験よりも面接試験が難関だといわれています。一部の自治体では大学3年生でも受験できる仕組みに変わるなど、教員採用試験の最新の動向にも目を向けましょう。玉川大学では教師教育リサーチセンター(詳しくはP.9)が学校現場の意見や採用状況、出願傾向を分析しながら、より効果の高い対策講座や個別指導などで先生をめざす学生をサポートしています。

先生の仕事って？



先生の仕事は児童・生徒に授業をすることや、担任としてクラスを受け持つイメージが強いのではないのでしょうか。しかし、児童・生徒からは見えないさまざまな仕事があります。



先生の仕事の一部を見てみましょう！

見える仕事

- 朝の会・帰りの会
- ホームルーム
- クラブ活動の指導
- 授業
- 生徒指導
- 遠足・合宿などの引率 など

見えない仕事

- 授業の準備・教材研究
- 保護者の教育相談対応
- 学校行事の計画や準備
- 職員会議・研修会
- 指導計画の作成
- 校務分掌(学校の業務の分担)
- テストの採点・学習評価
- 地域との連携
- など

教職課程ってどんな勉強をする？



教職課程とは、先生に必要な資質・能力を身に付けるための授業科目の総称です。入学した学部・学科の勉強に加えて、先生をめざす人は希望を出して、それらの科目を修得します。



教職課程の内容を見てみましょう！

例：小学校の先生になる場合

教科及び教科の指導法に関する科目

国語、社会、算数、理科、生活、
音楽、図工、家庭、体育、外国語(英語)
各教科の指導法

教育の基礎的理解に関する科目等

教職概論、教育原理、学習・発達論、特別支援教育、
教育課程編成論、生徒・進路指導、
教育相談、教育実習、教職実践演習 など

大学が独自に設定する科目

全人教育論、教育学概論、教育インターンシップ など

その他の科目 (免許法施行規則第66条の6に定める科目)

日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、
数理、データ活用及び人工知能に関する科目、
情報機器の操作 など

介護等の体験

特別支援学校や社会福祉施設での体験

第2部

玉川大学で先生になろう

教員養成の玉川



先生になるにはどのように進学先を
選べばいいのでしょうか？

玉川大学では教職課程や
試験を突破するためのサポート体制を
しっかり準備していますよ。
「先生になる！」という夢を一緒に実現しましょう！



01

子どもたちに学びの魅力を
伝えられる先生になりたい！

専門学部で学ぶメリット

玉川大学では、教育学部の他にも、各学部で「国語」「数学」「理科」「音楽」「美術」「英語」など各教科の大切さ、面白さを自分自身で深く体感することで、それらを子どもたちにリアルに伝えられる先生をめざせるカリキュラムが組まれています。学科専門科目と教職に関する科目を両立することにより、「教育のプロフェッショナル」をめざすことができます。

実際に玉川大学で学ぶ学生の声をチェック ———▶ P.13

「教員養成」を行う専門学部・学科

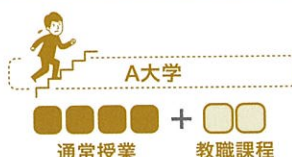
- **文学部** 英語教育学科 英語教員養成コース
国語教育学科 国語教員養成コース
- **芸術学部** 音楽学科 音楽教育コース
アート・デザイン学科 美術教育コース
- **農学部** 生産農学科 理科教員養成プログラム
- **工学部** 数学教員養成プログラム

CHECK

先生をめざす人に
玉川大学を勧める理由とは？

教職課程を受講しても負担が少なく、深く学べるから

玉川大学では、CAP制を採用し、履修登録の上限単位を半年間で16単位としています。そのため、ただ教員免許状を取得するためだけでなく、一つひとつの科目を深く学び、使える知識を修得したり、より多くの教育現場を体験したりすることができます。



総合大学で先生をめざす意味は？



さまざまな学部 소속する多くの学生が集まる
ワンキャンパスの玉川大学だからこそ、
たくさんの刺激を受けて豊かな人間性を身に付けた先生をめざせます。

さまざまな夢をもつ学生が集まる総合大学

玉川大学では、文系学部・理系学部、合わせて8学部17学科の学生が、4年間、ワンキャンパスで学んでいます。同じ夢をもつ学生同士だけでなく、さまざまな目標をもつ仲間、さらには全国から集まる仲間と過ごすことで、さまざまな価値観を知り、刺激を受け、人間としての幅を広げることができるでしょう。



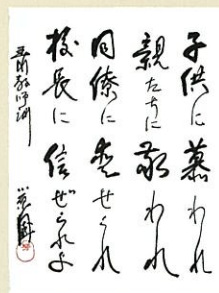
「先生」をめざす自分、「人」としての自分、 どちらも成長したい！



玉川大学の教育理念 「人」を育てる

「教育は人なり」と言われ、教育は教員一人ひとりの力に負うところが大きいとされています。教員として重要なのは、子どもたちの模範となるような人間性。教育者だった創業者・小原國芳は、理想とする「ゆめの学校」を実現するために玉川学園を創設し、豊かな人間性と人格を育む「全人教育」を教育理念として独自の教育を始めました。玉川大学では、その理念のもと創立から現在まで、人間的にも優れた教員を全国の教育現場に送り出し続けています。

玉川教師訓



玉川教師訓

「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」。人間的にも優れ、周囲の人からも人望の厚い先生になってほしいという願いが込められています。

一画多い夢



「大きな夢をもってほしい」「一つでも多くの夢をもってほしい」という願いが込められています。

教育現場をいち早く体験したい！

参観実習

実施期間：1日

1年次に実施される参観実習は、幼稚園や小学校、中学校、高等学校などで実際の授業を参観するプログラムで、教職課程の土台となる実習です。入学後すぐに教育の現場に触れることで、教育という仕事に従事するためには大学で具体的に何を学ぶべきか、課題が明確になる機会でもあります。

「自分が教員になった時」をより明確に意識して学べるように

参観実習は、現在の教育がどのように進められているか、実際に見ることのできる貴重な体験でした。各自がタブレットを用いて授業を受けていることを知り、また、討論する形式が多く用いられていることから生徒自身が授業を作っていると感じました。討論形式の利点だけでなく、抱えている課題についても教えていただき、大きな学びになりました。参観実習を通して「生徒の考えを引き出すことのできる教員になりたい」と思い、生徒が主体的に学ぶための授業展開や関係性の構築など、明確な目標をもって学修しています。

文学部 国語教育学科
国語教員養成コース 3年

服部 凌吾さん

神奈川県 山手学院高等学校 出身

1日のスケジュール

中学校

- 9:00 学校到着
校長先生から学校についての講話
- 2時間目の授業を見学
(中学1年生・国語、中学3年生・国語)
- 3時間目の授業を見学
(中学2年生・国語、中学1年生・英語)
- 4時間目の授業を見学
(中学3年生・数学、中学2年生・国語)

CHECK

キャンパス内に教育の現場が存在します！

幼稚園・小学校・中学校・高等学校があるキャンパス

玉川大学のあるキャンパスには、幼稚部、小学部、中学部、高等部が併設されており、教育インターンシップの受け入れ先になっているだけでなく、日頃から子どもたちの様子を間近で感じることができる環境があるのも魅力のひとつです。

玉川学園は、子どもたちの心と身体の発達段階を踏まえ、幼稚部(年少～年長)、小学1～5年生、6～8年生(中学2年生)、9～12年生(中学3年生～高校3年生)という枠組みで教育活動を行っています。



幼稚部園舎 <年少～年長>



K-12 経塚校舎 <1～5年生>



K-12 東山校舎 <6～8年生>



K-12 中央校舎 <9～12年生>

子どもとたくさん関わり、理解を深めたい！

教育インターンシップ

実施期間：学部により異なる

併設校である玉川学園や大学近隣の学校、幼稚園や保育所などで教育活動を体験するプログラム。教育実習より前に多くの経験を積めるだけでなく、各学生の体験談や疑問点などを共有し、事例を語り合いながら学ぶ機会を得ていきます。教育学部の場合、1年次後期から始まり、週1日・約半年間、体験します。

現場を体験したから 見つけた新たな課題。

インターンシップには座学では得られない体験があります。また、子どもと関わり、振り返りを通して実践から得た学びをさらに深めることができます。私は「子どもへの理解を深めること」を目標として取り組み、多くの子どもと関わるなかで「広い視野をもつこと」も大切だと気付きました。個人を見ながら全体を見るという二つのことを同時に実践するのは今の私にはまだ困難ですが、現場を体験したからこそ見つけた課題でした。また、子どもと触れ合い、関わりをもつことで保育の仕事の楽しさややりがいを感じることができました。保育の世界に限らず広い視野を持ちたいと思い、3年生では国際・社会科学領域のゼミを選択しました。さまざまな個性を受け入れられる保育者をめざしたいです。

1日のスケジュール

保育園

- 出勤(8:00)
- 園児を迎える準備(掃除など)
- 園児登園・好きな遊び
- みんなで経験する遊び
- 昼食
- 好きな遊び
- 園児降園
- 保育室・園庭の掃除
- 退勤(15:00)

教育学部
乳幼児発達学科 3年

島田 百花さん
東京都 日本大学第二高等学校 出身



教育現場を体験するプログラム

教員免許状の取得にあたり必修の「教育実習」は、大学4年次で実施されることが一般的ですが、玉川大学では1年次から教育現場を体験する機会を豊富に用意しています。「参観実習」や「教育インターンシップ」では、「教える立場」で参加することにより、大学の授業で学ぶ理論が実際の教育現場でどういきるのか、身をもって知ることができます。また、「教育ボランティア」の紹介も行っており、たくさんの現場経験を積みながら、先生に必要な力を身に付けることができます。

1年次から教育の現場に行く理由

Aさんの場合

教育学を学び始めてすぐに実際の現場を見ることで、必要になるスキルや知識を早い段階で確認できます。今の自分に足りていないもの、伸ばしたいことを知り、具体的な目標を設定して授業に臨めるようになりますよ。



Bさんの場合

将来働くことになる環境を実際に見たことで、自分に向いているのか向いていないのかを体感することができました。早い段階で本当に教師という仕事が自分に向いているのかを考える機会にもなるので、進路の再考もできますね。



4年間を通して夢の実現をサポートしてほしい。

玉川大学はこれまで質の高い教員・保育士を数多く輩出してきました。
社会から「教員養成の玉川」と呼ばれる実績をいかして4年間をフルサポート。
独自の教育体制とプログラムで夢の実現を手助けします！

教師教育リサーチセンター 先生になりたい学生をフルサポート

「教師教育リサーチセンター」は「先生」になりたい学生の教育現場体験、就職をサポートしています。1年次から先生になるためのさまざまなプログラムが用意されています。

ホームページ

教職課程の取り組みについて
さまざまな情報を掲載しています。

公式SNS
(Instagram)

教師教育リサーチセンターにて随時、
情報を発信しています。



TMGW_KYOSHOKU

CHECK

こんなサポートがあります！

教育現場のプロが指導

小・中学校の元校長、元幼稚園・保育所長の経験豊かな教員（約30名）が支援にあたっています。面接や論文の個別指導、模擬授業対策など、採用をする側の視点による指導を受けられます。

また、教科の学習指導や学級経営などさまざまな疑問についてアドバイスを受けることもできます。



1年次から豊富なサポート

まだ将来に迷いのある1年次から教職課程はスタートします。だからこそ、初年度から安心のサポートと豊富なプログラムがあることで学生の不安を取り除きます。

参観実習

教育
インターンシップ教育
ボランティア教職課程受講者向け
ガイダンス

教員採用試験対策

《教職講座》

教職サポートルームの教員が自治体別にサポートします。卒業生を招いての採用試験の概要解説や、傾向と対策、面接や論文の個別指導、模擬授業指導といった2次試験対策が行われています。

《各自治体の調査・分析に基づいた対策》

教員採用試験の内容は受験する自治体により異なります。その分析結果に基づいた指導を受けられるのが強みです。

《教員・保育士採用試験対策模擬試験》

自分の実力を試すため、採用試験の雰囲気になれるため、年に数回学内で実施。模擬試験後には「模試結果解説・学修スタートガイダンス」も開催されるため、今後の課題が明確になります。

《自主学修会》

受験地や教科ごとに組織された学生の自主学修会。教員・保育士をめざす仲間同士で、受験準備を通しての成果の発表や取り組みの相談、情報交換を行い、お互いを高め合います。

《教員採用等学内説明会》

3年次には、教育委員会の担当者を招いた説明会を実施。各地域の特徴や望まれる教師像についての指導、採用試験や教師塾の説明をしていただきます。大学にしながらして、複数の地域の話を直接聞き、比較・検討することができる貴重な機会です。

勉強に集中できる充実の施設



《模擬授業室》

黒板と椅子・机など、学校の「教室」が再現されています。



《教職サポートルーム》(自主学修室)

教科書や指導書などの教材、各自治体(全国)の教員採用試験の参考書や過去問題集を自由に閲覧できます。

教職課程で学ぶには、学費以外に費用がかかるの？

● 教職のための費用(2022年度参考)

幼稚園・小学校／中学校・高等学校の場合、約13万円です。(補足:教職課程受講料:117,800円、免許状の申請に関する経費:1件あたり4,700円)
別途、文学部・芸術学部・農学部・工学部で中学校・高等学校の免許状に加え、小学校二種免許状を取得する場合は約11万円、
教育学部で小学校の免許状に加え、中学校二種免許状(英語)を取得する場合は約8万円が必要です。



VOICE

利用した先輩の声

東京都立小学校教員採用試験合格

風間 美月さん

教育学部教育学科初等教育専攻2023年3月卒業(静岡県立清水南高等学校 出身)

不安をのぞき、自信を身につける。

教育実習に向けての事前指導や教員採用試験の対策で活用していました。事前指導では、主に模擬授業を中心に指導していただき、教育実習への不安を和らげることができました。試験対策では、論作文と面接の指導をしていただき、自信をもって試験当日を迎えました。現場経験のある先生方からより実践的なアドバイスをいただけるので、心の支えになっていました。

自分の可能性や、かけがえのない仲間に出会う。

自己分析に力を入れ、先生方や仲間たちのアドバイスを基に採用試験や教師になった際にいかせる自分の強みを見つけました。「論作文実践講座」では、基本的な書き方だけではなく、個別指導を通じて私の書く文章の強みやさらに良くするための助言をいただけて嬉しかったです。その他の講座でも、先生方の指導に加え、ともに頑張る仲間たちの姿からも多くの学びや気づきがあり、大変ではありましたがとても充実していました。

説得力のある言葉と、 いつも寄り添ってくれる存在。

先生方の経験談が実践にいかせると感じました。例えば、道徳の授業で教員が「まとめ」をすると価値観の押し付けになってしまうことや、学級通信は凝りすぎると続かなくなってしまうことなど…ご自身で経験された話だからこそ、とても説得力があり納得しました。私が教壇に立つ際に先生方のお話を参考に実践していきたいです。またこの経験や学びをいかし、教師である前に一人の人間として、豊かな心をもって子どもたちと関わっていきたいです。玉川大学で過ごし、先生方の手厚い指導に加え、仲間の努力する姿や助言が私の頑張る原動力のひとつになっています。玉川大学には、素敵な出会いと学びが待っています。



まだまだあります



「教員養成の玉川」 ならではの強み

大学推薦制度

教員採用試験の1次試験が免除（もしくは一部免除）される制度。2021年度は小学校・中学校・高等学校合計で31名（全学部・大学院）が大学推薦制度を利用しました。

2022年度 玉川大学が得た大学推薦枠

<小学校枠のみ>

東京都、埼玉県、さいたま市、茨城県

<小・中学校、高等学校枠>

東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、千葉県、千葉市、山形県、浜松市、長野県、大阪府、堺市、京都府、神戸市、広島市、長崎県など

*上記は2022年5月1日現在。各自治体により詳細の推薦要件あり。

大学院・専攻科

大学での実践的な4年間の学びを通して身に付けた力をさらに深め、能力を磨くための場所として大学院・専攻科が用意されています。めまぐるしく変わる世界の中で、教員の仕事も子どもたちに知識を教えることに加え、高学歴化した保護者や地域コミュニティなどからの要求に応えることにまで拡大しています。そこで大学院・専攻科では、問題意識をもち、高度な専門的能力および優れた資質を有する、教育現場で求められる教員の育成をめざします。また、取得希望免許の基礎となる一種免許状を有していることを原則として、専修免許状を取得することも可能です。

研究科

文学研究科 教育学研究科
農学研究科 教職大学院
工学研究科

専攻科

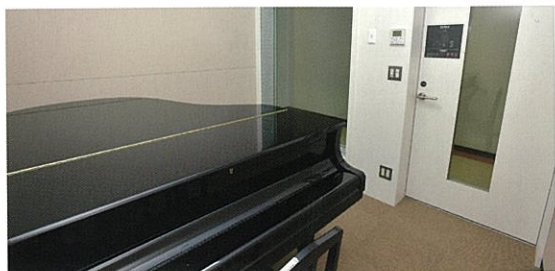
芸術専攻科

通信教育

玉川大学の通信教育は、1950年に開設されて以来、学校教育において活躍できる人材を輩出してきました。幼稚園、小学校、中学校・高等学校教員といった教員養成はもちろんのこと、司書、学芸員、社会教育主事（社会教育士）などの養成もあわせて行っています。高等学校を卒業すれば、通信教育課程で学ぶことができます。

ピアノの練習室

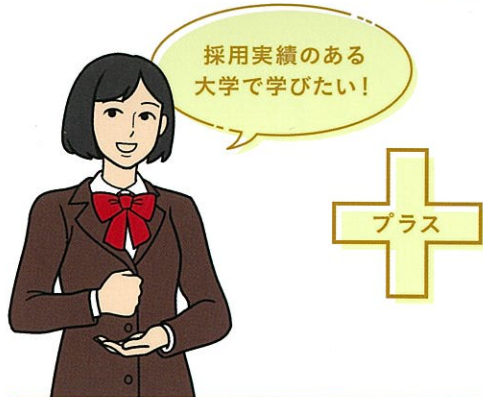
ピアノの練習室が、「University Concert Hall 2016」にあります。予約制、有料（50分100円）で、平常授業日は8時30分から21時まで利用可能です（音楽学科の学生は、1セメスター50分×50回まで無料）。また、より教育現場に必要な実践力を身に付けたいという3・4年生を対象に、レベルに合わせた対策講座を行っています（有料）。



教師塾

各自治体の教育方針に沿った教員養成をめざし、主に小学校教員希望者を対象に研修などを年間を通じて行います。修了者は教員採用試験の1次試験が実質免除、もしくは一部科目が免除となる（特別選考枠として試験が課せられる）制度です。入塾するには、大学推薦型と公募型があり、東京教師養成塾には、玉川大学に大学推薦枠がある他、自治体によっては高倍率となる公募型の教師塾（神奈川県、横浜市、相模原市、千葉県、千葉市など）でも多くの玉川大学生や卒業生が入塾しています。

*各自治体により名称・参加条件が異なる。



教員採用試験には どのくらい合格しているの？

抜群の教員採用実績

毎年、玉川大学から多くの学生が全国で教員採用試験を突破し、新たに先生としての一步を踏み出しています。
全国の教育機関でたくさんの玉川大学卒業生が同志として働いていることも心強いポイントです。
みなさんが「先生」となってからも、先輩や上司として大きな力となってくれるでしょう。

抜群の教員採用実績

※2022年5月時点

教員・保育士等 就職希望者の就職率

89.7% ※非常勤含む

〈参考〉国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)の教員就職率65.2%
(文部科学省HPより2021年3月卒業者の実績)

小学校教員 採用数

171名 全国9位 関東私立3位

中学校教員 採用数

78名 全国5位 私立5位

幼稚園教員 採用数

25名 関東私立10位

保育士 採用数

52名

朝日新聞出版「大学ランキング」2023年版より

教員養成の玉川

※2022年3月時点

全国で教員や保育士として活躍する卒業生。この実績は、「教員養成の玉川」として高く評価されています。

玉川大学出身の教員・保育士

4,986名

特別支援・各種学校

3.3%

幼稚園・保育所

25.8%

大学・短大・高専

8.4%

小学校 **41.0%**

中学校 **13.1%**

高等学校 **8.4%**

教職課程で学んだら、先生になる以外の就職はできないの？

教育を学ぶことで身に付くことは、コミュニケーション能力や主体性、向上心など、他の仕事にもいかせるものばかり。
人に教える、人を育てるためのスキル、考え方は次世代のリーダーに必要になってきます。また、企業・公務員への就職をめざす学生のサポートは「キャリアセンター」で受けられます。教育の分野に限らず、さまざまな業種の求人があるのも、総合大学の強みです。

安定の就職決定率

※2022年3月時点

97.9%

98.9%

98.6%

96.3%

96.7%

2018

2019

2020

2021

2022

就職決定率

玉川大学独自のキャリアサポートの成果は、全学部の高い就職決定率(就職決定者÷就職希望者)に表れています。

第3部

玉川大学の先輩の声

—— 玉川大学で先生をめざす、学生的心声をピックアップ ——



私と同じような理由で大学に入った人も
いるのかなあ。

実際に学んでいる先輩たちは
どんなことを考えているんだろう。



VOICE 専門学部で学ぶ先輩たち

自分の可能性を広げるカリキュラムが魅力

勝林 樹さん 文学部英語教育学科英語教員養成コース4年 / 神奈川県 川崎市立橋高等学校 出身

生きた英語を学ぶことができる海外留学、中学校・高等学校の英語科教員免許に加えて小学校の教員免許も取得できるダブル免許プログラムに魅力を感じ、玉川大学に入学しました。英語教員養成コースでは、自分の将来に向けてさまざまな挑戦ができます。留学先ではアメリカの小学校で約3カ月間のインターンシップを経験し、子どもたちの持つ無限の想像力に魅かれて小学校教員を志すことを決めました。また、川崎市の小学校で実際に授業をするプロジェクトへの参加、英語の知識や技能以外の側面を学ぶ授業、模擬授業を行う指導法の授業などを通して、日々仲間と意見を交換しながら学び合っています。今では、ゼミの特別講義で教わった教員としてのcreativity（創造力）を大切に、自分の強みである英語をいかしながら、子どもたちが自己肯定感を高めていける授業・学級づくりのできる小学校教員になることを目標としています。



英語

国語

同じ目標を持つ仲間が新たな気づきを与えてくれる

高橋 颯汰さん 文学部国語教育学科国語教員養成コース4年 / 宮城県 東北学院高等学校 出身

国語科教員になるための学びが充実しており、自分の求めるカリキュラムが組まれていることが入学のきっかけでした。日本語文法の基礎・応用、古典・近代文学、日本語の歴史など、あらゆる角度から「国語」の学びを深められます。また、学生一人ひとりが発表し合う「国語科指導法」の授業では、授業の事前準備、指導中に心がけていること、授業後の反省など、一緒に学ぶ仲間の考えに触れ、新たな価値観が芽生える良い機会でした。自分の意見を発表することは成長に繋がり、仲間の意見も参考にしながら学びを深めることができます。新たな知識を得ることや新たな考えを生み出すことをさまざまな場面で目的意識を持って取り組むようにもなりました。将来は、生徒・保護者・地域から信頼を得られる教員になることが目標です。



音楽を教育の視点から捉え直すことができる

本間 奏羽さん 芸術学部音楽学科音楽教育コース1年 / 北海道 帯広大谷高等学校 出身

1年生から参観実習を行うなど教員養成に力を入れていること、西洋から日本まで幅広い音楽の知識を得られることに魅了され入学を決めました。今までは演奏するという形でしか音楽と向き合っていませんでしたが、教職科目を受けることで芸術教科を学校教育でどのようにいかにせるのだろうかという環境を内包して音楽を捉えるようになりました。実技科目では担当の先生からの確かなアドバイスを受け、技術を磨いています。また、実際に教えるという立場になったときに必要な指導の工夫や理解しやすい指導法、主体的な学びをするための授業展開を学ぶことができます。音楽の魅力を通して一人ひとりに寄り添える教員を目指して、人間も音楽も磨きをかけていきたいです。



音楽

美術・工芸



みんなが同じ夢を追いかけているから、自分も頑張れる

木村 美月さん 芸術学部アート・デザイン学科美術教育コース3年 / 山口県 梅光学院高等学校 出身

玉川大学は、美術に関する知識や技術を身に付けられるだけでなく、教職の授業やサポートが充実しており、加えて、音楽や体育、宗教教育など幅広い分野を学ぶことに魅力を感じています。自分の好きな分野を学ぶので講義はどれも楽しく、特に「美術科指導法」は将来をより強く意識できる授業です。その他にも困難に立ち向かうことで成長を実感できる授業もあります。私は生涯学び続ける人間でありたいと考えており、生徒から学ぶことで自分自身も成長し、それを生徒に還元できるよう日々精進していきたいです。大学では多くの学生が同じ夢を追いかけているので助け合うことができます。私にとって切磋琢磨できる友人との出会いが人生で最大級の収穫になりました。

学内外で充実した学びを得ることができる

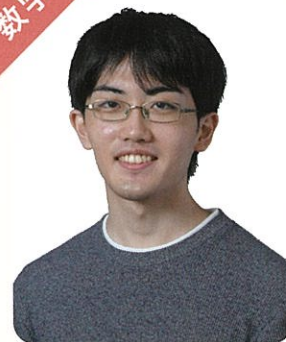
斎藤 翼さん 農学部生産農学科理科教員養成プログラム4年 / 新潟県立新発田高等学校 出身

玉川大学には広大な敷地や施設、設備があるためさまざまな経験とおして実践的な力を鍛えられます。インターンシップでは、週に1、2回中学校で授業の見学や補助をしてきました。講義だけでは学ぶことができない技術や学校の実態など多くのことに触れることができました。また、近年教員に求められているICT端末を活用した授業についても学ぶことができます。理科教員養成プログラムは、少人数で構成されており、仲間と切磋琢磨しながら、ともに学ぶことができます。また、学級担任制であるため、学業や将来の不安、悩みごとを先生に相談しやすく、安心して学生生活を送ることができます。将来は一人でも多くの生徒に理科を好きになってもらえるよう、楽しくてわかりやすい授業ができるようになりたいです。



理科

数学



一人ひとりに寄り添う数学教員をめざして

原田 康希さん 工学部マネジメントサイエンス学科数学教員養成プログラム4年 / 福島県立福島東高等学校 出身

数学の教員になるという夢を叶えるためには、「教員養成の玉川」で学ぶことだと思い、玉川大学へ入学しました。「数学科指導法」の授業では、模擬授業や問題解説、試験監督などさまざまな経験をし、教壇に立ち、教える立場として視野を広げることができました。所属するマネジメントサイエンス学科では同じ目標に向かって頑張る学生が身近に多くいます。心理的な支えになったり、さまざまな場面で協力したりすることができる環境のため、仲間とともに成長できると感じています。また、大学での学びや経験をいかして生徒の立場からも考えることのできる数学教員を目指しています。

VOICE 教育学部で学ぶ先輩たち

「教育」だけではない魅力

炭谷 綺乃さん 教育学部教育学科初等教育専攻4年 / 石川県 遊学館高等学校 出身

私の夢は小学校教員として教壇に立つことです。玉川大学は「教員養成の玉川」といわれ、教師になるための勉強を集中してできるだけでなく、これまで打ち込んできた部活動にも集中できる環境が整っていることに魅力を感じ入学を決めました。また、同じ教職を学ぶ仲間と助け合いながら学ぶことができ、クラス担任制、教師教育リサーチセンターなどの手厚いサポート体制があるので、安心して学ぶことができます。



小学校

児童一人ひとりを知る、 多角的な視点が身に付く

「特別支援教育」の授業をととして、さまざまな人の生活と学びを知る機会があり、多様性に対する理解を深めることができました。そのことから多くの人に障がい者理解を広げたいと考えようになりました。専門家のみならず、すべての人が障がい者をサポートできると知って欲しいと感じています。また、児童を含め人の行動に対して多角的な視点を持つようになり、さまざまな行動を起こす理由を考えられるようになりました。

学校は楽しい場所、学ぶことは楽しいと 子どもたちが感じられるように

教育学部では、小学校教員を志す学生だけでなく社会科や保健体育など、中学校・高等学校の教員や幼稚園教諭・保育士をめざす人とも一緒に学べるため、教育についてさまざまな意見を交わすことで、教育の見識が深まります。大学での経験をいかして、学校は楽しく、学ぶことは楽しいと感じられるような授業づくりや働きかけができる教師になりたいです。

幼稚園



保育の面白さを伝えてくれる先生たち

飯野 明日香さん 教育学部乳幼児発達学科4年 / 茨城県立牛久高等学校 出身

玉川大学を志望したのは、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格のどちらも取得できる点に魅力を感じたからです。また、保育の面白さが伝わる講義も多く、子どもの個性を理解できる保育者に近づくことができると感じ入学を決めました。絵本の読み聞かせの学びでは、まるで自分が絵本の中に入っているような感覚で、子どもたちにもこのように楽しませることができればいいなと感じました。また子どもの行動には必ず理由があることを学び、それぞれの個性を伸ばすことができる保育者になりたいと思っています。

成長ある学びと、 成長を感じる実践がある

実習の現場などで子どもたちと初めて関わった時は、けんかなどが起こる度にどうしていいかわからず焦ることもありました。しかし、座学の授業などを通してさまざまな関わり方があることを学び、まずはそれぞれの気持ちに共感することから始めました。子どもたちの気持ちを理解し、援助もできたと感じることがインターンシップや実習で増えてきました。現場で成長を改めて実感する瞬間でした。また、グループワークの授業も多く、仲間同士で保育の考えを深めています。

子どもにも、保護者にも、 真摯に向き合う保育者に

毎日が子どもと一緒に保育者だからこそ、気持ちが汲み取れる、成長に携われる、それがこの仕事の最大の魅力です。今の目標は、子どもが「今日も楽しかった」と感じられる保育をすること。子どもの行動の背景に仮説を立て、会話をしながら一人ひとりと信頼関係を築きたいと思っています。また保護者が子育てに悩んだ時「先生になら話したい」と思っていたらいいような保育者になりたいです。なんでも気軽に相談できるような関係を築きたいです。



卒業生の声

玉川大学を卒業し、実際に教育の現場で働く卒業生に大学時代を振り返っていただきました。

幼稚園



学校法人正和学園 幼保連携型認定こども園正和幼稚園

大学での学びが 保育者としての芯になる

佐々木 乃友里さん 教育学部 乳幼児発達学科 2022年卒業

自然豊かな幼稚園で子どもたちと自然や生き物にたくさん触れながら日々保育をしています。子どもたちの興味・関心を広げていけるよう、「今何に夢中になっているのか」を考えることを大切にしています。

大学の4年間では「遊びは生きる力を育む」ということばに代表される学びが印象に残っています。子どもの「やりたい!」という気持ちは学びの第一歩。そのきっかけとなる遊びは、子どもの生きる力を育む重要なものであると学びました。大学時代に得た遊びのアイデアや教材研究の成果は、日々保育をする上での遊びの引き出しになりました。引き出しを多く持つことで、子どものやりたいことや、夢中になれる環境を作ることができています。

私が準備した素材に触れたり、提案した遊びが子どもたちの豊かな発想で思いも寄らない方向に広がっていくことがあります。その時のいきいきとした表情を見ることがやりがいのひとつです。また、子ども同士のやりとりやグループ活動の言動で成長を感じる場面もあり、そうした気づきや想いを丁寧に受け止め、寄り添いながら子どもの成長を広げていけるような保育者に成長していきたいと考えています。

社会福祉法人翔の会 うーたん保育園

子どもの目線に実際に立つ。 だからわかる子どもの気持ち

橋口 由紀乃さん 教育学部 乳幼児発達学科 2020年卒業

現在、1歳児クラスの担任として日々子どもたちと一緒に過ごしています。元気な挨拶から始まる1日を通して、子どもも大人も楽しみながら一緒に成長できるように努めています。

大学では保育の基礎から実践的な学びまで広く見識を深めました。印象に残っている授業は「つるびかの泥団子作り」です。久しぶりに作る泥団子はなかなか上手くいかず…それでもなぜ上手くいかないかを考え、土を違うところから取ったり、磨き方を友達と話し合ったり試行錯誤を重ねました。完成品自体ではなく、その過程にこそ学びがあり、何よりも楽しみながら学ぶことが成長に繋がると実感しました。

子どもたちの気持ちに寄り添う大切さを学び、「今、何を感じているのか?」「どうしたいのか?」などその子どもの思いを考える習慣がつかしました。また、不安や心配を抱える保護者の方の思いも受け止め、ともに考えながら最善のサポートを見つけていきたいです。今後も、子どもの心を動かす保育、子ども自身が自分で育っていくことを支えることができる保育者を目指していきたいと思っています。

保育園





横浜市 公立小学校

小学校



大学時代の経験があるからこそ、 子どもたちとともに!というゴールを目指す

山本 凌成さん 教育学部教育学科2018年卒業 玉川大学大学院教育学研究科2020年修了

現在、3年生の担任として、明るく元気のよい子どもたちと笑顔大切に過ごしています。高校時代から物事を根本でとらえることができる哲学に関心があり、玉川大学では教育学を通して人間について考えを深めてきました。授業や実習、ボランティア活動を通して、多角的な視点から考えを巡らせる力を身につけ、今の仕事でもいかしています。とくに、子どもと関わる時に根本に立ち返る力が大切だと痛感しています。子どもへの指導とは、怒って責めることではなく、その背景にどのような問題があるかを汲み取ることです。「どうして~なのか」という視点を持つことで、かけるべき言葉は大きく変わります。子どもたちがいきいきと成長できる学校をつくるために、これからも大切にしていきたい考え方です。また、授業で本当に教えたいことは、学習内容の暗記術ではなく、学校での学びを生活の中でいかしていく術です。今の目標は、子どもとともに成長する教師です。私は授業を通して世の中や生き方を伝えていますが、子どもたちは人と関わる大切さや次の時代を生きるヒントを教えてください。ICTの活用方法などは子どもの方がひらめくことが多く、参考にすることもあります。これからも「教える-教わる」関係ではなく「ともに成長する」関係大切にしていきたいです。

鎌倉市立手広中学校

多様な視点で現代社会の諸問題を考える力を養った

庄司 快さん 文学部 国語教育学科 国語教員養成コース 2021年卒業

現在は、学級担任と国語の授業、野球部の顧問などを受けもっています。生徒と接する際には、一人ひとりの環境や文化、考え方に対して、寄り添う意識を大切にしています。大学では、異文化や倫理など、現代社会の諸問題を考える講義が多くありました。自身の常識や感覚を見つめ直し、社会や他者との関わり方を多様な視点で考える対応力が身に付きました。生徒に自分の思いを伝えることは想像以上に難しいですが、生徒のことを心から思い、粘り強く働きかけることを意識しています。私の言葉が生徒の心に響いたと感じられる瞬間はとてうれしいです。今後も日々努力し、生徒と共に成長し続けたいです。



中学校

高等学校



横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

一人ひとり違う生徒に自分の経験から寄り添いたい

齋藤 圭さん 工学部 マネジメントサイエンス学科 卒業

現在数学科教員として、生徒たちのニーズに合った指導法や、生徒が少しでも前向きに授業や学習に取り組むためにはどうしたら良いか、といったことを考えながら日々の授業準備に励んでいます。生徒たちが前向きに、いきいきと毎日の学校生活を過ごす姿を見るのが今の私のやりがいです。大学では、教員としてどうあるべきかという姿勢を学べました。グループ学修が多く、一緒に指導案を考えたり、模擬授業をしてアドバイスをし合ったり…「教員になりたい」という同じ志をもつ多くの仲間と出会えたことが、玉川大学に進学して良かったと思える一番の理由です。今、高校生に進路の話をするときには、「大学は、自分と同じ興味や関心、夢や目標をもった人と一緒に勉強できる場所だよ」ということを必ず伝えていきます。

さあ！先生になろう！



先生になるための仕組みや大切なことはこれで理解できました！
玉川大学で教員をめざすのが夢への近道なのかもしれません！

今回、先生になることや教育についてを学んだことで、
より明確に「先生になる」自分を
イメージできるようになったと思います！
今の自分の気持ちを忘れないように、メモに残しましょう。
あとで振り返った時に、自分の将来を考えるヒントになりますよ！



Think
1

先生になりたいと思った時期ときっかけを
思い返してみましょう。

小学校の担任の先生に憧れたのが
きっかけだったな。



Think
2

今の自分がめざす先生像をイメージ
してみましょう。

体育の先生が厳しかったけど熱い先生で
好きだったなあ。



Think
3

先生になるために今の自分が取り組むべき
ことを考えてみましょう。

「教える」ために必要な語彙力は
今から鍛えておかなきゃ！



Think
4

理想の大学生活の一日の流れを
考えてみましょう。

(授業やゼミ、教職課程などの学修面とサークルやアルバイトなどの私生活面)

授業はもちろん大事だけど、
自分の世界を広げる時間も大切だね。



Think
5

玉川大学で教育を学ぶ意味やメリットを
考えて、他大学と比較してみましょう。

比較することで自分に合っている
かどうかわかるからね。



先生をめざす人のための入試制度があります

首都圏教員養成総合型入学審査

- 教員志望で東京・神奈川・千葉・埼玉の
学校出身者対象！
- 現役生のみ
- 第一志望(専願)
- 書類審査(エッセイ、資格・検定取得記入書、
志願者評価書、調査書)と面接試験



WEBサイトは
こちら

地域創生教員養成入学試験(一般選抜)

- 教員志望で東京・神奈川・千葉・埼玉以外の
学校出身者対象！
- 本選抜制度で入学し、教員免許状を取得したのちに地元
で教員に採用または名簿登載された学生には、卒業時に
地域創生奨励賞として奨励金30万円が授与される！
- 2科目受験
- 本学試験場のほか学外15会場で受験可能！



WEBサイトは
こちら

玉川大学で取得可能な教育職員免許状

教育学部 教育学科 初等教育専攻

- 小学校一種 + 幼稚園一種
- 小学校一種 + 中学校二種(国語)[※]
- 小学校一種 + 中学校二種(社会)
- 小学校一種 + 中学校二種(数学)[※]
- 小学校一種 + 中学校二種(理科)[※]
- 小学校一種 + 中学校二種(音楽)[※]
- 小学校一種 + 中学校二種(美術)[※]
- 小学校一種 + 中学校二種(保健体育)
- 小学校一種 + 中学校二種(技術)[※]
- 小学校一種 + 中学校二種(英語)[※]
- 小学校一種 + 高等学校一種(情報)[※]
- 幼稚園一種 + 小学校一種

教育学部 教育学科 社会科教育専攻

- 中学校一種(社会) + 高等学校一種(地理歴史) + 高等学校一種(公民)
- 中学校一種(社会) + 高等学校一種(地理歴史) + 小学校二種
- 中学校一種(社会) + 高等学校一種(公民) + 小学校二種

教育学部 教育学科 保健体育専攻

- 中学校一種(保健体育) + 高等学校一種(保健体育) + 小学校二種

教育学部 乳幼児発達学科

- 幼稚園一種 + 保育士(国家資格)

幼稚園と保育所を一体化して捉える国の流れに対応しています！

文学部 英語教育学科 英語教員養成コース

- 中学校一種(英語) + 高等学校一種(英語) + 小学校二種[※]

文学部 国語教育学科 国語教員養成コース

- 中学校一種(国語) + 高等学校一種(国語) + 小学校二種[※]

芸術学部 音楽学科 音楽教育コース

- 中学校一種(音楽) + 高等学校一種(音楽) + 小学校二種[※]

芸術学部 アート・デザイン学科 美術教育コース

- 中学校一種(美術) + 高等学校一種(美術) + 高等学校一種(工芸) + 小学校二種[※]

農学部 生産農学科 理科教員養成プログラム

- 中学校一種(理科) + 高等学校一種(理科) + 高等学校一種(農業) + 小学校二種[※]

工学部 デザインサイエンス学科

- 中学校一種(技術) + 高等学校一種(工業) + 小学校二種[※]
- 中学校一種(数学) + 中学校一種(技術) + 小学校二種[※]
- 中学校一種(数学) + 高等学校一種(数学) + 小学校二種[※]

工学部 情報通信工学科

- 中学校一種(数学) + 高等学校一種(数学) + 小学校二種[※]
- 高等学校一種(工業)

工学部 マネジメントサイエンス学科

- 中学校一種(数学) + 高等学校一種(数学) + 小学校二種[※]

工学部 ソフトウェアサイエンス学科

- 中学校一種(数学) + 高等学校一種(数学) + 高等学校一種(情報) + 小学校二種[※]

工学部 数学教員養成プログラム

入学手続時にデザインサイエンス学科、情報通信工学科、マネジメントサイエンス学科、ソフトウェアサイエンス学科のうちからいずれに所属するかを選択します。取得できる教員免許状は上記参照。

* 教職課程の受講には条件があります。また、別途費用がかかります。

※ ダブル免許プログラム受講により取得

大学在学中に2つの教員免許状を取得

ダブル免許プログラム

文学部・芸術学部・農学部・工学部では、在学中に、中学校・高等学校の免許状に加え、小学校二種免許状^{※1}も取得することができます。また、教育学部 教育学科 初等教育専攻では、小学校の免許状に加え、中学校二種免許状(国語・数学・理科・音楽・美術・技術・英語^{※1})、高等学校一種免許状(情報)も取得可能。2021年度は、26名^{※2}がダブル免許プログラムにより小学校の先生になりました。

※1 サマー・ウィンターセッションの受講による ※2 臨時的任用職員含む

ダブル免許プログラムのメリットとは？

変わりゆく
社会の流れに
対応できる！

こんな夢を
実現したい！

- ▶ 2022年度より小学校で「教科担任制」を導入しています
- ▶ 2020年度より小学校プログラミング教育の全面実施が始まりました
教育学科 初等教育専攻：小学校一種免許状+高等学校一種免許状(情報)が取得可能
- ▶ 2020年度より小学3年生から英語が必修になり、5・6年生では英語が正式な教科になりました
教育学科 初等教育専攻：小学校一種免許状+中学校二種免許状(英語)が取得可能
英語教育学科 英語教員養成コース：中学校一種免許状(英語)・高等学校一種免許状(英語)+小学校二種免許状を取得して、教科としての英語の知識をもった小学校の先生がめざせます
- ▶ 子どもの理科離れを何とかしたい！
農学部 生産農学科 理科教員養成プログラム：中学校一種免許状(理科)・高等学校一種免許状(理科)+小学校二種免許状を取得して、理科という教科の本質の面白さを伝えられる小学校の先生がめざせます

* 教職課程の受講には条件があります。また、別途費用がかかります。

* 本冊子の内容は2023年2月現在の2023年4月以降の予定です。社会情勢により、内容に変更が生じることがあります。

玉川大学

〒194-8612
東京都町田市玉川学園6-1-1
<https://www.tamagawa.jp/university/>

(入試広報課)
TEL: 042-739-8155
MAIL: koho@tamagawa.ac.jp

玉川大学
入試Navi



令和5年度 教職課程受講ガイダンス

教師教育リサーチセンター

1

教員になるには

2

教員になるにあたって必要な条件

➤ 教員免許状を取得する

※教職課程を受講し、免許状取得に必要な単位を修得する。
→併せて教員になるための力量を身につける

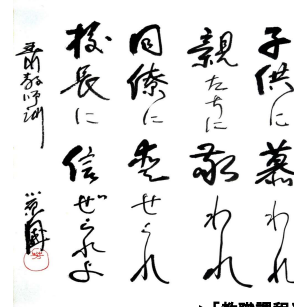
➤ 教員採用試験に合格する

※教職課程の受講者対象の対策講座等に出席し、試験合格の対策を行う。

3

玉川大学が目指す教師像①

玉川大学が目指す教師像＝玉川教師訓



▶「教職課程受講ガイド」p4参照 ⁴

玉川大学が目指す教師像②

玉川教師訓を実践できる教師の育成を本学は目指します。そのために必要な次の**4つの力量**を備えた教師を養成します。

- ①確かな学力と健やかな体を育てる「学習指導力」
- ②豊かな心を育て自己実現を図る「幼児・児童・生徒指導力」
- ③ともに高めあうクラスをつくる「学級経営力」
- ④新たな学校づくりを推進する「協働力」

▶「教職課程受講ガイド」p4参照 ⁵

教職課程受講支援プログラム①

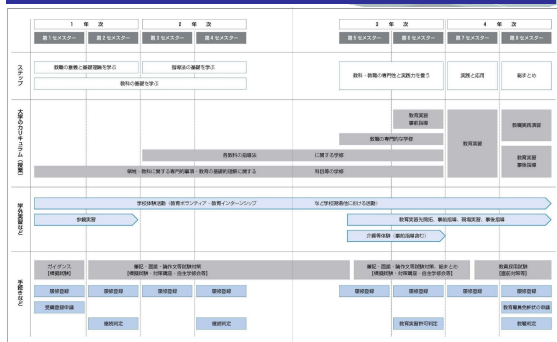
玉川大学では**教職課程受講支援プログラム**（次ページ）を設定しています。



4年間での長期間において、免許状に必要な単位数を修得し、採用試験の対策しつつ、4つの力量をしっかりと身につけられるよう設定しています。

6

教職課程受講支援プログラム②



▶「教職課程受講ガイド」p18・19参照

教師教育リサーチセンターについて

8

教師教育リサーチセンターについて

- ・教員・保育士を目指す皆さんの総合窓口
- ・経塚オフィス棟1階
- ・教育・保育実習、介護等体験、学校体験活動（教育インターンシップ・教育ボランティア）、教員免許状の申請、教員就職支援等
- ・教職サポートルーム（所属される先生方の研究室と自主学修のための支援室）

<問い合わせメールアドレス>
kyoshoku@tamagawa.ac.jp⁹

経塚オフィス棟内1階レイアウト

★教師教育リサーチセンター

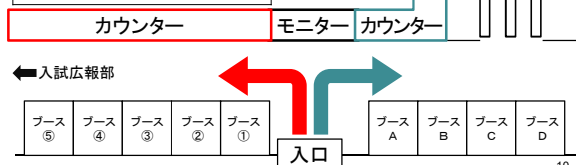
教職課程支援室（通学・通信）

- ◆通学課程（教職課程支援室）
 - ・教育実習
 - ・介護等体験
 - ・学校体験活動
 - ・免許・資格
 - ・教員・保育士就職（教職講座・教員就職プログラム運営）
- ◆通信教育課程（教職課程支援室）
 - ・教育実習
 - ・介護等体験 等
- ◆教員研修室
 - ・現役教員対象の研修 等

★自主学修室

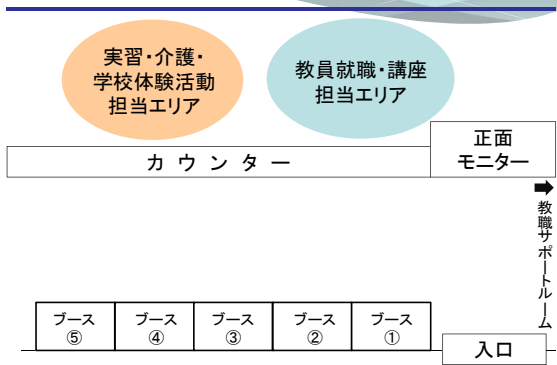
教員・保育士を目指す学生のための自主学修室

- ・教職サポートルーム教員等との面談
- ・キャリア個別相談
- ・求人票、参考書、教科書・指導書等資料の活用
- ・自主学修、模擬授業の取組み、グループ協議等



10

教師教育リサーチセンター担当窓口



11

教師教育リサーチセンターからの連絡について

12

教師教育リサーチセンターからの連絡について

➤ 基本的にUNITAMAの掲示で行います



※大学より付与しているメールアドレスや電話にて連絡することもあります。
※見逃して欠席にならないようにしっかり確認を怠らないようにしてください。

13

取得可能な免許状について

14

取得できる免許状について①

➤ 学部・学科により取得できる免許状が異なります。

▶「教職課程受講ガイド」p5参照

15

取得できる免許状について② 教育学部 教育学科

➤ 複数の免許状を取得することが可能になります。

▶ 複数免許の組み合わせについては「教職課程受講ガイド」p55参照

➤ 複数免許状の場合、**ピーク免・サブ免**を設定します。

基本的には教育実習に行く回数によっての設定となります。

	ピーク免	サブ免	ダブル免許プログラム
複数免許の場合	小学校1種のみ		
	幼稚園1種のみ		
	幼稚園・小学校1種		
	中学校・高等学校1種のみ		
	小学校1種	中学校2種 (保健体育・社会)	中学校2種(英語・国語・数学・理科・音楽・美術) 高等学校1種(情報)
	中学校・高等学校1種	小学校2種	

取得できる免許状について③ 教育学部 教育学科

➤ 複数の免許状を取得する場合にはそれぞれの免許状において必要な科目が異なることがあるため、**履修に気をつける**必要があります。

※学部の履修ガイダンスや教職・教務担当に確認しながら進めてください。

➤ 免許状取得するために、**免許状必要単位数を修得**する以外にも**教職課程受講条件**や**教育実習受講条件**があります。**条件を充足**できるよう学修を進めてください。

▶「教職課程受講ガイド」p55参照

17

ダブル免許プログラムについて① 教育学部 教育学科

➤ 文・農・工・芸術学部で認定されている**中学校2種免許(英語・国語・数学・理科・音楽・美術・技術)**および**高等学校1種免許(情報)**の取得が可能(申請手続きが必要)です。

➤ ただし、取得にあたっては**基準を満たす**必要があり、かつ**人数制限**があります(5名程度)。

➤ 受講を希望する学生は、6月22日(木)17:15より「ダブル免許プログラム受講ガイダンス」を開催予定です。詳細はUNITAMA掲示(予定)で案内します。

※ダブル免許プログラムに関する質問は、本ガイダンスで回答します。

▶「教職課程受講ガイド」p14・55・84～87、90～101参照

18

ダブル免許プログラムについて② 文・農・工・芸術学部

- 中学校・高等学校1種免許だけでなく**小学校2種免許**の取得が可能(申請手続きが必要)です。
- 受講を希望する学生は、5月25日(木)17:15より「ダブル免許プログラム受講ガイダンス」を開催予定です。詳細はUNITAMA掲示(予定)で案内します。

▶「教職課程受講ガイド」p14・80～83、88～89、98～99参照 19

教職履修カルテについて

20

教職履修カルテとは

- **本学が目指す教師像(=玉川教師訓)**を踏まえ、教員免許状を取得するために履修した科目全て(F評価の科目含む)に対して、

- ★どのような成果を得ることができたのか
- ★今後、何をやらなければいけないと感じたのか

を本学が目指す教師像の視点から振り返り、まとめたものが**教職履修カルテ**です。

21

教職履修カルテの対象

1. 希望する教員免許状を修得するために必要な科目すべて
 - ※ 具体的な科目名は希望する免許状ごとに異なるので、各自教職課程受講ガイドを参照して確認すること。
学校体験活動(教育ボランティア・教育インターシップ等)
2. 学校体験活動(教育ボランティア・インターシップ)の教育現場や地域での社会的活動
3. 教育実習の振り返り
4. 年度の振り返り

22

教職履修カルテの入力

【入力システム】 UNITAMA「教職カルテ」

【入力時期】 各セメスター終了時

4年生の秋学期に履修する「教職実践演習」は最後の総まとめ的な授業となります。その際に必要となりますのでセメスター毎にしっかり作成をしてください。

- 入力方法等については改めてUNITAMA掲示にて指示しますので確認の上、対応してください。

23

教職課程を受講するにあたっての 注意事項

24

注意事項①

➤ 教職課程受講登録をする#教職以外に進めない

- 進路選択の1つ
- 1年次でやめても問題ありません

※ 先生を目指すなら早い方が良いです

25

注意事項②

➤ 教職課程受講登録をする#4年間教職課程の受講許可



4年生まで教職課程を続けるには、**学部・学科毎に定められた条件を充足する必要があります。**

※教職課程の受講にあたっては**学部・学科毎に条件等**が異なるので、「教職課程受講ガイド」をよく読んで内容を確認してください。

26

注意事項③

教職課程の受講にあたって諸々の事項(教職受講条件・免許状取得に必要な科目・教育実習に行くための条件・W免許プログラムに関する事、教職課程履修規則など)については、**「教職課程受講ガイド」**をよく読んで内容を確認してください。

※不明な点があれば、わからないままにせず、相談してください。

<問い合わせ先>

- 教職に関する件 教師教育リサーチセンター
- 履修に関する件 学部学科の教務担当または学級担任

27

今後の手続きについて

28

教職課程受講登録について

- UNITAMAのアンケートにより必要事項を回答してください。
アンケートはUNITAMAの上部メニューの「アンケート」から回答ができます。
「アンケート回答一覧」より【令和5年度 教職課程受講登録について(●●学部対象)(教師教育リサーチセンター)】を選択し、回答してください。
回答完了をもって教職課程受講者として登録します。

➤ アンケート回答期限:

4月4日(火)10:00~4月13日(木)23:59まで(時間厳守)

- アンケート回答期限までに未回答の場合には教職課程の受講をしないとみなしますので注意してください。

29

教職課程受講料について①

➤ **金額 15,700円(1年次分)**

※UNITAMAのアンケートにて必要事項を回答した方の保証人宛に納付書を送付(5月上旬に発送予定)します。

※期日までに納入しなかった場合には、教職課程履修規則の第6項②により受講中止となりますので注意してください。

※一旦納入された受講料は基本的には返金しません。

▶「教職課程受講ガイド」p104-105参照 30

教職課程受講料について②

※文・農・工・芸術・教育学部でダブル免の履修をする場合、追加の費用が必要です。

詳細は「ダブル免許プログラム受講ガイダンス」にて案内します

31

ガイダンス内容についての質問

ガイダンス資料で質問がある場合には、登録手続きを行うためのアンケートの最後に質問項目がありますので、そこに記入してください。

後日、Q&Aを作成し、UNITAMAにて掲示を行います。

32

最後に

玉川大学教師教育リサーチセンター

【通学課程】

電話番号: 042-739-8806

メール: kyoshoku@tamagawa.ac.jp

【教員・保育士就職】

電話番号: 042-739-8161

メール: t-shushoku@tamagawa.ac.jp

※電話番号・メールアドレスを登録するようにしてください

33

最後にー公式SNS-



TMGW_KYOSHOKU

【教師教育リサーチセンターInstagram】

教師教育リサーチセンターや教職サポートルームの紹介、本学の教職課程の取り組みについて公式SNS (Instagram) にて情報を発信しています。

< tmgw_kyoshoku ...
27 295
投稿 フォロワー フォロワー中



玉川大学 教師教育リサーチセンター
教育
#玉川大学 #教師教育リサーチセンター
#全人教育の玉川
#教職課程 #教員養成
#教員採用試験 #教員採用試験
#教員採用試験 #教員採用試験
@ www.tamagawa.jp/university

フォローする

メッセージ

34

未来へのサポート・教師教育リサーチセンター

「教員養成の玉川」がもつ強み

理想の教師になるための教職サポート

「先生になりたい!」を ともに実現する

児童や生徒にとって「先生」は大きな存在です。「先生」になって児童や生徒にどんな影響を与えたいのか、そのためには何が必要なのか。玉川大学では「全人教育」とおして、学生一人ひとりの理想とする教師像をともに考え、目標の実現に向かって一緒に歩んでいきます。玉川学園の創立者であり教育者でもあった小原國芳は、理想とする「ゆめの学校」を実現するために、玉川学園を創設しました。深い学識と柔軟な発想力で子どもたちに向き合い、成長をサポートする。自発的で創造的な活動を取り入れた「全人教育」だからこそ、人間力豊かな教育者をめざすことができます。

他大学では……

忙しい!



学科の通常授業

教職課程

玉川大学では……

ゆとりがある!



通常授業に教職課程が
組み込まれている

他大学では、所属学科の専攻科目と教職科目を履修し、全体で多くの単位を取得しなければならないため、どうしても多忙になってしまいます。一方、玉川大学では卒業に必要な124単位の中で教職課程を受講し、教育職員免許状を取得することが可能です。教職課程受講の負担が少ないので、深みのある学修や現場体験での実践に集中して取り組むことができます。

取得可能な教育職員免許状一覧

名称 学部・学科			幼稚園教諭	小学校教諭	中学校教諭														高等学校教諭																		
					一種														二種																		
					一種														二種																		
					一種	二種	二種	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	英語	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	英語	国語	地理歴史	公民	数学	理科	音楽	美術	工芸	保健体育	情報	農業	工業
教育学部	教育学科	初等教育専攻	●	●										■	●	■	■	■	■	■	■	■											■				
		社会科教育専攻			●		●																		●	●											
		保健体育専攻			●						●																				●						
	乳幼児発達学科 ^{※1}		●																																		
文学部	英語教育学科	英語教員養成コース			■							●																								●	
	国語教育学科	国語教員養成コース			■	●																		●													
芸術学部	音楽学科	音楽教育コース			■				●																				●								
	アート・デザイン学科	美術教育コース			■				●																				●	●							
農学部	生産農学科	理科教員養成プログラム			■				●																			●							●		
工学部	デザインサイエンス学科				■			●				●															●								●		
	情報通信工学科				■			●																		●									●		
	マネジメントサイエンス学科				■			●																		●											
	ソフトウェアサイエンス学科				■			●																		●											
	数学教員養成プログラム ^{※2}				■			●				●														●							●		●		

●:取得できる免許状 ■:ダブル免許プログラム受講により取得 ※1 保育士資格が同時取得可能 ※2 所属する学科により、取得可能な免許状が異なります。

* 教職課程の受講には条件があります。また、別途費用がかかります。

児童や生徒と触れ合い、 現場での対応力を高める

玉川大学の教員養成では、実際に教育現場で児童や生徒と触れ合う機会を大切にしています。大学4年次に実施する教育実習だけでなく、1年次から教育現場に赴き、実践を積み重ねることができます。

入学後すぐに教育現場に触れる

参観実習

[実習期間: 1日]

1年次に行われる参観実習は、幼稚園や小学校、中学校、高等学校などで実際の授業を参観するプログラムです。入学してすぐ教育現場に触れることで、教育という仕事に従事するために必要なこと、現場で得た気づきから、大学で具体的に何を学ぶべきかを考えること。これは教員を志す上で、確実な指針となるはずです。



圧倒的な経験を経て、現場に強くなる

学校体験活動

〈教育インターンシップ〉

[実習期間: 学部によって異なる]

教育実習より前に、多くの現場経験を積むことができる学校体験活動。併設校の玉川学園や大学近隣の学校や幼稚園、保育所などで教育活動を体験します。教育学部の場合、1年次後期から週1日ペースで約半年間行います。子どもたちと触れ合い、「教える」体験をとおして実践力を学ぶことで、臨機応変に現場対応ができるようになるでしょう。



ダブル免許プログラム

教育職員免許状を取得

1年次 2年次 3年次 4年次 卒業

中学校・高等学校一種 + 小学校二種

小学校一種 + 中学校二種／高等学校一種

大学4年間で必要な単位を修得して卒業すれば、
同時に両方の免許状を取得可能

教員採用試験に合格

大学4年次の7月頃

1次試験合格後8～9月頃

教員採用試験
1次試験

筆記試験が中心。集団面接が課せられる自治体もあります。

教員採用試験
2次試験

面接と論作文、実技が中心。教員としての適性が評価されます。

教員への道が開かれます

複数免許を在学中に取得できるプログラムです。文学部・芸術学部・農学部・工学部では、中学校・高等学校の免許状に加えて小学校教諭二種免許状も取得可能。教育学部教育学科初等教育専攻は、小学校の免許状に加え、中学校教諭二種免許状(国語・数学・理科・音楽・美術・技術・英語)、高等学校教諭一種免許状(情報)を取得することができます。

夏季休暇・春季休暇で開講している科目の履修が必要になる可能性もあります。

本物の学びが導く 「教育のプロフェッショナル」

教育のプロフェッショナルになる夢に向かって行動しても、単に「教え方を知る」だけでは到達できません。子どもたちに学びの面白さ、楽しさを伝えるためには、「自分自身が学問を深く理解し、楽しむ」ことが重要です。各学部では、「国語」「数学」「理科」などの各教科を深く体感するカリキュラムが用意されています。学科専門科目と教職科目を両立することで、子どもたちに学びの魅力を伝えられる先生をめざしましょう。

「教員養成」を行う専門学部・学科と各専門領域

文学部	英語教育学科 英語教員養成コース	英語	国語
	国語教育学科 国語教員養成コース		
芸術学部	音楽学科 音楽教育コース	音楽	美術
	アート・デザイン学科 美術教育コース		
農学部	生産農学科 理科教員養成プログラム	理科	農業
工学部	数学教員養成プログラム*	数学	技術
		工業	情報

専門的な学びを深めて、
専門領域に強い
教育のプロフェッショナルへ

※ 所属する学科により、取得可能な免許状が異なります。

「先生」になるための綿密なプログラム

	1年次		2年次		3年次	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター
教育現場体験活動	早期に現場を経験し教養を身に付ける		実践的指導力の基礎を身に付ける		教育現場で学び教員採用試験に備える	
	小・中・高教員免許状 - 教員免許状取得希望者向けガイダンス - 参観実習（教育学部）	参観実習（教育学部以外）		教育実習校開拓ガイダンス	介護等体験事前指導	- 教育実習事前指導 - 介護等体験 ※小・中学校教員免許状取得希望者のみ 特別支援学校2日間／社会福祉施設5日間 - 教育実習事前ガイダンス
	幼稚園教員免許状 - 教員免許状取得希望者向けガイダンス - 参観実習（教育学部）		教育実習園開拓ガイダンス		教育実習事前指導	- 教育実習I事前ガイダンス - 教育実習I（2週間） - 中間指導
	保育士資格 - 教員免許状取得希望者向けガイダンス - 参観実習（教育学部）			保育士資格取得希望者ガイダンス	- 保育実習I（保育所）事前指導 - 保育実習I（保育所） - 保育実習I事後指導	- 保育実習I（施設）事前指導 - 保育実習I（施設）
教育インターンシップ・教育ボランティア（近隣の学校や保育所などで教育体験活動）						
教員・保育士採用試験プログラム	- 教職講座（学修スタートガイダンス 他） - 筆記対策講座	- 教職講座（最新動向ガイダンス 他） - 筆記対策講座 - 教員・保育士採用等学内説明会	- 教職講座（学修スタートガイダンス 他） - 論文文講座 - 筆記対策講座 - 教員採用等学内説明会	- 教職講座（過去問分析ガイダンス 他） - 論文文講座 - 筆記対策講座 - 教員・保育士採用等学内説明会	- 教職講座（スタートガイダンス 他） - 論文文講座 - 筆記対策講座 - 教員採用等学内説明会 - 私立学校就職ガイダンス	- 教職講座（県別学修ガイダンス 他） - 論文文講座 - 面接対策講座 - 筆記対策講座 - 教員・保育士採用等学内説明会
	模試	模試	模試	模試	模試	模試
自主学修会（教職サポートルームを利用した個人・集団学修）						
個別相談随時						

理想の教師になる夢をかなえるため 「教師教育リサーチセンター」が支えます

玉川大学では、一人ひとりが抱く夢の教師像を実現するため、教師教育リサーチセンターを中心とするフォロー体制を充実させています。小・中・高等学校の元校長や幼稚園・保育所長など、経験豊富なスタッフが指導を行い、採用する側の視点で面接や論文、模擬授業対策などを実施。4年間をとおして、マンツーマンでじっくりとあなたに向き合います。また、各自治体の調査・分析に基づいた対策、教員や保育士の試験対策やボランティア情報なども発信。学外実習や介護等体験などの手続き、免許状・資格の申請、教員・保育士採用試験の対策、求人案内、ボランティアの紹介など、どんな相談でも教師教育リサーチセンターまで。



教師教育リサーチセンターの詳細はこちらから

ホームページ

玉川大学教職課程の取り組みについてさまざまな情報を掲載しています。



公式 SNS (Instagram)

教師教育リサーチセンターの紹介、本学の教職課程の取り組み等について随時、情報を発信しています。



TMGW_KYOSHOKU

4年次 ・ 卒業	
7 Semester	8 Semester
採用に向けての準備をする	
- 教育実習 (3~4週間) - 教育実習事後指導 - サブ免・ダブル免 教育実習事前ガイダンス	- サブ免教育実習 (3~4週間) - 教育実習事後指導
- 教育実習Ⅱ事前ガイダンス - 教育実習Ⅱ (2週間) - 教育実習事後指導	
- 保育実習Ⅰ (施設) 事後指導 - 保育実習ⅡⅢ事前指導 - 保育実習ⅡⅢ (保育所または施設)	保育実習ⅡⅢ事後指導
- 公立学校1次試験対策講座 - 公立学校2次試験対策講座 - 公立集中対策講座 - 教員採用等学内説明会 - 私立学校就職ガイダンス - 私立幼保就職ガイダンス	- 臨時的任用教職員ガイダンス - 正規名簿登載者ガイダンス - 教職課程講座 (教師・保育者就職者ガイダンス)
模試	

不安を解消する細やかなサポート

教員・保育士採用試験対策模擬試験

自分の実力を試したい。採用試験の雰囲気慣れたい。早いうちから試験環境に対応するため、年に数回学内で模擬試験を実施しています。試験後には「模試結果解説・学修スタートガイダンス」も開催されるので、必要な課題がクリアに見えてきます。

教員・保育士採用等学内説明会

教育委員会の担当者を招いた説明会を開きます。各地域ごとの特徴、求められる教師像、採用試験、教員養成のために教員志望者を対象とした研修会を行う教師塾など、各自治体のリアルが見えてきます。自分はどこで教師になるのか？ そのために必要な対策は？ 複数地域から比較検討ができる貴重な機会です。

自主学修室

教員・保育士をめざす仲間同士で、切磋琢磨する自主学修室を開設しています。受験地や教科ごとにチームを組み、受験準備をととしての成果発表、取り組みの相談、情報交換を行います。

教職講座

1年次より、採用試験の概要をはじめ、教員・保育士採用試験の傾向と対策、論文の個別指導や面接、模擬授業指導といった2次試験対策まで、教職サポートルーム客員教員などが行い、教員・保育士就職のアシストを行っています。

【その他のサポート】

教職サポートルーム客員教授による個別相談、幼稚園・保育士のためのピアノ対策講座など

2024年度 玉川大学 入試ガイド



総合型選抜に

「理工系女子入学審査」を新設。

玉川大学で、未来を担い、幅広い分野で活躍する
“リケジョ”をめざそう。対象学部：農学部、工学部の全学科

総合型選抜で

年内での合格を勝ち取ろう。

「総合型入学審査Ⅰ期・Ⅱ期」の併願が可能で「学校推薦型選抜」を含め
年内3回のチャレンジが可能。「首都圏教員養成総合型入学審査」等との
併願受験もできるため合格率が高まります。

一般選抜は試験日を自由に

選ぶことができ、合格のチャンスが拡大。

一般選抜は4つの入試を4日間※にわたって実施。試験日を自由に
選ぶことができ併願受験も可能なので合格の可能性が広がります。

※ 2月2～5日に「全学統一入試(前期)」 「英語外部試験スコア利用入試」 「給付型奨学金入試(前期)」 実施。
※ 2月2～3日に「地域創生教員養成入試」 実施。

教育学部	教育学科 初等教育専攻・社会科教育専攻 保健体育専攻 乳幼児発達学科
------	---

文学部	英語教育学科 国語教育学科
-----	------------------

芸術学部	音楽学科 演奏・創作コース ミュージカルコース 音楽教育コース アート・デザイン学科 メディア表現コース 美術教育コース 演劇・舞踊学科
------	---

経営学部	国際経営学科
------	--------

観光学部	観光学科
------	------

リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科
-----------	-----------

農学部	生産農学科 理科教員養成プログラム 環境農学科 先端食農学科
-----	---

工学部	デザインサイエンス学科 情報通信工学科 マネジメントサイエンス学科 ソフトウェアサイエンス学科 数学教員養成プログラム
-----	---

輝く自分、出会う瞬間。^{トキ}

—「人」を育てる—

玉川大学

首都圏教員養成総合型入学審査



東京・神奈川・千葉・埼玉の出願資格に定める学校を卒業見込みで、教員をめざす受験生を対象にした選抜制度です。

面接試験について

面接形式は個人面接で、面接官2～3名と受験生1名で行います。玉川大学への志望動機、進学目的、将来の希望、高等学校での生活内容等の事項について自分の考えをきちんとまとめておくことが大切です。服装に規定はありませんが、高校生らしい服装をお薦めします。学校指定の制服がある場合はほとんどの方が制服で受験しています。

ポイント

●取得可能な教員免許状・資格 [\[詳細はP13\]](#)

●「総合型入学審査Ⅰ期」「理工系女子総合型入学審査」「スポーツ選抜総合型入学審査」との併願受験が可能です（同一学科に限る）。それぞれで合否判定を行うので合格のチャンスが広がります。

実施対象

教育学部	全学科	芸術学部	音楽学科音楽教育コース、アート・デザイン学科美術教育コース
文学部	全学科	農学部	生産農学科理科教員養成プログラム
		工学部	数学教員養成プログラム

日程

出願期間（郵送受付のみ）	試験日	試験場	合格発表日	入学手続締切日
9月1日（金）～9月5日（火）（消印有効）	9月30日（土）	玉川大学	11月1日（水）	11月15日（水）（消印有効）

■入学試験要項・出願書類 本学Webサイト（入試Navi）からダウンロードしてください。

選考方法

書類審査（エッセイ、資格・検定取得記入書、志願者評価書（2枚）、調査書）および個別面接（事前申込制）、面接試験審査、面接試験までの流れについてはP11を参照してください。

出願資格

次の1～3のいずれかに該当する教員志望者で、本学を**第一志望（専願）**とし、**合格した場合に必ず入学することを確約できる者**。かつ首都圏教員養成総合型入学審査の趣旨を十分に理解したうえで以下のⅠ～Ⅲの全ての条件を満たす者。

1. 東京・神奈川・千葉・埼玉の高等学校または中等教育学校を2024年3月卒業見込みの者。
2. 東京・神奈川・千葉・埼玉において通常の課程による12年の学校教育を2024年3月修了見込みの者。
3. 東京・神奈川・千葉・埼玉の専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了しており、かつ2024年3月31日までに修了見込みの者。

Ⅰ. 人物に関する条件

- (1) 本学の教育方針ならびに学部・学科の内容を十分に理解し、「何を学ぶか」ははっきりした目的意識をもっていること。
- (2) 協調性に富み、かつ強い意志と責任感があること。

Ⅱ. 大学との相互理解に関する条件

- (1) 大学案内、Webサイト、オープンキャンパス、玉川大学説明会、ふらっと玉川、Web進学相談、合同相談会等で、玉川大学および志望する学部・学科との相性を確認していること。
- (2) **体験授業フェア（8/6・8/20どちらか）で志望学部・学科の「模擬授業」を受けていること（オンラインも可）。**
- (3) **（(1)に取り組んだうえで）個別面接を受けていること（出願期間より前に実施）。**

Ⅲ. 学業成績等に関する条件

次の基準を満たしていること。

教育学部	教育学科 乳幼児発達学科	全体の学習成績の状況 3.0 以上で、英検2級またはTOEIC®L&R 550点以上 ^(注1) の取得
文学部	英語教育学科	全体の学習成績の状況 3.0 以上で、英検2級またはTOEIC®L&R 550点以上 ^(注1) の取得
	国語教育学科	全体の学習成績の状況 3.0 以上で、次の資格・検定のうち、1つ以上を取得している。 ・語検3級以上 ・日本語運用能力テスト標準レベルN-C1以上 ・英検2級またはTOEIC®L&R 550点以上 ^(注1) *入学後の専門領域との関連上、高等学校において「古典」を履修していることが望ましい。
芸術学部	音楽学科 音楽教育コース アート・デザイン学科 美術教育コース	全体の学習成績の状況 3.0 以上で、英検2級またはTOEIC®L&R 550点以上 ^(注1) の取得 *音楽学科音楽教育コース志願者は入学後の専門領域との関連上、古典派のソナタ形式を演奏できるピアノ技術を有していることが望ましい。
農学部	生産農学科 理科教員養成プログラム	下記1・2ともに要件を充足すること。 1. 全体の学習成績の状況 3.0 以上で、次の資格・検定のうち、1つ以上を取得している。 ・英検2級またはTOEIC®L&R 550点以上 ^(注1) ・数学検定2級以上 2. 入学後の専門領域との関連上、高等学校において「生物基礎」「化学基礎」を履修していること。 *「生物」または「化学」を履修していることが望ましい。
工学部	数学教員養成プログラム	下記1・2ともに要件を充足すること。 1. 全体の学習成績の状況 3.0 以上で、実用数学技能検定準1級1次（計算）または2次（数理）以上を取得している。 2. 入学後の専門領域との関連上、高等学校において「数学Ⅲ」「数学B」を履修していること。

(注1) は以下の資格・検定に読み替えることができる。

英検2級、TOEIC®L&R 550点：「TOEIC Bridge®L&R 94点」「TOEFL iBT®テスト 42点」「GTEC」CBTタイプ、検定版 930点※オフィシャルスコアに限る

*英検：実用英語技能検定 語検：日本語検定 数学検定：実用数学技能検定

※有効期限のある検定（TOEFL iBT®テスト、GTEC）については出願の時点で有効期限内であること。「TOEIC®」「GTEC」はオフィシャルスコアに限る。

入学検定料

35,000円

地域創生教員養成入学試験



東京・神奈川・千葉・埼玉（1都3県）以外の出願資格に定める学校を卒業（見込み含む）で、教員をめざす受験生のための選抜制度です。本選抜制度で入学し、教員免許状を取得したのちに地元*で教員に採用または名簿登載された学生に卒業時に地域創生奨励賞として奨励金30万円を授与します。

※取得可能な教員免許状・資格 [詳細はP13]

- ① 実施方法 1 学科のみ出願可能です。「**全学統一入学試験（前期日程）**」「**英語外部試験スコア利用入学試験（前期日程）**」「**給付型奨学金入学試験（前期日程）**」と同日・同一問題で学力試験を行います。1 学科のみ出願可能です。
- ② 試験場 玉川大学試験場のほか、15会場で学外試験を実施します（2月2日（金）・3日（土）のみ）。

ポイント

- 「全学統一入学試験（前期日程）」「英語外部試験スコア利用入学試験（前期日程）」「給付型奨学金入学試験（前期日程）」を併願受験すると、各選抜制度・学科ごとで合否判定が行われるため合格のチャンスが広がります（入学検定料割引あり）。
- 「英語外部試験スコア利用入学試験」を併願受験し、「外国語」の試験を受験「しない」と選択した場合でも本選抜制度では「外国語」の受験が必要です。

*地元とは出身高等学校所在地とする。通信制高校についてはこの限りではない。

実施対象

教育学部	全学科	芸術学部	音楽学科音楽教育コース、アート・デザイン学科美術教育コース
文学部	全学科	農学部	生産農学科理科教員養成プログラム
		工学部	数学教員養成プログラム

日程

出願期間（インターネット出願）	試験日	試験場	合格発表日	入学手続締切日
1月4日（木）～1月23日（火）（消印有効）	2月2日（金） 2月3日（土）	玉川大学および 学外試験場	2月16日（金）	2月28日（水）（消印有効）

※インターネット出願の最終日の登録時間は16時までとなります。

■学外試験場 札幌・仙台・水戸・高崎・大宮・千葉・池袋・立川・横浜・新潟・長野・静岡・名古屋・大阪・福岡の15会場

※試験会場は都合により変更する場合があります。

■入学試験要項 本学Webサイト（入試Navi）からダウンロードしてください。

出願資格

次のいずれかに該当する教員志望者

1. 東京・神奈川・千葉・埼玉以外の高等学校または中等教育学校（外国の学校・在外教育施設を除く）を卒業した者、および2024年3月卒業見込みの者。
2. 東京・神奈川・千葉・埼玉以外において通常の課程による12年の学校教育を修了した者、および2024年3月修了見込みの者。
3. 東京・神奈川・千葉・埼玉以外の専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者、および2024年3月31日までに修了見込みの者。

上記条件のほか、教育学部教育学科保健体育専攻志願者は、学校の部活動で2年以上運動部に所属した者。

試験科目

学部	学科	試験科目	合計点数
教育学部	教育学科 初等教育・社会科教育専攻 教育学科 保健体育専攻 乳幼児発達学科	「外国語」…………… 必須 「国語 or 数学」より …… 1科目選択	教育学科 初等教育・社会科教育専攻 200点満点 教育学科 保健体育専攻*1 300点満点 乳幼児発達学科 200点満点
文学部	英語教育学科 国語教育学科	「国語」・「外国語」…………… 必須	英語教育学科*2 250点満点 国語教育学科 200点満点
芸術学部	音楽学科 音楽教育コース アート・デザイン学科 美術教育コース	「国語」・「外国語」…………… 必須	200点満点
農学部	生産農学科 理科教員養成プログラム	「理科（化学 or 生物）」・「外国語」 …… 必須	200点満点
工学部	数学教員養成プログラム	「数学」・「外国語」…………… 必須	300点満点*3

試験科目範囲

国語：「国語総合（古文・漢文を除く）・現代文B」
 外国語：「コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ」
 数学（教育学部）：「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B（「数列」「ベクトル」）」
 （工学部）：「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B（「数列」「ベクトル」）」
 理科：「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」

配点／試験時間 いずれも100点／60分

- *1 教育学部教育学科保健体育専攻は、「外国語」「国語 or 数学」を各150点に換算
 *2 文学部英語教育学科の「外国語」は150点に換算
 *3 工学部数学教員養成プログラムの「数学」は200点に換算

入学検定料

35,000円（1学科のみの受験）

「全学統一入学試験」「英語外部試験スコア利用入学試験」「給付型奨学金入学試験」との併願受験、複数日程の併願受験は入学検定料を割引します。[詳細はP26]
 また、資格・検定取得者は上記の割引に加えてさらに入学検定料を割引します。[詳細はP27]

[大学入試](#)[入試トピックス](#)

【12月10日開催】高校1・2年生対象「はじめてガイダンス」を開催します

【12月10日開催】高校1・2年生対象「はじめてガイダンス」を開催します

2023.12.10

高校1,2年生を対象とした「はじめてガイダンス」を開催します。

「玉川大学ってどんな大学?」「どんな入試があるんだろう?」などの疑問を、専門スタッフがわかりやすく説明します。

大学選びのはじめの一歩として、ぜひご活用ください!

当日は、大学紹介や入試制度をはじめ、キャンパスツアーや在学生とお話できるイベントもあります!

保護者の方々のご参加也大歓迎です。みなさまのご参加をお待ちしております。

開催日

2023年12月10日(日) 10:00~14:00

場所

大学教育棟2014

(小田急線「玉川学園前」駅より徒歩5分)

プログラム

各ガイダンスの開催時間は、以下のとおりです。★が実施する時間帯となります。

▶当日のプログラムはこちら [📄](#)

	プログラム内容	1時間目 (10:00~10:40)	2時間目 (11:00~11:40)	3時間目 (12:00~12:40)
玉川大学ってどんな大学？	玉川大学の教育理念やカリキュラム、サポート体制、学部紹介などをわかりやすく解説。	★	★	★
“今から”始める、玉川大学の入試準備	玉川大学の入試制度って？何から準備すればいいの？などスタッフが丁寧に説明します。		★	
保護者のための進学ガイダンス	受験生を持つ保護者の皆様に、知ってほしい大学入試の今、新学習指導要領のことなどをお伝えします。		★	
先生になるためガイダンス	「教員養成の玉川大学」としてのサポート体制、先生になるための流れなどを説明します。先生を目指している在学生トークもあります。			★
おしゃべり広場	学部のことやキャンパスでの過ごし方、大学生活について、在学生と話してみよう！	終日開催 ※在学生とのフリートークで学生生活について聞いてみる。		
進学相談 【事前予約制】	玉川大学で学べる内容や、入試に関する質問等に専門スタッフがお答えします。	★ 【満席】	★ 【満席】	★ 【満席】
キャンパスツアー	在校生が秋色に彩られた玉川大学自慢のキャンパスをご案内します。		★	★
資料配布コーナー	「大学案内」や「入試ガイド」などの資料はこちらから。	終日開催		

お申込み

11月27日（月）16:00～ 申込受付開始

当日は実施するプログラムを自由に参加できます。

ただし、本イベントへの参加および進学相談を希望する方は申込が必要となります。

※ 進学相談は定員になり次第締切

※ ご来場者ごとに申し込みが必要です。

（例）受験生1名、保護者2名で一緒に来場される場合も、それぞれ3名分のお申し込みが必要です。

来場者の方へ参加にあたってのお願い

受験生、保護者それぞれにお申し込みが必要です。

入校口および来場ルートを定めています。当日は正門から入校ください。

すべてのプログラムにおいて、録音・録画はお断りさせていただいております。

一覧へ戻る

クイック
メニュー



イベント
情報



入試情報



学部・学科



就職・資格

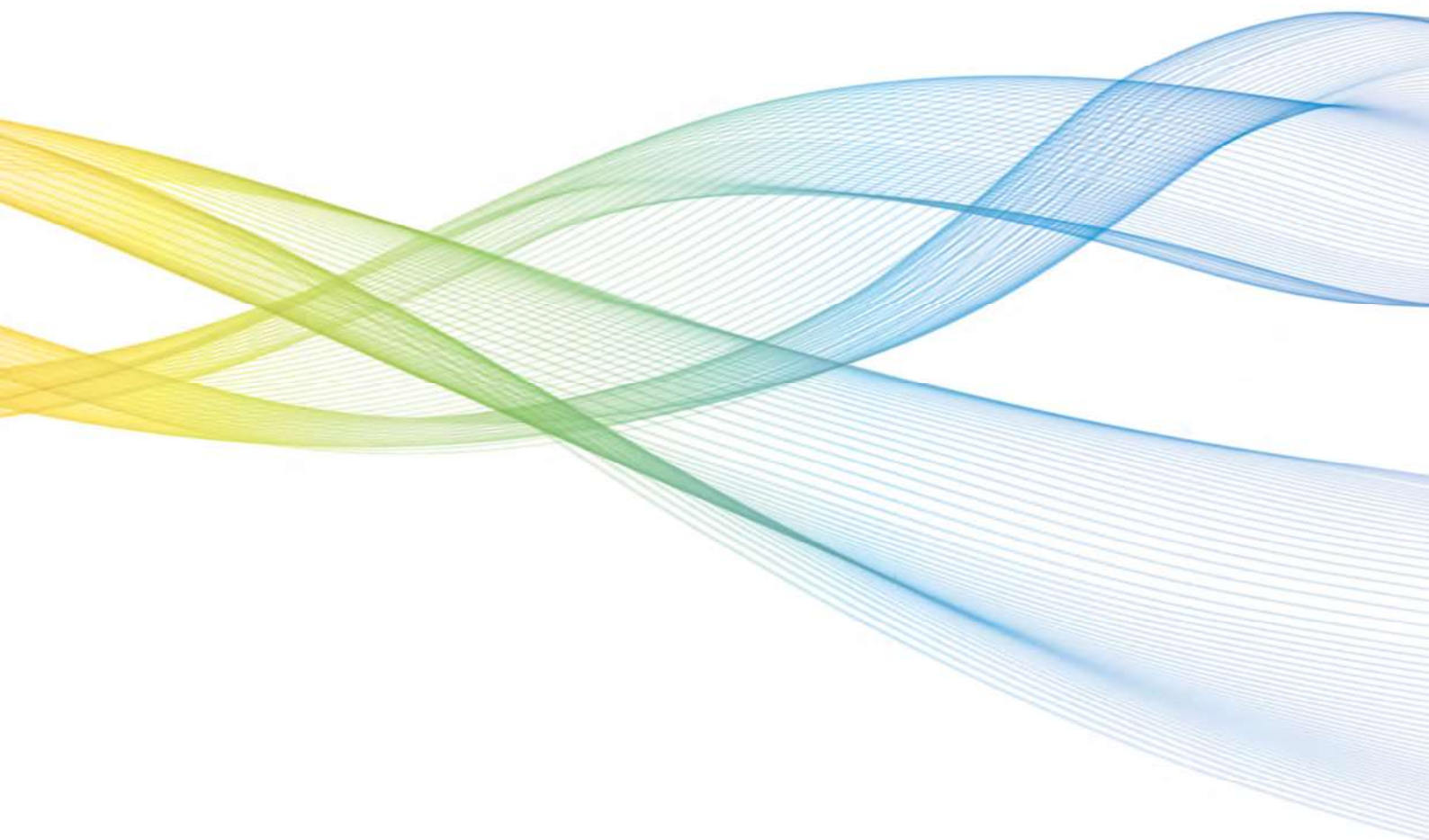


キャンパス
ライフ

令和5(2023)年度

就職状況のまとめ

玉川大学 キャリア・就職指導委員会



教員採用試験の現状

公立学校 —人物重視（質の高い教員の確保のため採用が多様化）—

令和6年度（令和5年夏実施）の「公立学校教員採用選考試験実施状況」では、受験者総数は10万9954名で、前年度と比較し11,178名（10.2%）の減少。最多人数だった平成24年度の18万902名と比べ7万948名（39.2%）の減少という結果となりました。

また最終合格者数は3万8157名で、前年度と比較し2,176名（5.7%）の増加。競争率（倍率）は2.9倍で、8年連続減少です。学校種別で見ると、小学校で0.3ポイント減の2.0倍、中学校で0.9ポイント減の3.2倍、高等学校は0.1ポイント増の5.0倍です。小学校では千葉県・市（1.4倍）を含む28の自治体が1倍台となりました。全体として「受験者減」の傾向が続いています（首都圏は東京都1.3倍、神奈川県2.0倍、川崎市1.8倍、相模原市2.3倍、埼玉県1.9倍、さいたま市2.2倍）。

上記の数字だけを見れば、公立学校の教員採用傾向は、新任教員の大量採用とそれに伴う競争率の低下で、教員就職の需要は高く、特に小学校における採用試験の倍率は平均値として全国平均2倍とさほど高くないため、教員志望者にとってはますます追い風が吹いているように見えますが、現実には合格者の約6割は臨時任用教員など既卒者です。新卒者は低倍率を鵜呑みにはできません。現場は即戦力を求めており、少なからず現場経験を積んだ者が有利になる傾向にあります。

中学校・高等学校はさらに難関となります。まず募集自体が少ないこと、さらに科目の専門性を高く保つことを要するため、国立の教員養成系大学も含めライバルが多い状況にあります。

公立学校教員採用選考試験の内容としては、採用権者は教員としての資質・能力を見極めるため、さまざまな採用方法で実施しています。

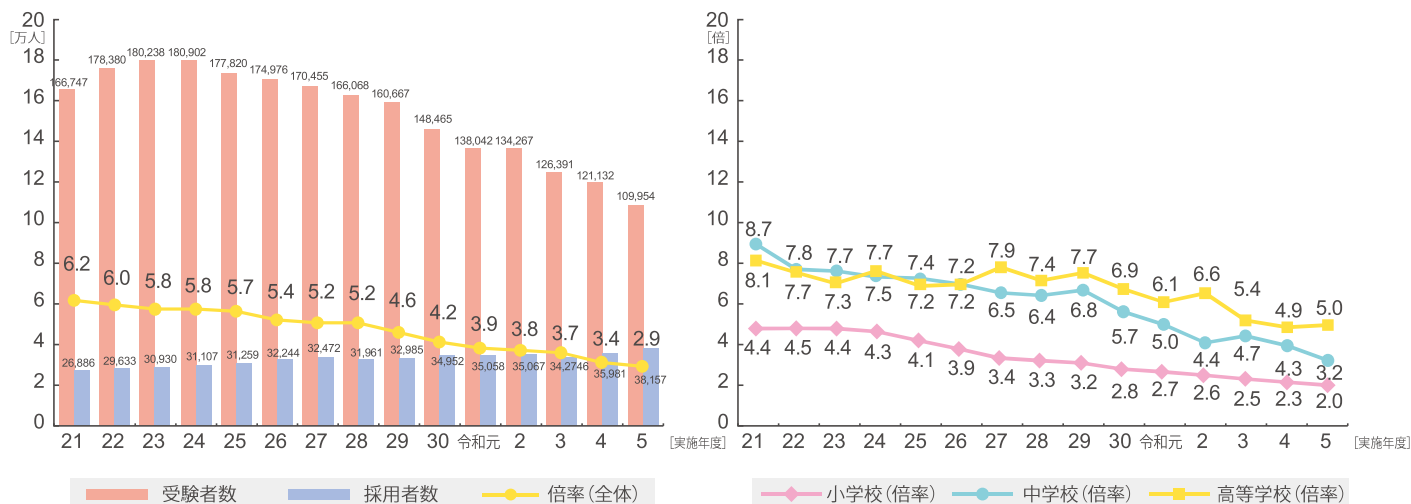
1つは2次試験の強化であり、個人面接、集団面接、模擬授業、場面指導、集団討議を課す自治体が多くあります。これまでも人物重視と言われていましたが、特別選考や特例試験などの試験形態の多様化をはじめ、すべての自治体で人物を重視する選考となっています。2つめが、特別選考の拡大です。社会人経験者、非常勤・代用教員などの教職経験者、教職大学院修了者を含む大学推薦者、教師塾修了者への1次試験免除が実施されています。

一方、地方では人口の減少と財政難から採用数が伸びない自治体も多く、中には新卒者の採用がほとんど見込まれない地域もあり、地方から都市部を受験する傾向にあります。都市部では優秀な教員確保のために、地方試験や一定期間の勤務により地元に戻って教員を続けられる制度を導入したところも出てきました。公立幼稚園については数も少なく、都市部に集中していることに加え、教員の労働流動率が低く、多くが欠員補充での採用であり、地域によっては募集のない年度もあり、きわめて狭き門となっています。

また、民間企業や他の職種の公務員の採用活動の状況から文部科学省より自治体へ採用選考時期の更なる前倒しが求められています。令和7年度に実施される採用試験も多くの自治体が前倒しに応じることが予想されます。

公立学校における採用者数の推移

令和5年夏に「公立学校教員採用選考試験」を実施したのは、47都道府県、20政令指定都市（そのうち、千葉市は千葉県、広島市は広島県と、それぞれ共同で実施）ならびに大阪府豊能地区の計66都道府県・指定都市です。受験者数、採用者数、選考倍率の推移、ならびに校種別最終選考倍率の推移は下のグラフのとおり。



私立学校 ― 募集のピークは 10 月過ぎー

私立学校の教員採用傾向は、公立ほど顕著な傾向は見られませんが、公立学校の採用がまだまだ多いため、人員確保に苦戦する学校が増えています。縁故を利用した採用には限界があり、私立学校が集中する都市部では、Web 等を使って公募する学校や合同説明会に参加する学校など、求人がオープンになってきています。そのため、情報をいかに早く入手できるかが重要な決め手となります。ただし、1 名の求人に対して 100 名以上の応募があるような人気校がある一方、一度に複数の教員が退職したり、大規模校でないにもかかわらず毎年のように求人を出す学校もあり、働く環境として注意が必要な学校も少なからず見受けられます。その学校の「建学の精神」と自身の教育観のマッチングは当然のことながら、労働環境にも注視したいところです。また私学の場合は、基本的には非常勤や期限付き採用であり、新卒者が専任で採用されるケースは稀です。初年から数年間の任用期間を経て、正規採用される仕組みが一般的です。

幼稚園については、全園児の 8 割が通園している私立が主流となっていますが、小規模法人が多いため、ほとんどが欠員補充です。ただし、幼稚園の場合、労働流動率が比較的高く、特に都市部では毎年、数百名の新規採用があります。

私立の幼稚園、小・中・高等学校の場合、教員の欠員を把握してからの採用募集となるため、毎年度 10 月過ぎが募集のピークとなっています。

就職活動モデル（教員・保育士関係）

当然のことながら、教員採用試験に何の対策も講じずに合格することは至難の業です。試験へ向けて効率的な学習プランを立て、入念な準備をしなければなりません。それとともに、受験しようとする自治体の過去問を入手し出題傾向をつかむことはもちろん、競争率を確認し、志望する自治体の研究（求める教師像など）を十分にしておき、受験先を決定する必要があります。

また、現状の学習状況を把握するためにも、教師教育リサーチセンターで開催する教員・保育士採用模擬試験を毎回受験し活用することを推奨しています。

なお、模擬試験については、平成 25(2013)年度入学生より各学年で徴収している教職課程受講料の一部を受験料に充てています。

3年												
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
学習スタートガイダンス 論文・応用講座	面接対策講座(個人) 公開模擬試験	論文文・応用講座	私立幼・保就職ガイダンス	学外教職講座(△有料▽)	模範論文・実践講座 模範試験	私立学校就職ガイダンス(小中高) 論文文・実践講座	県別学習相談会 論文文・実践講座	(秋季)教育委員会による学内説明会 論文文・実践講座	面接対策講座(集団)	論文文・実践講座	受験地希望調査	教員・保育士対策講座 出願開始
4年												
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
出願開始 (春期)教育委員会による学内説明会・模擬試験	第一次選考開始(教員) 直前指導(教員・保育士)	私立幼保就職ガイダンス 教員・保育士対策講座	臨時的任用ガイダンス 第一次合否・二次対策 7月	第二次選考	教職講座 第二次合否・名簿登載	教職講座 候補者向け説明会(各教育委員会)	合格者ガイダンス	採用前研修(各自治体等)	教職講座	各学校紹介	赴任先決定(教員・保育士)・採用 教育委員会・学校長等と最終面談	勤務開始
実 習												

*対策講座・教育委員会による学内説明会等への参加は、1 年次より可能。

*詳細は、UNITAMA 掲示等にて随時確認。

私立学校・幼稚園・保育所・福祉施設からの求人状況

私立学校・幼稚園教員の近年の募集傾向

私立学校は公立に比べ学校数も少なく、また教員の労働流動率も低く、多くの場合欠員補充であることから求人数も極めて少ない現状にあります。また近年では、大学充てに求人票を提出せず、一般公募にて募集する学校が目立ちます（各学校ホームページのトップページや新聞に求人情報を掲載など）。

大学で受理する求人数の減少は、このような公募による募集方法の増加が要因の1つとも考えられます。そのため教師教育リサーチセンターでは、各協会による私学適性検査・求人斡旋（履歴書委託制度）等の活用や各協会・学校と連携を図っている、有効な求人サイトを紹介しています。

引き続き、比較的に学校数の多い中・高等学校を中心に、労働条件に注意を向けながら積極的に求人開拓を行っていきたいと考えています。

私立幼稚園教員の場合は、希望者を越える求人がありますが、各幼稚園とも1～2名といった採用枠に対して応募者が多く、採用試験では教員としての資質・実力を図る試験が行われています。

保育士の場合は、昨今の経済情勢の影響等から、需要が高くなっています。また、私立の社会福祉法人だけでなく、他の業種・事業所内保育等のように児童福祉施設に限らず、求人募集があります。

また、地方出身者が郷里で教員・保育士に就職できるように、学生と各担当教員、教師教育リサーチセンター教員就職担当が密に連絡をとったうえで支援をしているため、採用に効果を上げています。

各学科担当教員・教職サポートルーム教員・教師教育リサーチセンターの連携による「教員・保育士採用試験対策講座」や「ガイダンス」等の効果により、学生の実力や意識は全学的に高められています。

平成23年度より、学年（大学1年次から）に応じた教員・保育士就職支援体制を構築し、4年間を通じた有効なプログラムを実施しています。年々変化する教員採用方法の情報収集を積極的に行い、学校や教育行政での現場経験のある教職サポートルーム教員と連携を取りながら、校種や受験地に応じた内容の支援が継続的・効果的に行われています。

教員・保育士における合格状況

公立学校・幼稚園（合格状況）

区 分	本学からの受験者数			名簿登載者数	備 考	
幼稚園 名簿登載者	令和	5年度(2023)	4名	3名		
		4年度(2022)	11名	4名		
		3年度(2021)	14名	5名		
		2年度(2020)	20名	5名		
小学校 名簿登載者	令和	5年度(2023)	182名	154名	全科153名	英語1名
		4年度(2022)	202名	146名	全科146名	
		3年度(2021)	195名	112名	全科111名	英語1名
		2年度(2020)	208名	121名	全科120名	理科1名
中学・高等学校 名簿登載者	令和	5年度(2023)	193名	83名	国語11名 音楽11名	社会9名 美術2名 数学18名 保健体育5名 理科・農業6名 英語21名
		4年度(2022)	176名	66名	国語17名 音楽5名	社会4名 美術1名 数学6名 保健体育5名 理科17名 英語11名
		3年度(2021)	162名	44名	国語6名 美術3名	社会2名 保健体育1名 数学8名 英語11名 理科6名
		2年度(2020)	129名	48名	国語11名 美術2名	社会3名 保健体育1名 数学9名 英語12名 理科4名 音楽6名
※複数自治体合格者含む ※社会は地理歴史・公民含む						
大学3年生早期受験 名簿登載者	令和	5年度(2023)	9名	8名	小学校全科7名 中学校・高等学校(理科1名)	

※早期受験数は大学推薦によるもの ※対象自治体：神奈川県・横浜市・川崎市

私立学校・幼稚園（就職状況）

区 分	就職状況（推移）		備 考	
幼稚園	令和	5年度(2023)	40名	
		4年度(2022)	34名	
		3年度(2021)	31名	
		2年度(2020)	24名	
小学校*	令和	5年度(2023)	10名	
		4年度(2022)	6名	
		3年度(2021)	8名	
		2年度(2020)	3名	
中学校・高等学校*	令和	5年度(2023)	27名	国語4名 社会5名 数学4名 理科2名 音楽1名 美術1名 保健体育5名 英語5名
		4年度(2022)	19名	国語6名 社会1名 数学2名 理科4名 保健体育1名 英語5名
		3年度(2021)	18名	国語6名 社会1名 数学4名 理科1名 保健体育1名 英語5名
		2年度(2020)	19名	国語2名 数学9名 理科1名 音楽1名 保健体育2名 英語4名

※社会は地理歴史・公民含む

保育所・福祉施設等（合格状況）

公立保育所合格状況（4ヵ年推移）

区 分	名簿登載者数（最終試験）		
公立保育所 名簿登載者	令和	5(2023)年度	10名
		4(2022)年度	8名
		3(2021)年度	13名
		2(2020)年度	12名

[人数：延べ数]

※公立保育士1次試験～最終試験（4次等）までに、他の自治体に就職先が決定した場合は、その時点にて辞退を行う。

公立保育所合格状況（令和5(2023)年度）

区 分	人数
東京都 世田谷区	3名
東京都 武蔵野市	1名
神奈川県 横浜市	2名
神奈川県 藤沢市	1名
神奈川県 大和市	1名
神奈川県 相模原市	1名
茨城県 阿見町	1名
合 計	10名

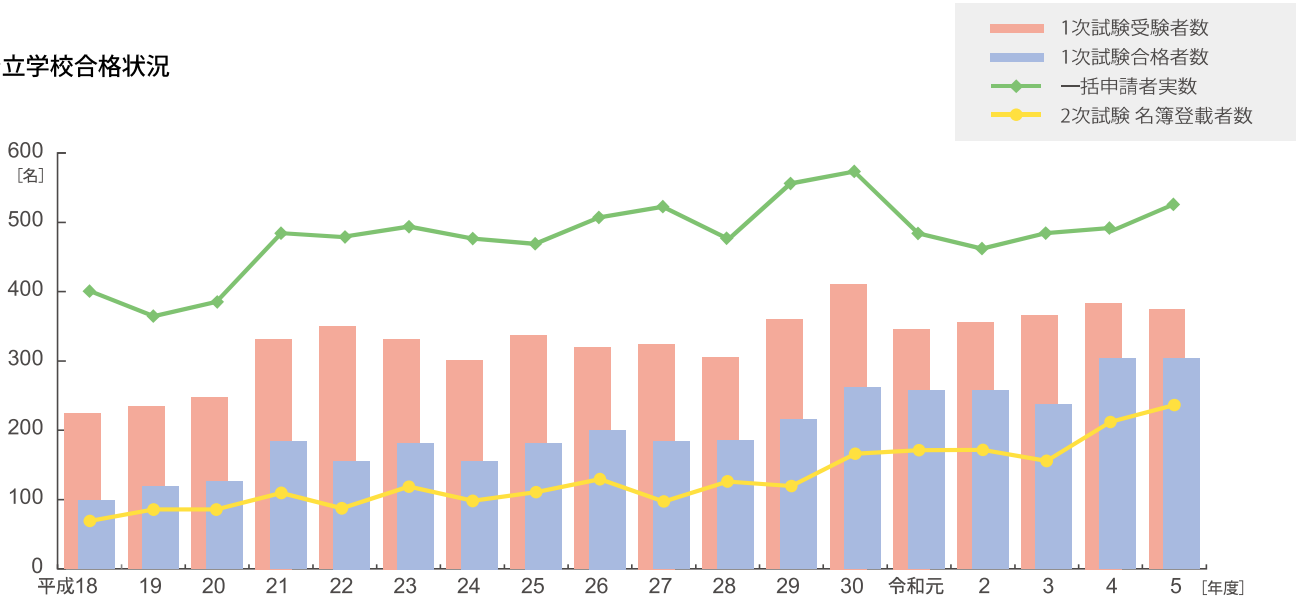
※名簿登載者数を記載。

私立保育所・福祉施設等就職状況（4ヵ年推移）

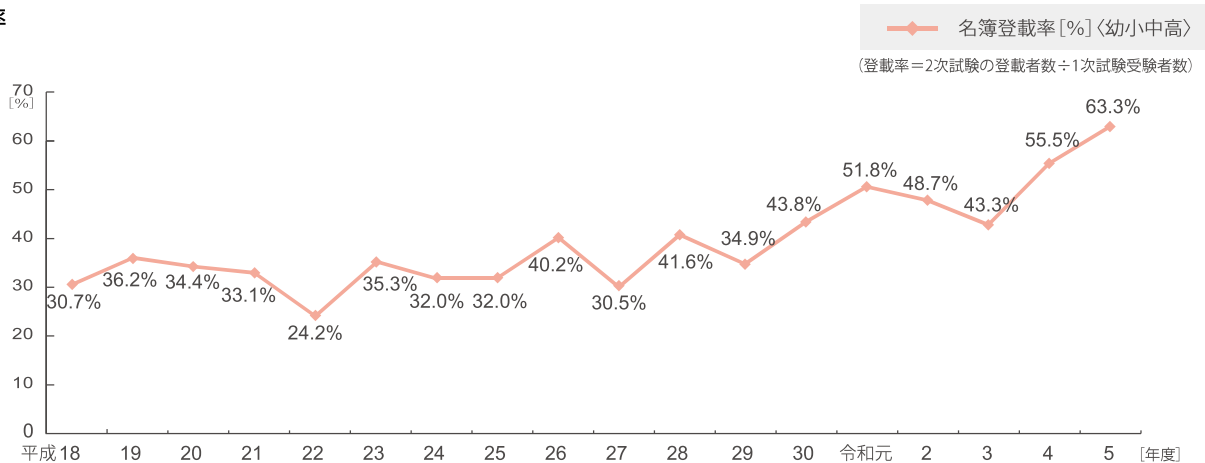
区 分	就職者数		
私立保育所 ・福祉施設等	令和	5(2023)年度	38名
		4(2022)年度	38名
		3(2021)年度	34名
		2(2020)年度	41名

[人数：実数]

公立学校合格状況



名簿登載率



■ 公立、私立学校・幼稚園教員合格状況（内訳） *大学・大学専攻科・大学院計

	一括 申請者 実数	公立・ 私立計	公立				私立*						
			大学・大学専攻科・大学院			名簿 登載者数	大学・大学専攻科・大学院						計
			幼	小	中高		幼	小**	中・高**	大学 ・短大	専修学校	その他***	
令和5年度	534	322	3	154	83	240	40	10	27	3	0	2	82
令和4年度	497	278	4	146	66	216	34	6	19	1	0	2	62
令和3年度	488	220	5	112	44	161	31	8	18	1	0	1	59
令和2年度	463	221	5	121	48	174	24	3	19	0	0	1	47

注 1：私立は就職状況。

注 2：公立校種区分*には、「特別支援学校」就職者を含む。

注 3：日本語学校、インターナショナルスクール、療育センター等。

注 4：公立・私立保育士については、別途 42 ページに記載。

合格率向上を目指し 1 年次から教員養成支援

本学では、教職課程の受講を強く希望して入学してくる学生が多くおります。教職に就こうという大学入学時のモチベーションを持続させるためには、1 年次からの教職課程支援が必要不可欠と考え、大学 4 年間を通じた教職課程受講支援プログラムを構築・実践しております。令和 5（2023）年度 1 年次生を対象に実施した講座等を下記に示します。

令和5(2023)年度に実施した1年次生教職課程受講支援プログラム

実施日	講座名
令和5年4月20日～5月1日	教職講座1「教員・保育士を目指す学生たちへ ー教員・保育士に求められる資質・能力ー」
令和5年6月1日	教職講座2「トライアル模擬試験」(時事通信出版局) 「学修スタートガイダンス」
令和5年7月6日	教職講座3「夏休みの課題 ー教職関連トピックを書くー」 「進路について考えよう」
①令和5年5月11日 ②令和5年7月13日・9月28日	「参観実習事前指導」 ①教育学部・文学部英語教育学科 1回 ②文学部国語教育学科・農学部・工学部・芸術学部 2回
令和5年10月5日	教職講座4(幼・保)「幼稚園・保育所の違い」 教職講座4(小中高)「最新動向ガイダンス」
①令和5年6月15日 ②令和5年10月13日	「参観実習」 ①教育学部・文学部英語教育学科 ②文学部国語教育学科・農学部・工学部・芸術学部
令和5年11月2日	教職講座5(幼・保)「幼稚園・保育所の動向」 教職講座5(小中高)「私立学校と公立学校の違い ー私立学校就職ガイダンスー」
令和5年11月16日	教職講座6(幼・保)「学修ガイダンス」 教職講座6(小中高)「専門教養ガイダンス」
令和6年1月11日	教職講座7(幼・保)「認定こども園」 教職講座7(小中高)「受験する自治体を考えよう」

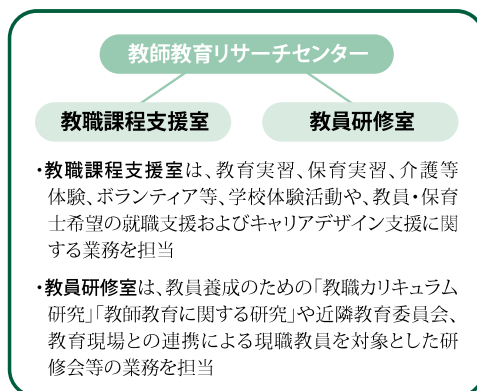
教師教育リサーチセンターの役割

サポート体制と情報収集・提供

平成 18 (2006) 年 4 月、教職に関する専門的・総合的な調査・研究・支援を行う部門として、大学附置機関の教職センターが設置されましたが、さらなる教員養成における研究・支援活動推進の場とするために、平成 24 (2012) 年 4 月より教師教育リサーチセンターへと改組されました。

「質の高い教員養成」をテーマに、教職課程の履修、介護等体験や教育実習、免許状の申請業務にとどまらず、学校現場・教育委員会と大学を結び連携をとりながら、学校現場に必要とされる知識や資質をもつ教員を養成すべく、教師になりたいという強い意志と情熱を持った学生の教員・保育士就職を支援いたします。

また、教師教育リサーチセンターには保育所長、幼稚園長、小・中学校・高等学校校長経験者 29 名からなる教職サポートルームを置いています。さらに、首都圏以外の自治体を含む教職講座・実習指導担当教員 20 名を加え、学校現場での経験を活かし、学生の指導や相談に応じています。

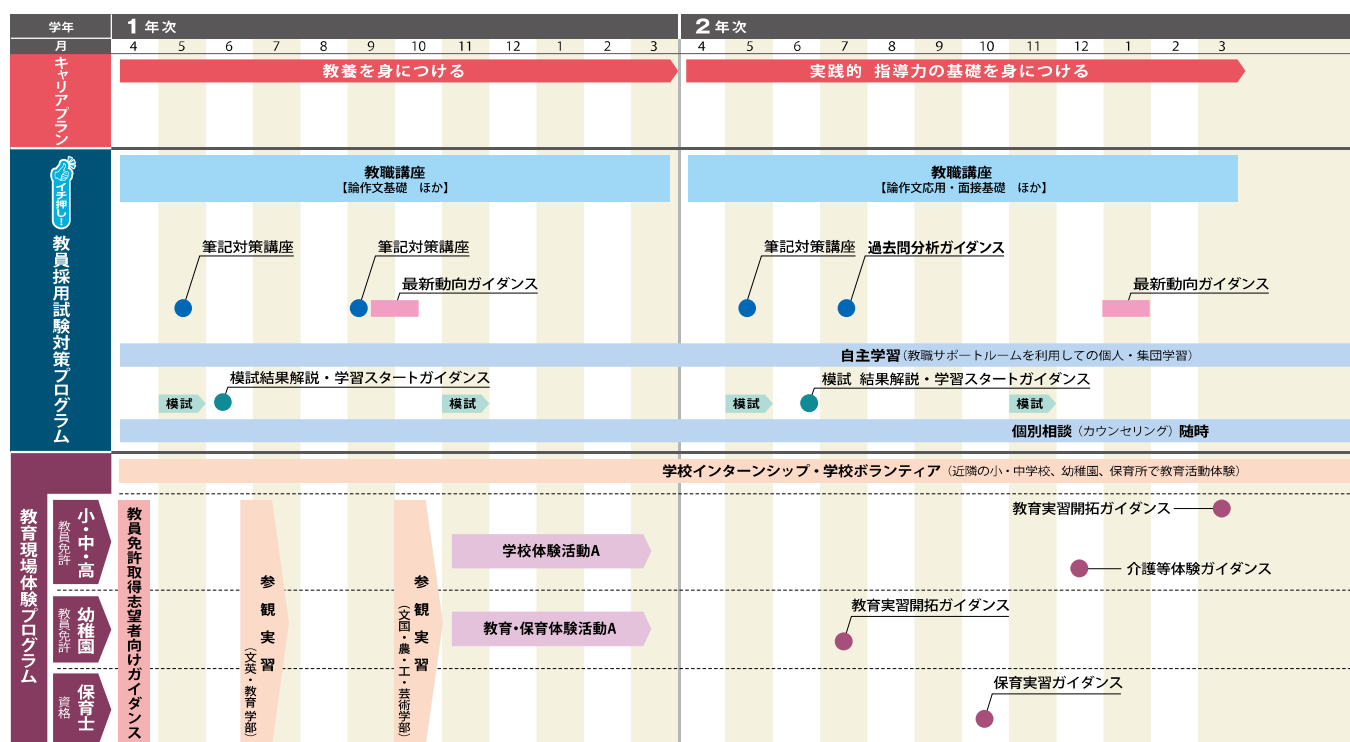


対策講座などの企画・運営等

- 1 公立学校・幼稚園教員採用試験や保育士採用試験の対策講座の実施（ピアノ・体育・デッサン等実技を含む）
- 2 模擬試験や教職講座などの実施
- 3 就職ガイダンス（各校種）の実施
- 4 教員・保育士として活躍する卒業生、4 年次生名簿登載者（公立学校・幼稚園教員・保育士採用試験合格者）による体験談等の実施
- 5 近隣教育委員会等による教員採用試験や教師塾などの学内説明会の開催
- 6 教職サポートルームの運用・管理

4 年間を通して一貫した教職課程受講支援プログラム（令和 6 年度）

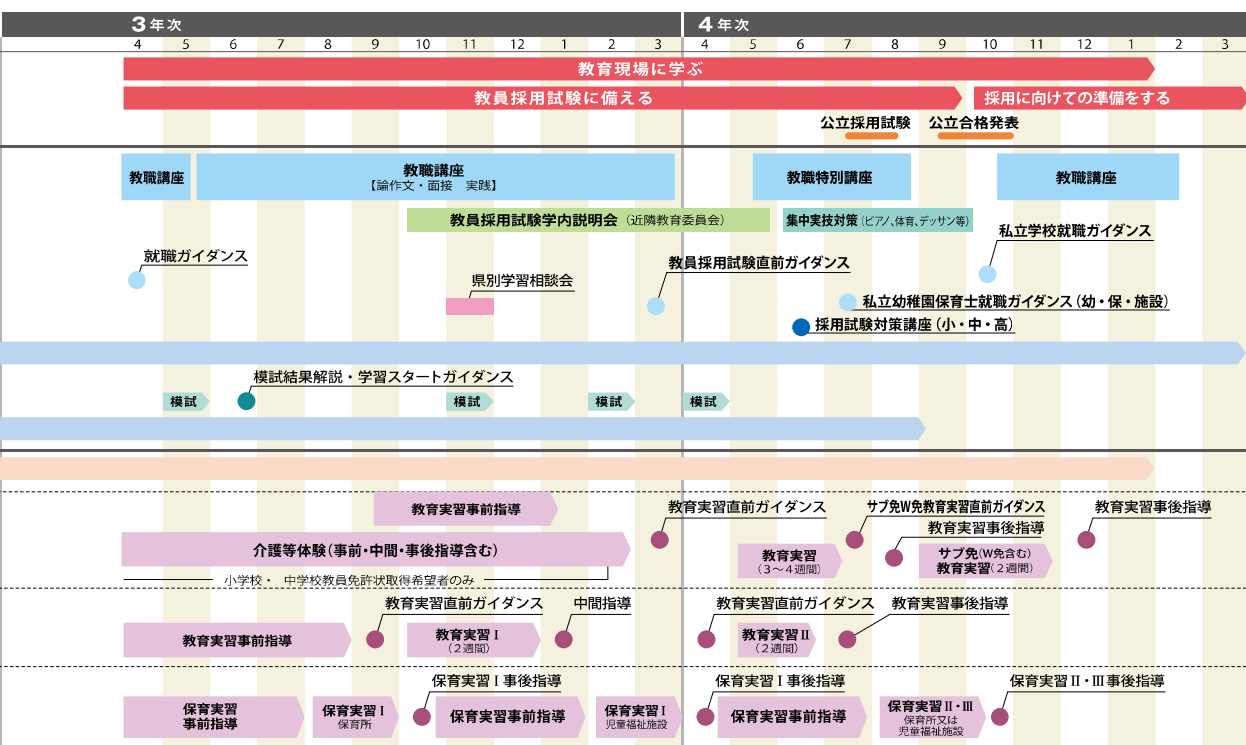
※芸術学部は、介護等体験を 2 年次、教育実習を 3 年次に実施



小・中学校・高等学校の校長経験者、幼稚園や保育所の園長経験者により、公立学校教員・保育士採用試験の筆記対策に加えて、面接、論作文、模擬授業などの対策について個別に相談・指導を行っています。試験対策のみならず、個別面接では授業の方法や学級運営など教職への悩みに対して、現場での経験に基づいた具体的で細かいアドバイスをしています。

平成 23（2011）年度より、学年ごとの段階に応じて「教員・保育士採用試験対策講座（春期集中・春学期・秋学期）」や「ガイダンス」等の取り組みを実施し、大学 1 年次生から 4 年間を通じたプログラムを推進しています。この支援プログラムの実施にあたっては、各学科担当教員・教職サポートルーム教員・教師教育リサーチセンターの連携による教員・保育士就職支援体制を構築しました。

教師教育リサーチセンターでは年々変化する教員採用試験の情報を積極的に収集し、学校や教育行政での豊富な現場経験をもつ教職サポートルーム教員と連携をとりながら、校種や受験地の特性をふまえた指導を継続的・効果的に行うことにより、学生の実力や意識を高めることを意図しています。



【教員・保育士】令和5(2023)年度 就職支援イベント一覧

教職講座				
講座・ガイダンス名	対 象	内 容	開催日時	実施方式
1年次生 教職講座1 「教員・保育士を目指す 学生たちへ」	大学1年生	教員・保育士を目指す学生を対象に、教員・保育士になるために必要な教員としての資質・能力、日本語力について講義を行った。	令和5年4月20日(木) ～5月1日(月)23:59	Bbにて動画配信 1年生:333名
1年次生 教職講座2 「学修スタートガイダンス」	大学1年生	教員採用試験受験に向けて、これからの4年間の学習計画について、説明。模擬試験を事前課題として行った。各自の弱点科目・分野を分析。各自が補強すべきプログラムについて、冊子を配布。各学年でどの科目を重点的に準備すべきを確認。	令和5年6月1日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:348名
1年次生 教職講座3 「進路について考えよう」	大学1年生	社会状況を踏まえ、教員・保育士を目指す学生に対して、教育改革をはじめとする社会の動きについて意識・理解を促した。	令和5年7月6日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:526名
1年次生 教職講座4(幼・保) 「幼稚園・保育所の違い」	大学1年生 幼稚園／保育士	志望する幼稚園教諭・保育士の違いを理解するうえで、幼稚園・保育所の違いを理解し、意識を促した。	令和5年10月5日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:78名
1年次生 教職講座5(幼・保) 「幼稚園・保育所の動向」	大学1年生 幼稚園／保育士	幼稚園教員・保育士就職を目指すうえで、採用の方法や動向について、学修し、就職活動について意識を促した。	令和5年11月2日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:64名
1年次生 教職講座6(幼・保) 「学修ガイダンス」	大学1年生 幼稚園／保育士	幼稚園と保育所の採用試験担当者と本学卒業生で現役の先生による学修ガイダンスを行った。先生のやりがいや学生時代の学修についてレクチャーを行った。	令和5年11月16日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:77名
1年次生 教職講座7(幼・保) 「認定こども園」	大学1年生 幼稚園／保育士	社会状況を踏まえ、教員・保育士を目指す学生に対して、教育改革をはじめとする社会の動きについてしっかりと意識・理解を促した。	令和6年1月11日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:67名
1年次生 教職講座4(小中高) 「最新動向ガイダンス」	大学1年生 小中高等学校	2023年夏の採用試験情報を踏まえ、頻出の「教育法規」や「教育時事」についての概要を把握し、今後の対策へつなげる。	令和5年10月5日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:387名
1年次生 教職講座5(小中高) 「私立学校と公立学校の違いー 私立学校就職ガイダンスー」	大学1年生 小中高等学校	私立学校と公立学校の設置や運営の違いを理解し、進路の選択肢を確認。希望する進路に進むための、自主的な学修などに活かせるよう情報提供を行った。	令和5年11月2日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:390名
1年次生 教職講座6(小中高) 「専門教養ガイダンス」	大学1年生 小中高等学校	専門教科に関する内容や、学修方法について、説明。採用試験までの学修計画案を提示。	令和5年11月16日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:389名
1年次生 教職講座7(小中高) 「受験する自治体を考えよう」	大学1年生 小中高等学校	社会状況を踏まえ、教員を目指す学生に対して、教育改革をはじめとする社会の動きについてしっかりと意識・理解を促した。	令和6年1月11日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:387名
2年次生 教職講座1(幼・保) 「スタートガイダンス／ 幼稚園・保育所の動向」	大学2年生 幼稚園／保育士	2年次の目的を確認し、今後の就職試験までのスケジュールを説明。志望する就職先の園種の動向を確認し、理解を深める。	令和5年4月13日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:60名
2年次生 教職講座2(幼・保) 「認定こども園」	大学2年生 幼稚園／保育士	社会状況を踏まえ、教員・保育士を目指す学生に対して、教育改革をはじめとする社会の動きについてしっかりと意識・理解を促した。	令和5年7月13日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:47名
2年次生 教職講座3(幼・保) 「私立園と公立園の違い」	大学2年生 幼稚園／保育士	私立園と公立園の違いを理解し、進路選択を行えるよう、情報提供を行った。	令和5年11月9日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:55名
2年次生 教職講座4(幼・保) 「学修ガイダンス」	大学2年生 幼稚園／保育士	幼稚園と保育所の採用試験担当者と本学卒業生で現役の先生による学修ガイダンスを行った。先生のやりがいや学生時代の学修についてレクチャーを行った。	令和5年11月16日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:80名
2年次生 教職講座5(幼・保) 「就職試験の動向ガイダンス」	大学2年生 幼稚園／保育士	2022年度の採用試験情報をもとに、採用状況の動きなどを説明。4年次の採用試験に向け、実践的な講座を提供するため、受験する自治体や園など具体的に、準備をするよう情報提供を行った。	令和6年1月18日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:50名
2年次生 教職講座1(小中高) 「スタートガイダンス／ICTを 活用した授業の重要性」	大学2年生 小中高等学校	児童・生徒にchromebook等のICTを活用した授業が実施されているため、教育現場で活用されているclassroomを使用した体験や活用事例について紹介を行った。	令和5年4月13日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:376名
2年次生 教職講座2(小中高) 「学修スタートガイダンス」	大学2年生 小中高等学校	教員採用試験受験に向けた、これからの学習計画について、説明。模擬試験を事前課題として行った。各自の弱点科目・分野を分析。各自が補強すべきプログラムについて、冊子を配布。	令和5年4月20日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 2年生:359名

2年次生 教職講座3(小中高) 「受験する自治体を考えよう」	大学2年生 小中高等学校	社会状況を踏まえ、教員を目指す学生に対して、教育改革をはじめとする社会の動きについてしっかりと意識・理解を促した。	令和5年7月13日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 2年生:370名
2年次生 教職講座4(小中高) 「過去問分析ガイダンス」	大学2年生 小中高等学校	採用試験出願まで残り1年半となり、校種や志望する自治体の確認。過去問の分析について、提供し、各自が志望する自治体に合わせた過去問分析を行うよう意識を促した。	令和5年10月12日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 2年生:281名
2年次生 教職講座5(小中高) 「最新動向ガイダンス」	大学2年生 小中高等学校	2023年度の採用試験情報をもとに、採用状況の動きなどを説明。3年次の講座内容を、より実践的に実施するため、受験する自治体・校種など具体的な準備をするよう共有した。	令和6年2月1日(木) 10:00～11:40	Zoomにて実施 2年生:209名
3年次生 教職講座1(幼・保) 「Kコーススタートガイダンス」	大学3年生 ≪Kコース≫	教員・保育士採用試験受験に向けた対策講座のスケジュールの確認。志望自治体の実施要項を準備し、試験内容を把握するよう促した。	令和5年4月6日(木) 16:10～17:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:58名
3年次生 教職講座2(幼・保) 「アンガーマネジメント」	大学3年生 ≪Kコース≫	教育実習や採用試験、就職後に感情をコントロールできるよう、行った。	令和5年6月15日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:34名
3年次生 教職講座3(幼・保) 「保育・教育に関する関連法規と専門科目全般」	大学3年生 ≪Kコース≫	保育・教育に関する関連法規の重要性について、説明。	令和5年10月26日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:3名
3年次生 教職講座4(幼・保) 「教育課程と幼稚園教育要領」	大学3年生 ≪Kコース≫	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中核について理解を深める。	令和5年11月30日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:22名
3年次生 教職講座1(小中高) 「Aコーススタートガイダンス」	大学3年生 ≪Aコース≫	教員採用試験受験に向けた対策講座のスケジュールの確認。志望自治体の実施要項を準備し、試験内容を把握するよう促した。	令和5年4月6日(木) 17:10～18:00	大学教育棟2014にて実施 3年生:248名
3年次生 教職講座2(小中高) 「アンガーマネジメント」	大学3年生 ≪Aコース≫	教育実習や採用試験、就職後に感情をコントロールできるよう、行った。	令和5年6月15日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:219名
3年次生 教職講座3(小中高) 「県別学修ガイダンス」	大学3年生 ≪Aコース≫	志望する自治体別に、教員採用試験の内容や過去問の学修について説明会を実施	令和5年11月4日(土) 9:00～16:30	Zoomにて実施 3年生:200名
3年次生 教職講座4(小中高) 「教員就職直前ガイダンス」	大学3年生 ≪Aコース≫	2024年夏の教員採用試験の直前対策として、教育時事を中心に主要な教育トピックを確認。教育時事の必出ポイント、重要ポイントを整理し、第1次、第2次の面接試験への準備を合わせてすすめる。	令和6年3月21日(木) 動画配信	動画配信
4年次生 教職講座1(幼・保) 「教師・保育者になる学生に向けて①」	大学4年生 教員・保育士 就職予定者	現役の園長による就職後、求められる力や支援等の説明。	令和5年12月7日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 4年生:66名
4年次生 教職講座1(小中高) 「教師・保育者になる学生に向けて①」	大学4年生 教員就職予定者	「教師1年目がハッピーになるテクニク」の著書による講座を行った。教員就職に向けた不安緩和やテクニクについて、説明。	令和5年12月7日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 4年生:170名
4年次生 教職講座2 「教師・保育者になる学生に向けて②」	大学4年生 教員・保育士 就職予定者	文部科学省の答申や中教審答申をもとに、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)が意味するものについて、説明。	令和5年12月21日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 4年生:220名
4年次生 教職講座3 「教師・保育者になる学生に向けて③」	大学4年生 教員・保育士 就職予定者	特別講師として、玉川大学卒業生の現役学校教員による講義を行った。児童・生徒に対する授業の仕方や指導方法、保護者対応など、教育現場に出るにあたっての不安を解消。	令和6年1月11日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 4年生:196名
4年次生 教職特別講座1(幼・保) 「公立集中対策講座」	大学4年生 ≪Aコース≫	公立の幼稚園・保育所の採用試験に向けた集中対策講座の行った。	令和5年4月～11月	経塚オフィス棟にて実施
4年次生 教職特別講座2(幼・保) 「合格者ガイダンス」	大学4年生 (幼・保) ≪Aコース≫ 正規名簿登載者	教員・保育士の名簿登載者に向けた対策講座。提出する書類の確認。赴任校面接に向けた準備や心構え、教師・保育者として準備すべき教材研究などについての確認。	令和6年1月25日(木) 13:00～14:50	経塚オフィス棟にて実施
4年次生 教職特別講座1(小中高) 「公立学校1次試験対策講座」	大学4年生 ≪Aコース≫	第1志望の自治体のみの対策。1次試験に集団面接・集団討議等の実施がある自治体を第1志望としている受験者を対象に、試験前に集団対策講座。	令和5年4月12日(水) ～6月30日(金)	対面・オンラインの併用にて実施
4年次生 教職特別講座2(小中高) 「公立学校2次試験対策講座」	大学4年生 ≪Aコース≫ 1次試験合格者	第1志望の自治体のみの対策。1次試験合格者を対象に、2次試験に個人面接・集団面接・集団討議等の実施がある自治体の対策講座を行った。	令和5年7月14日(金) ～9月1日(金)	対面・オンラインの併用にて実施
4年次生 教職特別講座3(小中高) 「合格者ガイダンス」	大学4年生 ≪Aコース≫ 正規名簿登載者	教員の名簿登載者に向けた対策講座を行った。これから各自自治体に提出する書類の確認。赴任校面接に向けた準備や心構え、教員として準備すべき教材研究などについての確認。	令和5年11月30日(木) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:198名
4年次生 教職特別講座(小中高) 「臨時的任用教員ガイダンス (1次試験不合格者向け)」	大学4年生 ≪Aコース≫	臨時的任用教員に関する説明会を開催。今後の進路、臨採の仕組み、今すべき取組みについて、確認と説明。	令和5年8月17日(木) 17:10～18:00	Zoomにて実施
4年次生 教職特別講座(小中高) 「臨時的任用教員ガイダンス (2次試験不合格者向け)」	大学4年生 ≪Aコース≫	臨時的任用教員に関する説明会を開催。今後の進路、臨採の仕組み、今すべき取組みについて、確認と説明。	令和5年10月26日(木) 17:10～18:00	Zoomにて実施

論作文対策講座				
講座・ガイダンス名	対 象	内 容	開催日時	実施方式
1年次生 第1回論作文基礎講座	大学1年生	3回の講座をとおして、論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第1回は、講義「論作文の書き方①」を行った。	令和5年12月7日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:466名
1年次生 第2回論作文基礎講座	大学1年生	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第2回は、講義「論作文の書き方②」+執筆①に取り組む。執筆1は、赤字添削・評価を行い、後日返却を行う。	令和5年12月21日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:425名
1年次生 第3回論作文基礎講座	大学1年生	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第3回は、講義「論作文の書き方③」+執筆②に取り組む。執筆2は、赤字添削・評価を行い、後日返却を行う。	令和6年3月14日(木) 10:00～11:40	大学教育棟2014にて実施 1年生:381名
2年次生 第1回論作文基礎講座	大学2年生	3回の講座をとおして、論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第1回は、講義「論作文の書き方①」を行った。	令和5年5月25日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:444名
2年次生 第2回論作文基礎講座	大学2年生	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第2回は、講義「論作文の書き方②」+執筆①に取り組む。執筆1は、赤字添削・評価を行い、後日返却を行う。	令和5年7月6日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:431名
2年次生(幼・保) 第3回論作文基礎講座	大学2年生	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第3回は、講義「論作文の書き方③」+執筆②に取り組む。執筆2は、赤字添削・評価を行い、後日返却を行う。	令和5年10月12日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生(幼・保):31名
2年次生(小中高) 第3回論作文基礎講座	大学2年生	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第3回は、講義「論作文の書き方③」+執筆②に取り組む。執筆2は、赤字添削・評価を行い、後日返却を行う。	令和5年11月2日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生(小中高):244名
3年次生 第1回論文実践講座	大学3年生 ≪A・Kコース≫	2年次の基礎講座で習得した論作文の書き方を復習。「論作文の書き方①+執筆①」を行った。「執筆①」は各指導教員より、個別指導を行った。	令和5年4月20日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:269名
3年次生 第2回論文実践講座	大学3年生 ≪A・Kコース≫	前回の講義等を踏まえ、「論作文の書き方①」の復習。新たな課題について、「論作文の書き方②+執筆②」を行った。「執筆②」は各指導教員より、個別指導を行った。	令和5年6月1日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:277名
3年次生 第3回論文実践講座	大学3年生 ≪A・Kコース≫	志望する自治体の字数・制限時間に応じた講座を行った。「(自治体ごとの)論作文の書き方①+執筆①」を行った。「執筆①」は自治体・校種に応じた指導教員による個別指導を行った。	令和5年7月20日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:235名
3年次生 第4回論文実践講座	大学3年生 ≪A・Kコース≫	志望する自治体の字数・制限時間に応じた講座を行った。「(自治体ごとの)論作文の書き方②+執筆②」を行った。「執筆②」は自治体・校種に応じた指導教員による個別指導を行った。	令和5年9月21日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:219名
3年次生 第5回論文実践講座	大学3年生 ≪A・Kコース≫	志望する自治体の字数・制限時間に応じた講座を行った。「(自治体ごとの)論作文の書き方③+執筆③」を行った。「執筆③」は自治体・校種に応じた指導教員による個別指導を行った。	令和5年11月9日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:183名
3年次生(小中高) 第6回論文実践講座	大学3年生 ≪Aコース≫	志望する自治体の字数・制限時間に応じた講座を行った。「(自治体ごとの)論作文の書き方④+執筆④」を行った。「執筆④」は自治体・校種に応じた指導教員による個別指導を行った。	令和6年1月18日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:173名
3年次生(幼・保) 第6回論文実践講座	大学3年生 ≪Kコース≫	志望する自治体の字数・制限時間に応じた講座を行った。「(自治体ごとの)論作文の書き方④+執筆④」を行った。「執筆④」は自治体・校種に応じた指導教員による個別指導を行った。	令和6年2月1日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:13名

面接対策講座				
講座・ガイダンス名	対 象	内 容	開催日時	実施方式
2年次生 面接基礎講座	大学2年生	面接試験における面接票の書き方、面接の基本動作、心構えを学ぶ。面接票の提出後、面接担当教員と面接票の内容や進路についての個別相談会を行った。	令和5年11月23日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施
3年次生 第1回面接対策講座	大学3年生 ≪A・Kコース≫	面接実践講座として3回の演習を通して、面接試験における面接票の書き方、面接の基本動作、心構えを学ぶ。第1回目は個人面接を中心に演習の行った。	令和5年6月8日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施
3年次生 第2回面接対策講座	大学3年生 ≪A・Kコース≫	前回の対策実施時に回収した面接票の返却・指導。改めて、基本である個人面接を中心に演習を実践。	令和5年6月29日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施
3年次生 第3回面接対策講座	大学3年生 ≪A・Kコース≫	総仕上げとして、これまでの演習内容を振り返る。個人面接の総仕上げを目標に行った。また、集団討論・集団面接等の実践に触れる。	令和5年10月19日(木) 13:00～14:50	大学教育棟2014にて実施

教員・保育士採用試験模擬試験				
講座・ガイダンス名	対 象	内 容	開催日時	実施方式
1年次生 トライアル模擬試験 【教職教養】	大学1年生	教職講座2「学修スタートガイダンス」内にて、【教職教養】の導入として、模擬試験を行った。	令和5年6月1日(木)	自宅受験にて実施 1年生:539名
1年次生 2023年模擬試験 【教職教養・専門教養】	大学1年生	教員採用試験に向けた採用試験模擬試験を行った。 【教職教養】の模試を通して、日々の学修成果を図る。	令和5年9月15日(木)	大学教育棟2014にて実施 1年生:288名
2年次生 トライアル模擬試験 【教職教養】	大学2年生	教職講座2「学修スタートガイダンス」内にて、【教職教養】の導入として、模擬試験を行った。	令和5年4月20日(木)	自宅受験にて実施 2年生:318名
2年次生 2023年模擬試験 【一般・教職・専門教養】	大学2年生 【幼小中高】	教員採用試験に向けた模擬試験を行った。【一般教養】【教職教養】【専門教養】より、学生が出願する自治体の傾向に合わせた科目選択を行った。	令和5年9月23日(木)	大学教育棟2014にて実施 2年生:130名
2年次生 保育士就職模擬試験 実務教育出版	大学2年生 【保+幼】	保育士や幼稚園教員として、就職を希望する学生向けの模擬試験を実施。	令和5年9月23日(木)	大学教育棟2014にて実施 2年生:31名
3年次生 2023年模擬試験 【一般・教職・専門教養】	大学3年生 《Aコース》	教員採用試験に向けた模擬試験。【一般教養】【教職教養】【専門教養】より、学生が出願する自治体の傾向に合わせた科目選択を行った。	令和5年4月22日(土)	大学教育棟2014にて実施 3年生:161名
3年次生 保育士就職模擬試験 実務教育出版	大学3年生 《Kコース》	保育士や幼稚園教員として、就職を希望する学生向けの模擬試験を実施。	令和5年4月22日(土)	大学教育棟2014にて実施 3年生:23名
3年次生 ブレ模試 【一般・教職・専門教養】	大学3年生 《A・Kコース》	教員採用試験に向けた模擬試験。【一般教養】【教職教養】【専門教養】より、学生が出願する自治体の傾向に合わせた科目選択を行った。	令和5年10月21日(土)	大学教育棟2014にて実施 3年生:59名
4年次生 2023年模擬試験 【一般・教職・専門教養】	大学4年生 《Aコース》	教員採用試験に向けた模擬試験。【一般教養】【教職教養】【専門教養】より、学生が出願する自治体の傾向に合わせた科目選択を行った。	令和5年4月22日(土)	大学教育棟2014にて実施 4年生:210名
4年次生 保育士就職模擬試験 実務教育出版	大学4年生 《Aコース》	保育士や幼稚園教員として、就職を希望する学生向けの模擬試験を実施。	令和5年4月22日(土)	大学教育棟2014にて実施 4年生:2名

教育委員会等による学内説明会				
講座・ガイダンス名	対 象	内 容	開催日時	実施方式
私立学校就職ガイダンス 株式会社ブレインアカデミー	大学2～4年生 大学院生	私立学校（小中高）での教員就職を目指す学生を対象に、求人の仕組みや確認方法、公立学校・私立学校の違いについて、説明。	令和5年5月11日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 4年生:39名 3年生:27名
私立学校就職ガイダンス 株式会社ブレインアカデミー	大学1～4年生 大学院生	私立学校（小中高）での教員就職を目指す学生を対象に、求人の仕組みや確認方法、公立学校・私立学校の違いについて、説明。	令和5年11月2日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 4年生:2名 3年生:11名 1年生:390名
学内説明会・かながわ ティーチャーズカレッジ 神奈川県総合教育センター	大学1～4年生	当年度入塾予定の「かながわティーチャーズカレッジ」採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布。最新情報・試験内容等の説明。出願の注意事項を確認する。	令和5年4月19日(水) 17:10～18:10	大学教育棟2014にて実施 4年生:2名 3年生:12名 2年生:9名
学内説明会・ よこはま教師塾アイカレッジ 横浜市教育委員会 教育センター	大学1～3年生	当年度入塾予定の「よこはま教師塾アイカレッジ」採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布。最新情報・試験内容等の説明。出願の注意事項を確認する。	令和5年5月24日(水) 17:10～18:10	大学教育棟2014にて実施 3年生:4名
学内説明会・ しずおか教師塾 静岡県教育委員会	大学1～3年生	当年度入塾予定の「しずおか教師塾」採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布。最新情報・試験内容等の説明。出願の注意事項を確認する。	令和5年5月10日(水) 17:10～18:10	大学教育棟2014にて実施 3年生:2名
春季学内説明会 茨城県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月10日(月) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:11名 3年生:4名 2年生:1名 通信:2名
春季学内説明会 埼玉県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月6日(木) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:12名 3年生:4名 2年生:3名
春季学内説明会 さいたま市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月18日(火) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:6名 3年生:2名 2年生:2名 通信:1名

春季学内説明会 千葉県・千葉市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月12日(水) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:19名 3年生:14名 通信:1名
春季学内説明会 神奈川県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月11日(火) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:38名 3年生:13名 2年生:8名 院生:1名 通信:5名
春季学内説明会 横浜市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月14日(金) 17:10～18:40	大学教育棟2014にて実施 4年生:32名 3年生:9名 2年生:8名 院生:1名 通信:2名
春季学内説明会 川崎市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月4日(火) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:11名 3年生:4名 2年生:3名 通信:3名
春季学内説明会 相模原市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月21日(金) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:13名 3年生:8名 2年生:4名 通信:4名
春季学内説明会 長野県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月17日(月) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:6名 3年生:2名 2年生:2名 通信:1名
春季学内説明会 鹿児島県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年5月10日(水) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施
秋季学内説明会 茨城県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月24日(金) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 3年生:4名 2年生:2名 1年生:5名
秋季学内説明会 埼玉県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月29日(水) 17:10～18:25	大学教育棟2014にて実施 3年生:4名 2年生:8名 1年生:8名 院生:1名
秋季学内説明会 さいたま市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月22日(水) 17:10～18:20	大学教育棟2014にて実施 3年生:4名 2年生:4名 1年生:14名
秋季学内説明会 千葉県・千葉市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月1日(水) 17:10～18:10	大学教育棟2014にて実施 3年生:5名 2年生:11名 1年生:8名 通信:1名
秋季学内説明会 東京都教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年12月15日(金) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 3年生:9名 2年生:44名 1年生:15名 通信:2名
秋季学内説明会 神奈川県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年12月8日(金) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 3年生:12名 2年生:39名 1年生:43名 通信:2名
秋季学内説明会 横浜市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月15日(水) 17:10～18:40	大学教育棟2014にて実施 4年生:1名 3年生:12名 2年生:32名 1年生:22名 通信:3名
秋季学内説明会 川崎市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月8日(水) 17:10～18:10	大学教育棟2014にて実施 3年生:3名 2年生:6名 1年生:2名
秋季学内説明会 相模原市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年10月25日(水) 17:10～18:10	大学教育棟2014にて実施 3年生:5名 2年生:9名 1年生:10名 通信:2名

秋季学内説明会 石川県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月28日(火) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 3年生:1名 2年生:1名
秋季学内説明会 山梨県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年12月13日(水) 17:10～18:10	大学教育棟2014にて実施 2年生:3名
秋季学内説明会 長野県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年10月10日(火) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 3年生:3名 2年生:4名 1年生:3名
秋季学内説明会 静岡県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月17日(金) 17:10～18:20	大学教育棟2014にて実施 3年生:1名 1年生:1名
秋季学内説明会 浜松市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年10月24日(火) 17:10～18:20	大学教育棟2014にて実施 3年生:1名 1年生:3名
秋季学内説明会 京都市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年12月1日(金) 17:10～18:20	オンラインにて実施 2年生:3名
秋季学内説明会 特別区人事・厚生事務組合	大学1～4年生	幼稚園教員の就職を希望する学生を中心に、特別区人事厚生組合の教員採用選考に関する学内説明会を行った。「特別区とは」や採用選考の説明、現役幼稚園教員による仕事内容の紹介を行った。	令和5年11月16日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 4年生:2名 3年生:7名 2年生:37名 1年生:43名
秋季学内説明会 横浜市役所	大学1～4年生	保育士の就職を希望する学生を中心に、保育士採用選考に関する学内説明会を行った。市の取り組みや採用選考の説明、現役保育士による仕事内容の紹介を行った。	令和5年11月16日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:15名 2年生:43名 1年生:34名

その他プログラム				
講座・ガイダンス名	対 象	内 容	開催日時	実施方式
学外教職講座 『じぶんゼミ@一般教養講座』	主に大学2年生	効果的な教材の活用・取り組みにて知識の定着を図る。領域:国語・英語・社会・数学・理科・芸術・家庭・保体・時事・環境・情報	(有料)自主学習教材	2年生:3名
学外教職講座 『じぶんゼミ@教職教養講座』	主に大学1～2年生	『教職教養講座』では、教職教養の頻出・必出領域である「教育心理」「教育原理」「教育時事」「教育法規」「教育史」について、外部の各教科の専門講師によるオンライン講義と自学自習との組み合わせた講座を行った。	(有料)講義配信 & 自主学習教材	2年生:7名 1年生:72名
学外教職講座 『じぶんゼミ@専門教養講座(小学校)』	主に大学1年生	効果的な教材の活用・取り組みにて実践力を磨く。知識を整理してインプット、問題演習でアウトプットを繰り返しながら確実に実力アップを図り、効率よく学習を進める。	(有料)自主学習教材	2年生:3名 1年生:28名
学外教職講座 『じぶんゼミ@専門教養講座(中高国語)』	主に大学1年生	効果的な教材の活用・取り組みにて実践力を磨く。知識を整理してインプット、問題演習でアウトプットを繰り返しながら確実に実力アップを図り、効率よく学習を進める。	(有料)自主学習教材	1年生:5名
学外教職講座 『じぶんゼミ@専門教養講座(中高社会)』	主に大学1年生	効果的な教材の活用・取り組みにて実践力を磨く。知識を整理してインプット、問題演習でアウトプットを繰り返しながら確実に実力アップを図り、効率よく学習を進める。	(有料)自主学習教材	1年生:12名
学外教職講座 『じぶんゼミ@専門教養講座(中高英語)』	主に大学1年生	効果的な教材の活用・取り組みにて実践力を磨く。知識を整理してインプット、問題演習でアウトプットを繰り返しながら確実に実力アップを図り、効率よく学習を進める。	(有料)自主学習教材	1年生:3名
学外教職講座 『じぶんゼミ@専門教養講座(中高保健体育)』	主に大学1年生	効果的な教材の活用・取り組みにて実践力を磨く。知識を整理してインプット、問題演習でアウトプットを繰り返しながら確実に実力アップを図り、効率よく学習を進める。	(有料)自主学習教材	1年生:2名
第1回日本語検定 《準会場実施》(2～4級)	全学年	教員・保育士を目指す学生を中心とし、全学部の希望者を対象に行った。	令和5年6月9日(金) 17:10～18:30	2級:5名 3級:10名
第2回日本語検定 《一般会場のみ実施》(1～4級)	全学年	教員・保育士を目指す学生を中心とし、全学部の希望者を対象に行った。	令和5年11月11日(土)	2級:1名 3級:4名

2025年度版

コレ一冊で完璧！

必出テーマで抑える



教員採用試験のための

論文 & 面接対策



合格答案 & 合格回答

〈課題の観点〉 〈質問一覧〉

付き



玉川大学教師教育リサーチセンター編

近年の教員採用試験では「人物重視」が進んでいます。
論作文と面接対策が合否のカギを握ります。対策の根幹は一つ。
本書で「教師の資質・能力」「いじめ」「個別最適な学び」
など教育トピックの理解を深めてください。
巻頭特集の「これまで、そしてこれからの学校教育を考えよう」では
これからの時代の「学力」についての考え方（「学力観」）を、
巻末特集では「学習指導要領の改訂のポイント」及び「学習評価」、
中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」のポイントについて
まとめました。これらを文章で書けば論作文の「合格答案」に。
意見としてまとめれば面接の「合格回答」に。
一冊で、論作文・面接対策は完璧です！

幼稚園教員、
保育士対策
も充実！

時事通信社

第5回 教師・保育者の集い



基調講演

「子どもの変化を捉える」

＜講師＞ 教育学部 教授

高島 二郎 氏



情報交換会

教師の絆、世代を超えて交流しませんか？

2023年6月11日(日) 10:00～12:00

場所: 経塚オフィス棟 (先着40名まで対面可能)

オンライン(zoom)
参加可能

申込: 本学ホームページまたはQRコード



第 6 回

コスモス祭
初日

教師・保育者の集い

2023年 11/11(土) 10:30~12:30

場所 KEYAKI 2 階

講 演



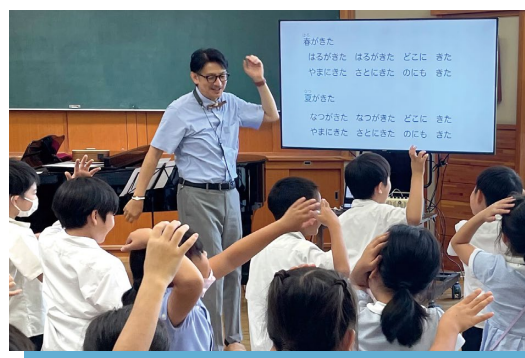
「子どもがまん中の音楽教育」

～ウクレレやピアノで歌いましょう～

講師

教育学部乳幼児発達学科

朝日公哉 先生



情報交流会

教師の絆・玉川の絆

世代を超えて交流しませんか？

全国に 1 万人いるといわれている

玉川大学卒業の教師・保育者。

教育・保育現場で活躍されている

皆さんで交流しませんか？

申込方法

※事前申込制

本学ホームページ
または QR コード
よりお申込みくだ
さい。



私立大学の特色ある教職課程事例集 V

2021 年 10 月

一般社団法人全国私立大学教職課程協会

教職課程受講1年生全員への参観実習の導入

玉川大学

参観実習は、1年次教職課程受講者（例年約650名）を対象に、教育ボランティア、教育インターンシップ、3年次での教育実習事前指導、4年次での教育実習に先立ち、教える立場、教師の目線から、学校の日を体験することで、学生の教育現場への理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに、進路選択の機会を与えることを目的に実施している。その概要を報告し、今年度は例年の方法で実施することができなかったため、Webによる参観実習を実施したことについても、併せて報告する。

1. 本学の教員養成の特徴

本学の教員養成における特徴は、次の3点があげられる。一つは、教員養成における単位の実質化への取り組みとして、半期履修単位16単位CAP制度の中で全学教職課程カリキュラムを展開していること。二つ目は、4年間を通した教職課程指導・支援体制により教員養成が行われていること。三つ目は、教員養成の質向上に向けた教職課程の全学体制による組織の運営（教師教育リサーチセンターによる全学学生支援と研究活動の推進）がなされていることである。

教職課程の全学体制による組織の運営では「質の高い教員養成」と「教師教育学の研究活動の推進」のため、教師教育リサーチセンターを設置し、全学の教員養成に関する学生支援、研究活動支援を行っている。研究活動支援においては、研究活動のみならず、教育委員会との連携対応、教員免許状更新講習、紀要・年報の発行、教師教育フォーラムの開催など、多岐にわたる活動が展開されている。学生支援においては、教育実習、保育実習、介護等体験などの手続きを始め、教員免許状の一括申請等の申請業務のほか、キャリア支援、教員就職支援や教員採用試験対策講座等を行っている。

4年間を通した教職課程指導・支援体制における学生支援について、「質の高い教員養成」のためには1年次の教職課程支援が必要不可欠である。現在本学では約2300名の学生が1年次から教職課程受講支援プログラムのもとで学んでおり、大学のカリキュラムのほか、教育現場体験プログラムと教員採用試験対策プログラムが行われている。

2. 教職課程受講支援プログラムの中での参観実習の位置づけ

本学の教員養成の特徴の一つである4年間を通した教職課程指導・支援体制において必要不可欠なものが、教職課程受講支援プログラムである。このプログラムは教職キャリアプランに沿って4年間を通した内容で構成されている。

本学の教職課程を履修する学生の大多数は、「教師になりたい」「ぜひ教員免許状を取得したい」との強い意志を持って大学を選択した。この教職に就こうというモチベーションを持続させるためには、1年次からの教職課程支援が重要であり、大学4年間でのトータル的な教職課程受講支援プログラムの実践が重要であるとの考えに基づき、4年間を通した教職課程受講支援プログラムを構築した。

このうち1年次のプログラムの概要は次のとおりである。

- ・教職の意義と基礎理論を学び、教養を身に付ける
- ・教職課程の受講に関する4年間の流れを理解して教員になるための動機づけを行う
- ・教職課程ガイダンスの実施、模擬試験（一般教養を中心に）等
- ・参観実習

参観実習は、1年次教職課程受講者全員（令和元年度は約630名）を対象に、教育ボランティア、教育インターンシップ、3年次の教育実習事前指導、4年次の教育実習に先立ち、教える立場、教師の目線から、学校の1日を体験することで、学生の現場への理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに、進路選択の機会を与えることを目的に実施している。

教員養成にとって重要な実践的指導力を身に付けるための第一歩であり、また、教員の目線で学校現場を見ることは、職業としての教員の仕事を理解することにもなり、教員という仕事と自分の適性を見つめなおすよい機会となる。

3. 参観実習の概要

参観実習は、近隣の市教育委員会に依頼し、その管轄下の公立小学校・中学校で受け入れをしていただき、1校当たり5～10名の学生が配当され、11月中旬（教育学部は6月下旬）に行われる。

参観実習の流れの概略は、以下のとおりである。

・事前指導（計3回）

訪問する学校の地域の特徴、教育内容、学校の特色並びに参観実習にあたって注意すべき点について講話を行う。また、教師教育リサーチセンター職員が、参観実習の趣旨、参加にあたっての心構え、概要、事前準備、諸注意事項について説明する。

・プロフィール文書作成（後に記入見本を掲載）

学生各自で自己紹介、教職への志望動機、参観実習での課題、さらには、受け入れ校への質問内容を作成する。このプロフィール文書は、引率教員の添削後に教師教育リサーチセンターより参観実習受け入れ校へまとめて送付する。

・参観実習受け入れ校との事前打ち合わせ

学生の代表者（班長）が受け入れ校を事前に訪問し、参観実習の事前打ち合わせを行う。なお、班長は受け入れ校との打ち合わせの内容をもとにして、参観実習計画書を作成し、引率教員ならびに班員に配布する。

・参観実習当日

学生は、8時に実習校に集合し、校長先生、教頭先生による学校紹介および講話を聴く。終了後、児童・生徒への紹介を行い、午前中は授業参観、昼食（給食）、昼休み、午後は総括指導（質疑応答を含む）という流れで各学校において進められる。ただし、学校によって若干の違いはある。

★スケジュール例

時間	
8:00	実習校に集合
8:30～8:45	児童・生徒への実習生の紹介等
8:45～9:30	校長先生、教頭・副校長先生等より学校の紹介及び講話
9:30～12:00	2・3・4校時、授業の参観実習
昼食（給食・弁当）	
13:00～15:00	総括指導（質疑応答含む）

※各学生は2～4校時を通して特定の学年・クラスに入り参観する

・報告書の作成

実際の教育活動、教師の任務、児童・生徒の様子、学校の雰囲気、環境、今後この参観実習をどう生かすかなどについて記載し、プロフィールの文書作成と同様に、引率教員の添削後、教師教育リサーチセンターより受け入れ校にまとめて送付する。

また、班長は、引率教員に指導を受けて、参観実習終了後1週間以内に実習校の校長先生宛にお礼の手紙（封書・手書き）を送付している。

【その他の対応】

・麻疹・風疹予防接種の抗体確認

参加にあたり、麻疹・風疹の抗体を確認し、抗体価が不足している場合は、予防接種を実施している。これは参観実習をきっかけとしているが、今後様々な教育現場や社会福祉施設等で教育活動を行うにあたり、活動先・実習先の方々への感染症に対する配慮と、自らの感染による教育活動の中止等の事態を避けるための対策としている。

・賠償責任保険

学生が参観実習中またはその往復時に、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したこと等による損害賠償責任を負担することによって被る損害賠償に備え保険に加入している。また、本人がケガをした場合の保険は、入学時に加入している。

このような1日の参観実習は、実習校、教育委員会との連携によって実現するが、4年一貫した教職課程の試みとしては、重要な要素となっている。受け入れ校からも、実習校と学生が継続したかわりを持つきっかけとなっていると、1年次からの教職に目的をもって取り組めるよい機会である、といった非常に良い評価を得ている。

4. 令和2年度のWeb参観実習

令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮して、実際に現場を訪問することができないことから、形式を変更し、Webによる実施とした。地元である町田市教育委員会のご協力により、小学校、中学校の1日をビデオ撮影させていただき、その映像を視聴することとした。ここでは実施概要について説明する。

【Web参観実習当日の流れ】

- ・9:30～10:40 「教員の1日（小学校編）」（小学校校長経験者による解説、質疑応答あり）
- ・10:50～12:00 「教員の1日（中学校編）」（中学校校長経験者による解説、質疑応答あり）

- ・ 13:00～13:50 東京都教職員研修センターの講話
- ・ 14:00～15:00 学部・学科教職担当教員による質疑応答・総括指導

例年は現場に伺えるものの、それぞれ訪問した校種しか見ることができないが、小学校・中学校両方の1日の活動を見ることができ、特に小学校・中学校の複数免許を取得する学生にとって、貴重な体験となった。

5. 今後の課題

事前指導における指導内容のさらなる検討、参観実習校との連携方法の検討などがあげられる。

また、参観実習のあとに続く実践（学校ボランティア、教育インターンシップ、教育実習等の現場体験活動）の促進において、同一の学校での対応が可能となるような流れが整えられれば、実践的指導力の向上が望めるのではないかと考えている。しかしながら、大学の授業との関係から、空き時間の確保が厳しいこともあり、授業と現場体験とのバランスをとることが課題とも言える。

【参考】

参観実習生プロフィール【記入例・記入上の注意】

参観実習校名: ●●●市立 ●●● 中学校		令和 元 年 月 日記	
文 学部 国語教育 学科 1年5組10番	フリガナ タマダイ タロウ 氏名 玉大 太郎	写真貼付 縦4cm×横3cm (スナップ写真は駄目) (服装は第1装とする) 男子は上着ネクタイ着用 女子は男子に準じる	
学籍番号 193110001	平成 9 年 4 月 8 日生(19歳)		
〒 194-0041 東京都町田市玉川学園6-1-1 コーポ玉川学園301	連絡先(携帯電話): 090 - 1234 - 5678	取得希望免許状: ※自分が参観実習へ行く校種(主免)の免許状を記入す 小学校…小学校教諭一種免許状 中・高等学校…中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(公民)	
興味・関心のある科目: 特別支援教育、近代史(日本)、安全教育 等 自分の専攻や教職に関係する科目を明記する	特技: 剣道(2段) 水泳		
大学、もしくは高等学校までのクラブ活動: 大学の場合…体育会男子バスケットボール部、文化会吹奏楽団 高校までの場合…硬式野球部、女子バスケットボール部 等			
ボランティア活動経験等: 町田市立第〇小学校(2019年4月～) ※ない場合はなしと記入			
教職志望動機: 数ある職業の中から教職を志望する理由やきっかけ どのような教師になりたいか等 4行目までは記入すること。記入したら必ず読み返すこと。			
今回の参観実習での課題 参観実習を通して、教師としての視点で特に学びたい、 奮起したい点について 4行目までは記入すること。記入したら必ず読み返すこと。			
質問事項 自分が教職を目指すうえで先生方に聞きたい項目を 3～5つ程度記入する。 ・ 教師を目指す理由やそのために努力したこと ・ 学級や学校経営をしていく上で工夫していること			
備考 参観実習先に家族が関係している場合などがあれば記入する。何もない場合、なしと記入。 アレルギーがある場合も記入すること。			

※ 本書類に記入されている個人情報は、参観実習の内容に関し、その目的達成に必要な範囲内で利用することとし、その範囲を超えての利用はいたしません。

資料 3－2－2

私立大学の特色ある教職課程事例集Ⅲ

2017年 9 月

一般社団法人 全国私立大学教職課程協会

実践的指導力の向上を目指した 「教育実習指導に関する協議会」の実施

玉川大学

玉川大学では、教育実習を円滑かつ効果的に実施するため、町田市をはじめとして、多くの学生を教育実習でお引き受けいただいている地区の、校長会の代表の先生方との協議会を実施している。この協議会では、教育実習内容や指導方法、教育実習生に求められる資質能力などの共通理解を図り、教育実習生の指導において不十分な点の改善にいかしている。本稿では、全学体制における教職課程運営の一つとして、教師教育リサーチセンターが主管として実施した「教育実習指導に関する協議会」の概要を報告する。

1. 本学の教職課程と支援体制

平成28年度入学生における本学の教職課程認定は、6学部12学科および通信教育部が認定されており、教職課程受講学生（平成28年5月現在）は、1年生667名、2年生637名、3年生543名、4年生473名、合計2,320名（通学課程）、通信教育課程では約4,000名となっている。教員免許状について、文学部、農学部、工学部、芸術学部、リベラルアーツ学部では、学部教育の特徴を生かした中学校、高等学校の教員免許状を取得することができる。教育学部では、幼稚園、小学校、中学校（社会、保健体育）、高等学校（公民、保健体育）の教員免許状を取得することができ、乳幼児発達学科においては、幼稚園の教員免許状の他に、保育士の資格を取得することも可能となっている。また、文学部、農学部、工学部、芸術学部、リベラルアーツ学部では、小学校教諭2種免許状を取得することも可能なプログラムを実施しており、中学校・高等学校教諭1種免許状に加えて、卒業と同時に小学校教諭2種免許状を取得することも可能となっている。

教職課程受講学生への支援体制は、4年間一貫した教職課程受講支援プログラムに基づき、質の高い教員養成に向けた全学体制による支援を行っており、教師教育リサーチセンターはその担当部署としての責務を担っている。

以下で具体的に説明をする「教育実習指導に関する協議会」においても、日程調整、出席者への連絡、資料作成等も教師教育リサーチセンターが担当している。

2. 教育実習と「教育実習指導に関する協議会」の概要

本学では、近隣の小学校、中学校、高等学校の協力のもと、教職課程履修学生の教育実習を行っている。一通りの実習が終了した時点で、教育実習を受け入れていただいた学校に、教育実習の状況と諸課題を把握することを目的として、「玉川大学教育実習に関するアンケート」（資料1参照）を実施している。

アンケート集計結果をもとに、各地区の校長会の先生方と本学の教職担当教員等とによる「教育実習指導に関する協議会」を開催し、教育現場での学生の実態と、大学における教職指導についての合致点、不足の部分等を探り、次の教育実習への準備、研鑽の機会としている。

◆「玉川大学教育実習に関するアンケート」質問項目

1. 今年度本学の実習生を引き受けられて感じられた、大学側に指導を充実あるいは改善して欲しい事柄についてお書きください。
2. 実習生を受け入れるにあたり大学側に対応ならびに改善して欲しい事柄についてお書きください。
3. 玉川大学の教育実習指導で、何かお気づきの点がございましたらご自由にお書きください。

〈資料1〉

玉川大学教師教育リサーチセンター 行き		FAX:042-739-8857
平成 28 年度 玉川大学 教育実習に関するアンケート		
<調査用紙>		
玉川大学の学生が教育実習で大変お世話になりましたこと、御礼申し上げます。		
学校名：《学校名》	連絡先：《連絡先》	
月がす ご芳名	ご役職・職名	
さて、玉川大学として今年度の教育実習に関する諸問題を洗い出し、次年度の教育実習の改善に繋げたい所存でございます。 つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、下記のアンケートにご協力くださいますようお願いいたします。誠に勝手ながら、平成 28 年●●月●●日(●)までに FAX にてご回答をお願い申し上げます。 ※ご記入頂きました内容は、次年度の教育実習の改善等に利用させていただきますので、忌憚のないご意見・ご提言等をご回答くださいますようお願い申し上げます。		
<<< アンケート調査内容 >>>		
1. 今年度本学の実習生を引き受けられて感じられた、大学側に指導を充実あるいは改善して欲しい事柄についてお書きください。		
2. 実習生を受け入れるにあたり大学側に対応ならびに改善して欲しい事柄についてお書きください。		
3. 玉川大学の教育実習指導で、何かお気づきの点がございましたらご自由にお書きください。		
※ 特に記載事項がない場合でも、調査用紙をご返送くださいますようお願い申し上げます。 ※ アンケート調査について、ご協力ありがとうございました。		

3. 平成28年度の「教育実習指導に関する協議会」実施状況

平成28年度は以下の4市との協議会を実施した。

1) 相模原市

【日 時】平成28年11月29日（火）15：00～16：30

【出席者】小学校校長会 1名、中学校校長会 2名

玉川大学就職担当等教員 5名、教師教育リサーチセンター事務職員 4名

2) 川崎市

【日 時】平成28年11月30日（水）10：00～11：30

【出席者】小学校校長会 3名、中学校校長会 2名

玉川大学就職担当等教員 8名、教師教育リサーチセンター事務職員 4名

3) 横浜市

【日 時】平成28年12月5日（月）10：00～11：30

【出席者】小学校校長会 2名、中学校校長会 2名

玉川大学就職担当等教員 6名、教師教育リサーチセンター事務職員 3名

4) 町田市

【日 時】平成28年12月5日（月）17：30～19：00

【出席者】小学校校長会 3名、中学校校長会 2名

玉川大学就職担当等教員 7名、教師教育リサーチセンター事務職員 4名

協議会の内容としては、本学の教員養成（教育実習指導内容を中心として）に関する取り組みと、その支援体制を報告し、該当年度の教育実習実施状況（教育実習受け入れ校と実施人数）と次年度の予定についても報告している。続いて、各受入校からのご意見として、アンケート集計結果について報告し、その後協議を行っている。

4. 「教育実習指導に関する協議会」でのご意見と改善

1) 協議会での意見内容

アンケート集計結果および協議の中でいただいたご意見では、おおむね教育実習事前指導が徹底され、問題なく実施されたとの評価をいただいている。しかしながら、教育実習生に対する指導、教育実習に臨む態度・姿勢、大学への要望等、一部の学生の状況に関して下記のような意見があった（一部を抜粋）。

- ・教員になるという意欲を強く持って、教育実習に臨んでほしい。
- ・学校ボランティアにもっと積極的に参加してほしい（特に宿泊を伴う行事への参加）。
- ・社会人としてのマナーや挨拶、服装等の指導をお願いしたい。
- ・教育実習先の指導教官や他の教員からのアドバイスや助言を謙虚に受け止める姿勢を持ってほしい。
- ・コミュニケーション能力を身につけてから教育実習に臨んでほしい。
- ・特別支援的な配慮を念頭に置いて教育実習を行ってほしい。
- ・教育実習日誌の記入欄について、検討していただけないか（担当教員の負担感の軽減）。
- ・SNSの取り扱いについて、事前指導で徹底してほしい。
- ・生徒とのかかわりを持つことは重要なことだが、かかわりすぎないよう慎重な行動を心が

けてほしい。

等、大学の事前指導や実習中の指導などにおいて、貴重なご意見をいただいた。

一方、教育実習生受け入れの学校から、下記の発言もあった。

- ・指導担当教員も大変良い勉強になっている。
- ・教育実習生の指導担当教員について、年齢や教員としての経験年数等を配慮したいが、若い教員が担当せざるを得ない場合もある。

2) 協議会での意見を受けての改善施策

例年行っている本協議会において、常に課題として挙げられた項目に、学校ボランティアへの積極的参加がある。特に宿泊を伴う行事への参加を強く望む意見が多かった。

中央教育審議会の答申において『単位の実質化』が示され、多くの大学において授業回数の確保や出席日数の厳密化が進み、宿泊等を伴うボランティアに学生が参加しにくい状況が生じている。しかしながら、学生自身の学びとして非常に効果的であることから、学生から参加に伴う欠席相談も年々増え、本学としても対応に憂慮していた。

このため、下記の施策を実施することとした。

◆「教育ボランティアに伴う欠席届」の運用（平成27年度後期より）

宿泊等を伴うボランティアへの参加による授業の欠席について、セメスター（学期）期間中1回のみ、欠席配慮の対応（レポートの提出、課題による代替え措置、小テスト等）を行う。このため、少しでも多くの学生が宿泊を伴う学校ボランティアへの参加をしやすい環境の改善を図った。

5. 今後に向けて

質の高い教員養成を推進するためには、実践的指導力の養成が不可欠である。その中でも、教育実習については、最も重視すべきものととらえている。重要な教育実習が、どのような状況で行われているのか、課題は何か、大学において改善できることはあるのか等、収集すべき情報は多岐にわたる。このことから、「教育実習指導に関する協議会」の継続は必須である。協議会において得られた課題を一つ一つ解決することは、実践的指導力の向上にもつながり、質の高い教員養成につながっていくことになる。

今後は、協議会実施地域増加の必要性を検討する必要がある。その際には、各教育委員会が実施する教員育成協議会との関連もふまえる必要もあろう。